



デベロッパーガイド

AWS Panorama



AWS Panorama: デベロッパーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

.....	viii
とは AWS Panorama	1
AWS Panorama のサポート終了	2
AWS Panorama の代替方法	2
AWS Panorama からの移行	3
概要	5
よくある質問	6
入門	8
概念	9
AWS Panorama アプライアンス	9
互換性のあるデバイス	9
アプリケーション	10
ノード	10
モデル	10
設定	12
前提条件	12
AWS Panorama アプライアンスの登録と設定	13
アプライアンスソフトウェアをアップグレードする	16
カメラストリームを追加します	17
次のステップ	18
アプリケーションのデプロイ	19
前提条件	19
サンプルアプリケーションをインポートする	20
アプリケーションをデプロイする	21
出力の表示	23
SDK for Python を有効にする	25
クリーンアップ	26
次のステップ	26
アプリケーションの開発	27
アプリケーションマニフェスト。	28
サンプルアプリケーションでのビルド	31
コンピュータービジョンモデルの変更	33
画像の前処理	36
Python 用 SDK によるメトリクスのアップロード	37

次の手順	39
対応モデルとカメラ	40
サポートされているモデル	40
サポート対象カメラ	41
アプライアンスの仕様	42
クォータ	44
アクセス許可	45
ユーザーポリシー	46
サービスロール	48
アプライアンスロールの保護	48
他のサービスの使用	51
アプリケーションロール	52
アプライアンス	53
管理する	54
アプライアンスソフトウェアを更新します。	54
アプライアンスの登録解除	55
アプライアンスの再起動	55
アプライアンスのリセット	56
ネットワーク設定	57
単一ネットワークの構成	57
デュアルネットワーク構成	58
サービスアクセスを構成する	58
ローカルネットワークアクセスの構成	59
プライベート接続	60
カメラ	61
ストリームを削除します。	62
アプリケーション	63
ボタンとライト	64
ステータスライト	64
ネットワークライト	64
電源ボタンとリセットボタン	65
アプリケーションの管理	66
デプロイ	67
AWS Panorama Application CLI をインストールする	67
アプリケーションをインポートします	68
コンテナイメージの構築	69

モデルのインポート	71
アプリケーションアセットをアップロードします	71
AWS Panorama コンソールでアプリケーションをデプロイ	72
アプリケーションのデプロイを自動化する	73
管理	74
アプリケーションを更新またはコピーします。	74
バージョンとアプリケーションを削除します。	74
パッケージ	75
アプリケーションマニフェスト	77
JSON スキーマ	79
ノード	80
エッジ	80
抽象ノード	81
パラメータ	84
Overrides	86
アプリケーションの構築	88
モデル	89
コード内でのモデルの使用	89
カスタムモデルの構築	90
モデルのパッケージ化	92
モデルのトレーニング	93
イメージを構築する	94
依存関係の指定	95
ローカルストレージ	95
イメージアセットの構築	95
AWS SDK	97
Amazon S3 の使用	97
AWS IoT MQTT トピックの使用	97
アプリケーション SDK	99
出力ビデオへのテキストとボックスの追加	99
複数のスレッドの実行	101
インバウンドトラフィックへの対応	104
インバウンドポートの設定	104
トラフィックを処理する	106
GPU を使用する	110
チュートリアル — Windows 開発環境	112

前提条件	112
WSL 2、Ubuntu でインストールする	113
Docker をインストールする	113
Ubuntu の設定	113
次のステップ	115
AWS Panorama API	116
デバイス登録を自動化	117
アプライアンスを管理	119
デバイスを表示	119
アプライアンスソフトウェアを アップグレードする	120
アプライアンスの再起動	121
アプリケーションのデプロイを自動化する	123
コンテナを構築します	123
コンテナをアップロードしてノードを登録します	123
アプリケーションをデプロイする	124
デプロイをモニタリングします	126
アプリケーションの管理	128
アプリケーションの表示	128
カメラストリームの管理	129
VPC エンドポイントの使用	132
VPC エンドポイントの作成	132
アプライアンスをプライベートサブネットに接続する	132
サンプル AWS CloudFormation テンプレート	133
サンプル	137
サンプルアプリケーション	137
ユーティリティスクリプト	138
CloudFormation テンプレート	138
その他のサンプルとツール	139
モニタリング	141
AWS Panorama コンソール	142
ログ	143
デバイスログの表示	143
アプリケーションログの表示	144
アプリケーションログの設定をする	144
プロビジョニングログの表示	145
デバイスからのログ出力	146

CloudWatch メトリクス	148
デバイスメトリクスを使用する	149
アプリケーションメトリクスを使用する	149
アラームの設定	149
トラブルシューティング	151
プロビジョニング	151
アプライアンスの構成	151
アプリケーションの構成	152
カメラストリーム	153
セキュリティ	154
セキュリティ機能	155
ベストプラクティス	157
データ保護	159
転送中の暗号化	160
AWS Panorama アプライアンス	160
アプリケーション	160
その他のサービス	161
アイデンティティ/アクセス管理	162
オーディエンス	162
アイデンティティを使用した認証	162
ポリシーを使用したアクセスの管理	164
AWS Panorama が IAM と連携する仕組み	166
アイデンティティベースのポリシーの例	166
AWS マネージドポリシー	169
サービスにリンクされたロールの使用	171
サービス間の混乱した代理の防止	173
トラブルシューティング	174
コンプライアンス検証	177
人がいる場合に関するその他の考慮事項	177
インフラストラクチャセキュリティ	178
データセンターへの AWS Panorama アプライアンスのデプロイ	178
ランタイム環境	179
リリース	180

サポート終了通知: 2026 年 5 月 31 日、AWS は のサポートを終了します AWS Panorama。2026 年 5 月 31 日以降、AWS Panorama コンソールまたは AWS Panorama リソースにアクセスできなくなります。詳細については、[AWS Panorama 「サポート終了」](#) を参照してください。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。

とは AWS Panorama

AWS Panorama は、オンプレミスのカメラネットワークにコンピュータビジョンを提供するサービスです。AWS Panorama アプライアンスまたは他の互換性のあるデバイスをデータセンターにインストールし、に登録して AWS Panorama、cloud. AWS Panorama works から既存のリアルタイムストリーミングプロトコル (RTSP) ネットワークカメラでコンピュータビジョンアプリケーションをデプロイします。アプライアンスは、[AWS パートナー](#)からの安全なコンピュータビジョンアプリケーション、または Application SDK を使用して自分で構築した AWS Panorama アプリケーションを実行します。

AWS Panorama アプライアンスは、機械学習ワークロードに最適化された強力な system-on-module (SOM) を使用するコンパクトなエッジアプライアンスです。アプライアンスは、複数のビデオストリームに対して複数のコンピュータービジョンモデルを並列実行し、結果をリアルタイムで出力できます。商業および産業環境での使用を想定して設計されており、防塵・液体保護 (IP-62) に対応しています。

AWS Panorama アプライアンスを使用すると、AWS クラウドにイメージを送信せずに、自己完結型のコンピュータビジョンアプリケーションをエッジで実行できます。AWS SDK を使用すると、他の AWS サービスと統合し、それらを使用してアプリケーションからのデータを時系列的に追跡できます。を他の AWS サービスと統合することで、AWS Panorama を使用して以下を実行できます。

- **トラフィックパターンの分析** — AWS SDK を使用して、Amazon DynamoDB の小売分析用のデータを記録します。サーバーレスアプリケーションを使用して、収集したデータを経時的に分析し、データの異常を検出し、将来の行動を予測します。
- **現場の安全に関する警告を受け取る** — 産業現場の立ち入り禁止区域を監視します。アプリケーションが潜在的に危険な状況を検出したら、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) にイメージをアップロードし、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) トピックに通知を送信します。
- **品質管理の向上** — 組立ラインの出力を監視して、要件に適合しない部品を特定します。適合しない部品の画像をテキストとバウンディングボックスで強調表示し、品質管理チームが確認できるようにモニターに表示します。
- **トレーニングデータとテストデータの収集** — コンピュータービジョンモデルが識別できなかったオブジェクトや、モデルの推測に対する信頼性が境界線だったオブジェクトの画像をアップロードします。サーバーレスアプリケーションを使用して、タグ付けが必要な画像のキューを作成します。イメージにタグを付け、それらを使用して Amazon SageMaker AI でモデルを再トレーニングします。

AWS Panorama は、他の AWS のサービスを使用して、AWS Panorama アプライアンスの管理、モデルとコードへのアクセス、アプリケーションのデプロイを行います。AWS Panorama は、他のサービスとやり取りすることなく、可能な限り多くの処理を行います。以下のサービスに関する知識があれば、AWS Panorama 仕組みを理解するのに役立ちます。

- [SageMaker AI](#) – SageMaker AI を使用して、カメラまたはセンサーからトレーニングデータを収集し、機械学習モデルを構築し、コンピュータビジョン用にトレーニングできます。は SageMaker AI Neo AWS Panorama を使用して、AWS Panorama アプライアンスで実行するモデルを最適化します。
- [Amazon S3](#) – Amazon S3 アクセスポイントを使用して、AWS Panorama アプライアンスにデプロイするためのアプリケーションコード、モデル、および設定ファイルをステージングします。
- [AWS IoT](#) – AWS IoT サービス AWS Panorama を使用して、AWS Panorama アプライアンスの状態のモニタリング、ソフトウェア更新の管理、アプリケーションのデプロイを行います。AWS IoT を直接使用する必要はありません。

AWS Panorama アプライアンスの使用を開始し、サービスの詳細については、「[」](#)を参照してくださいの[開始方法 AWS Panorama](#)。

AWS Panorama のサポート終了

慎重に検討した結果、2026 年 5 月 31 日に AWS Panorama のサポートを終了することにしました。AWS Panorama は、2025 年 5 月 20 日以降、新規顧客を受け入れなくなります。2025 年 5 月 20 日より前にサービスにサインアップしたアカウントを持つ既存のお客様は、引き続き AWS Panorama 機能を使用できます。2026 年 5 月 31 日以降、AWS Panorama を使用することはできません。

AWS Panorama の代替方法

AWS Panorama の代替方法に関心がある場合、AWS には購入者とビルダーの両方のオプションがあります。

out-of-the-boxソリューションとして、[AWS パートナーネットワーク](#)は複数のパートナーからのソリューションを提供します。[AWS ソリューションライブラリ](#)のソリューションは、多くのパートナーから参照できます。これらのパートナーソリューションには、ハードウェア、ソフトウェア、Software as a Service (SaaS) アプリケーション、マネージドソリューション、またはニーズに基づいたカスタム実装のオプションが含まれます。このアプローチは、コンピュータビジョン、AI、

アプリケーション開発に関する専門知識を必要とせずに、ユースケースに対応するソリューションを提供します。これにより、通常、AWS パートナーの専門知識を活用することで、価値実現までの時間を短縮できます。

独自のソリューションを構築する場合は、AI ベースのコンピュータビジョンアプリケーションを開発し、エッジでアプリケーションとデバイスを管理するのに役立つ AI ツールとサービス AWS を提供します。[Amazon SageMaker](#) には、フルマネージドのインフラストラクチャ、ツール、ワークフローを使用して、ユースケースの ML モデルを構築、トレーニング、デプロイするための一連のツールが用意されています。[Amazon SageMaker JumpStart](#) には、独自のモデルを構築できるだけでなく、特定のユースケースに合わせて微調整できる [コンピュータビジョンアルゴリズム](#) が組み込まれています。

エッジでデバイスとアプリケーションを管理するために、[AWS IoT Greengrass](#) は IoT デバイス用のアプリケーションをデプロイおよび更新するための、実証済みの安全なソリューションです。サーバーベースの実装の場合、[AWS Systems Manager](#) はサーバーを管理するための一連のツールを提供し、Amazon [EKS Anywhere](#) または [ECS Anywhere](#) はエッジサーバー上のアプリケーションコンテナを管理できます。Amazon は、AWS による [モノのインターネット \(IoT\) の保護](#) ホワイトペーパーの [セクション 4](#) で、エッジデバイスの管理に関するガイドラインと追加のリソースを提供しています。このビルダーアプローチは、AI とデバイス管理の開発を加速すると同時に、正確な要件を満たし、既存のハードウェアおよびソフトウェアインフラストラクチャと統合するソリューションを構築するための完全な柔軟性を提供するツールを提供します。これにより、通常、ソリューションの運用コストが低くなります。

AWS Panorama からの移行

既存のアプリケーションを AWS Panorama から別の実装に移行するには、既存のハードウェアデバイスを置き換え、アプリケーションを AWS Panorama サービスから移行し、新しいソリューションのエッジ管理とセキュリティを実装する必要があります。これらの各領域については、以下で詳しく説明します。

ハードウェアの交換

既存の AWS Panorama アプライアンスは、Nvidia Jetson Xavier プラットフォームに基づいています。ハードウェアは、要件を満たす現行世代の Nvidia Jetson プラットフォーム、またはエッジサーバーに基づいて、同様の [off-the-shelf デバイス](#) に置き換えることができます。ほとんどの AWS Panorama デプロイは同様のデバイスに置き換えることができますが、1 か所で多数のカメラを利用する一部のお客様は、サーバーの方が適しています。

アプリケーションの移行

AWS Panorama 固有の API コールを使用せずに済むように、AWS Panorama アプリケーションを書き直す必要があります。AWS Panorama アプリケーションは、H.264 を使用したリアルタイムストリーミングプロトコル (RTSP) フィードを介したビデオ入力のみをサポートし、これらのビデオ入力は AWS Panorama デバイス SDK のカメラノードを使用して提供されます。

既存のアプリケーションを移植するには、既存のコードをほとんど再利用できるように、AWS Panorama と同様のアプリケーションクラスを実装する必要があります。サンプルコードは、PyAV と OpenCV の両方を使用したこの実装の例を示す [banner-code.zip](#) ファイルにあります。

これは、最小限のコード変更で簡単なアプローチですが、サポートされているビデオストリームのタイプに関して、現在の AWS Panorama ベースの実装と同じ制限が多数あります。

もう 1 つのオプションは、システムリソースをより有効に活用し、新しいアプリケーション機能をサポートするためにアプリケーションを再設計することです。このオプションでは、[GStreamer](#) または [DeepStream](#) を使用して、メディアソースから推論結果、ビジネスロジックへのメディアパイプラインを実装するか、[Nvidia Triton](#) 推論サーバーなど、より機能豊富でパフォーマンスの高い機械学習 (ML) ランタイム実装を使用します。このアプローチでは、より多くのビデオ処理パイプラインを変更する必要がありますが、どちらもより効率的で、より幅広いコーデック、カメラタイプ、その他のセンサーをサポートする柔軟性があります。

エッジ管理とセキュリティ

メディアパイプラインに関係なく、RTSP ストリームのユーザー名とパスワードなど、認証情報用の安全なストアを実装する必要があります。は、アプリケーションのパラメータを安全に保存するさまざまな方法 AWS を提供します。

- [AWS IoT Device Shadow サービス](#)は、アプリケーションに渡されるパラメータを保存し、エッジデバイス上のアプリケーションのステータスを追跡するために使用されます。
- [AWS Secrets Manager](#) は、このような認証情報を保存して、メディアストリームにアクセスするための認証情報をより適切に保護するために使用されます。
- [Amazon EKS](#) または [Amazon ECS](#) を使用する場合は、認証情報やその他のアプリケーションパラメータに安全な [AWS System Manager パラメータストア](#)を使用することもできます。

選択は、アプリケーションのセキュリティ要件と、アプリケーションの実装に使用する予定の他の AWS 製品によって異なります。

AWS Panorama アプライアンスを汎用エッジデバイスに置き換える場合は、アプリケーションに必要なセキュリティ機能を実装し、セキュリティ要件に準拠するようにデバイスを設定する必要があります。は、[AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱](#)でこれに関するガイダンス AWS を提供します。フレームワークは主にクラウドアプリケーションに焦点を当てていますが、ほとんどの原則はエッジデバイスにも適用されます。さらに、[AWS IoT Greengrass V2 ハードウェアセキュリティ統合などの選択したソリューションのハードウェアセキュリティ](#)機能を使用し、選択した OS やデバイスが提供するフルディスク暗号化などのセキュリティ機能を使用する必要があります。

概要

AWS Panorama は 2026 年 5 月 31 日にシャットダウンする予定ですが、は、AWS IoT Greengrass、Amazon EKS、Amazon [Amazon ECS Anywhere](#)、[AWS System Manager](#) などのコンピュータビジョンモデルとデバイス管理サービスを構築するための強力な AI/ML サービスとソリューションを Amazon SageMaker ツールの形式で AWS 提供し、同様のソリューションの開発をサポートします。また、ソリューションを構築する代わりに を購入する場合は、AWS パートナーネットワークのパートナーが提供するさまざまなサービス AWS も提供しています。コード例と実装ガイダンスは、必要に応じて代替ソリューションへの移行に役立つように提供されています。これらのオプションを調べて、特定のニーズに最適なものを決定する必要があります。

詳細については、次のリソースを参照してください。

- [Amazon SageMaker デベロッパーガイド – SageMaker JumpStart](#) で利用できる [モデルの構築方法](#) や [組み込みのコンピュータビジョンアルゴリズム](#) の操作方法に関する詳細なドキュメント。
- [AWS IoT Core デベロッパーガイド](#) - IoT デバイスの接続と管理方法に関する詳細なドキュメント。
- [AWS IoT Greengrass V2 デベロッパーガイド](#) – デバイスで IoT アプリケーションを構築、デプロイ、管理する方法に関する詳細なドキュメント。
- [ECS Anywhere デベロッパーガイド](#) - エッジでの ECS の実行に関する詳細なドキュメント。
- [EKS Anywhere ベストプラクティスガイド](#) - エッジでの EKS の実行に関する詳細なドキュメント。
- [AWS ソリューションライブラリ](#) – 構築済みまたはカスタマイズされたコンピュータビジョンソリューションを提供するさまざまなプロバイダーからのパートナーサービス。
- [Panorama FAQs](#) - 追加の Panorama 情報。

よくある質問

Panorama の中止のタイミングを教えてください。

この発表は、2025 年 5 月 20 日に行われました。この日以降、サービスでアクティブでないお客様は Panorama にアクセスできなくなります。アクティブなお客様は、2026 年 5 月 31 日まで通常どおりサービスを使用できます。お客様は、その時点までアプリケーションを代替ソリューションに移行し、Panorama のアプリケーションを移行する必要があります。2026 年 5 月 31 日以降、Panorama サービスにアクセスしようとするアプリケーションは機能しなくなり、Panorama デバイスは機能しなくなります。

既存の顧客はどのような影響を受けますか？

既存のお客様は、2026 年 5 月 31 日まで通常どおりサービスを使用できます。その後、Panorama にアクセスしようとするアプリケーションは機能しなくなります。Panorama デバイスもその日以降は動作しなくなります。

新規顧客は受け入れられていますか？

いいえ。2025 年 5 月 20 日現在、Panorama のアクティブユーザーであるお客様のみがサービスにアクセスできます。顧客がアクセスする必要がある以前の使用状況のアプリケーションをサービスに持っている場合は、カスタマーサポートにケースを作成して、アカウントのアクセスをリクエストできます。顧客が以前にサービスを使用していない場合、アクセス権は付与されません。

顧客が探索できる代替案は何ですか？

AWS は、Panorama 機能を置き換えることができるさまざまなサービスを提供します。お客様は off-the-shelf ハードウェアを使用し、要件を満たす AWS IoT Core、AWS IoT Greengrass、Amazon AKS Anywhere、Amazon ECS Anywhere、および / または AWS System Manager を組み合わせてデバイスとアプリケーションを管理することをお勧めします。AWS パートナーネットワークには、お客様が検討できる特定の Computer Visions の専門知識を持つパートナーから利用できるソリューションもいくつかあります。

顧客は Panorama からどのように移行できますか？

Panorama アプリケーションを変更して、主にカメラ接続とストリーミングに関連する Panorama 固有の APIs への依存関係を削除する必要があります。AWS には、これらの変更方法を示すサンプルコードが用意されています。これらの依存関係を削除すると、アプリケーションを代替のハードウェアプラットフォームに移動できます。

2025年5月20日以降に問題が発生した場合、どのようなサポートを利用できますか？

AWSは、中止通知期間の終了(2026年5月31日)までPanoramaのサポートを継続します。サポート要件については、通常サポートチャンネルを通じてサポートケースを入力する必要があります。AWSは、セキュリティ更新、バグ修正、可用性の強化を提供します。

2026年5月31日より前に移行することはできません。日付は延長できますか？

Panoramaで利用可能な代替案により、お客様は2026年5月31日までに代替ソリューションに移行でき、その日以降にサービスの可用性を拡張する予定はありません。

エッジアプリケーションは、サービス終了後も引き続き機能しますか？

いいえ。PanoramaデバイスとアプリケーションはPanoramaクラウドサービスへの接続に依存します。2026年5月31日にそのサービスが終了すると、PanoramaアプリケーションもPanoramaデバイスも機能しなくなります。

の開始方法 AWS Panorama

の使用を開始するには AWS Panorama、まず[サービスの概念](#)と、このガイドで使用されている用語について学習します。その後、AWS Panorama コンソールを使用して[AWS Panorama アプライアンスを登録](#)し、[アプリケーションを作成](#)できます。約 1 時間で、デバイスの設定、ソフトウェアの更新、サンプルアプリケーションのデプロイを行うことができます。このセクションのチュートリアルを完了するには、AWS Panorama アプライアンスと、ローカルネットワーク経由でビデオをストリーミングするカメラを使用します。

Note

AWS Panorama アプライアンスを購入するには、[AWS Panorama コンソール](#)にアクセスします。

[AWS Panorama サンプルアプリケーション](#)は、AWS Panorama 機能の使用方法を示しています。これには、SageMaker AI でトレーニングされたモデルと、AWS Panorama Application SDK を使用して推論を実行し、ビデオを出力するサンプルコードが含まれています。サンプルアプリケーションには、コマンドラインから開発およびデプロイワークフローを自動化する方法を示す CloudFormation テンプレートとスクリプトが含まれています。

この章の最後の 2 つのトピックでは、[モデルとカメラの要件](#)、および[AWS Panorama アプライアンスのハードウェア仕様](#)について詳しく説明します。アプライアンスやカメラをまだ入手していない場合や、独自のコンピュータービジョンモデルを開発する計画がある場合は、まずこれらのトピックで詳細を確認してください。

トピック

- [AWS Panorama の概念](#)
- [AWS Panorama アプライアンスのセットアップ](#)
- [AWS Panorama サンプルアプリケーションのデプロイ](#)
- [AWS Panorama アプリケーションの開発](#)
- [サポートされているコンピュータービジョンモデルとカメラ](#)
- [AWS Panorama アプライアンスの仕様](#)
- [Service Quotas](#)

AWS Panorama の概念

AWS Panorama では、コンピュータビジョンアプリケーションを作成し、それを AWS Panorama アプライアンスまたは互換性のあるデバイスにデプロイして、ネットワークカメラからのビデオストリームを分析します。Python でアプリケーションコードを記述し、ドッカーを使用してアプリケーションコンテナを構築します。AWS Panorama アプリケーション CLI を使用して、機械学習モデルをローカルまたは Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) からインポートします。アプリケーションは AWS Panorama アプリケーション SDK を使用してカメラからのビデオ入力を受信し、モデルと対話します。

概念

- [AWS Panorama アプライアンス](#)
- [互換性のあるデバイス](#)
- [アプリケーション](#)
- [ノード](#)
- [モデル](#)

AWS Panorama アプライアンス

AWS Panorama アプライアンスはアプリケーションを実行するハードウェアです。アプライアンスの登録、ソフトウェアの更新、アプリケーションのデプロイを行うために AWS Panorama コンソールを使用します。AWS Panorama アプライアンスのソフトウェアは、カメラストリームに接続し、ビデオフレームをアプリケーションに送信し、付属のディスプレイにビデオ出力を表示します。

AWS Panorama アプライアンスは [Nvidia Jetson AGX Xavier を搭載したエッジデバイス](#)です。クラウドにイメージを送信して AWS 処理する代わりに、最適化されたハードウェアでローカルにアプリケーションを実行します。これにより、動画をリアルタイムで分析し、結果をローカルで処理できます。アプライアンスのステータスの報告、ログのアップロード、およびソフトウェアの更新とデプロイを行うには、インターネット接続が必要です。

詳細については、「[AWS Panorama アプライアンスの管理](#)」を参照してください。

互換性のあるデバイス

AWS Panorama アプライアンスに加えて、AWS Panorama は AWS パートナーからの互換性のあるデバイスをサポートしています。互換性のあるデバイスは AWS Panorama アプライアンスと同じ機

能をサポートします。互換性のあるデバイスを AWS Panorama コンソールと API に登録して管理し、同じ方法でアプリケーションを構築してデプロイします。

- [レノボ ThinkEdge® SE70](#) — Nvidia Jetson Xavier NX を搭載

このガイドの内容とサンプルアプリケーションは、AWS Panorama アプライアンスを使用して開発されています。お使いのデバイスの特定のハードウェアおよびソフトウェア機能の詳細については、製造元のドキュメントを参照してください。

アプリケーション

アプリケーションは AWS Panorama アプライアンス上で動作し、ビデオストリームでコンピュータビジョンタスクを実行します。Python コードと機械学習モデルを組み合わせることでコンピュータビジョンアプリケーションを構築し、インターネット経由で AWS Panorama アプライアンスにデプロイできます。アプリケーションはディスプレイに動画を送信したり、AWS SDK を使用して結果を AWS のサービスに送信したりできます。

アプリケーションを構築してデプロイするには、AWS Panorama アプリケーション CLI を使します。AWS Panorama アプリケーション CLI は、デフォルトのアプリケーションフォルダと構成ファイルの生成、ドッカーによるコンテナの構築、アセットのアップロードを行うコマンドラインツールです。1つのデバイスで複数のアプリケーションを実行できます。

詳細については、「[AWS Panorama アプリケーションの管理](#)」を参照してください。

ノード

アプリケーションは、入力、出力、モデル、コードを表すノードと呼ばれる複数のコンポーネントで構成されます。ノードは構成のみ (入力と出力) でも、アーティファクト (モデルとコード) を含むこともできます。アプリケーションのコードノードはノードパッケージにバンドルされており、Amazon S3 アクセスポイントにアップロードすると、AWS Panorama アプライアンスからアクセスできます。アプリケーションマニフェストは、ノード間の接続を定義する構成ファイルです。

詳細については、「[アプリケーションノード](#)」を参照してください。

モデル

コンピュータビジョンモデルは、画像を処理するようにトレーニングされた機械学習ネットワークです。コンピュータビジョンモデルは、分類、検出、セグメンテーション、追跡などのさまざまなタス

クを実行できます。コンピュータビジョンモデルは、画像を入力として受け取り、画像または画像内のオブジェクトに関する情報を出力します。

AWS Panorama は PyTorch、Apache MXNet、TensorFlow で構築されたモデルをサポートしています。Amazon SageMaker AI または開発環境でモデルを構築できます。詳細については、「[???](#)」を参照してください。

AWS Panorama アプライアンスのセットアップ

AWS Panorama アプライアンスまたは[互換性のあるデバイス](#)の使用を開始するには、AWS Panorama コンソールに登録し、ソフトウェアを更新します。セットアッププロセス中に、物理アプライアンスを表すアプライアンスリソースを AWS Panorama に作成し、USB ドライブを使用してファイルをアプライアンスにコピーします。アプライアンスはこれらの証明書と設定ファイルを使用して AWS Panorama サービスに接続します。次に、AWS Panorama コンソールを使用してアプライアンスのソフトウェアを更新し、カメラに登録します。

セクション

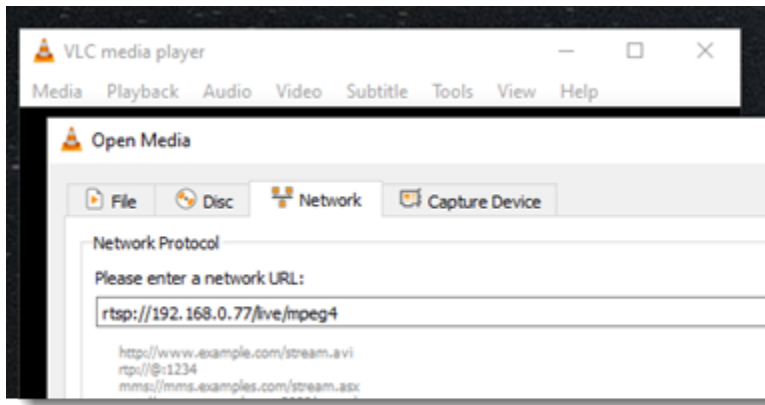
- [前提条件](#)
- [AWS Panorama アプライアンスの登録と設定](#)
- [アプライアンスソフトウェアをアップグレードする](#)
- [カメラストリームを追加します](#)
- [次のステップ](#)

前提条件

このチュートリアルを実行するには、AWS Panorama アプライアンスまたは互換性のあるデバイスと、次のハードウェアが必要です。

- ディスプレイ — サンプルアプリケーション出力を表示するための HDMI 入力付きディスプレイ。
- USB ドライブ (AWS Panorama アプライアンスに付属) — 設定ファイルと証明書を含むアーカイブを AWS Panorama アプライアンスに転送するための、少なくとも 1 GB のストレージを備えた FAT32 フォーマットの USB 3.0 フラッシュメモリドライブ。
- カメラ — RTSP ビデオストリームを出力する IP カメラ。

カメラの製造元から提供されているツールと説明書を使用して、カメラの IP アドレスとストリームパスを特定します。[VLC](#) などの動画プレーヤーをネットワークメディアソースとして開くと、ストリーム URL を確認できます:



AWS Panorama コンソールは、他の AWS サービスを使用してアプリケーションコンポーネントの組み立て、権限の管理、設定の検証を行います。アプライアンスを登録してサンプルアプリケーションをデプロイするには、以下の権限が必要です。

- [AWSPanoramaFullAccess](#) – AWS Panorama、Amazon S3 の AWS Panorama アクセスポイント、 のアプライアンス認証情報 AWS Secrets Manager、Amazon CloudWatch のアプライアンスログへのフルアクセスを提供します。AWS Panorama の [サービスにリンクされたロール](#) を作成する権限が含まれます。
- AWS Identity and Access Management (IAM) – 初回実行時に、AWS Panorama サービスと AWS Panorama アプライアンスで使用されるロールを作成します。

IAM でロールを作成する権限がない場合は、管理者に [AWS Panorama コンソールを開き](#)、サービスロールを作成するためのプロンプトを受け入れてもらいます。

AWS Panorama アプライアンスの登録と設定

AWS Panorama アプライアンスは、ローカルネットワーク接続を介してネットワーク対応カメラに接続するハードウェアデバイスです。AWS Panorama Application SDK とコンピュータビジョンアプリケーションを実行するためのサポートソフトウェアを含む Linux ベースのオペレーティングシステムを使用しています。

アプライアンスの管理とアプリケーションのデプロイ AWS のために に接続するために、アプライアンスはデバイス証明書を使用します。AWS Panorama コンソールを使用してプロビジョニング証明書を生成します。アプライアンスはこの一時証明書を使用して初期設定を完了し、永久デバイス証明書をダウンロードします。

⚠ Important

この手順で生成するプロビジョニング証明書は 5 分間だけ有効です。この時間内に登録プロセスを完了されない場合は、最初からやり直す必要があります。


アプライアンスを登録する

1. コンピュータに USB ドライブを接続します。ネットワークと電源ケーブルを接続してアプライアンスを準備します。アプライアンスの電源が入り、USB ドライブが接続されるのを待ちます。
2. AWS Panorama コンソールの [\[はじめに\] ページ](#)を開きます。
3. デバイスを追加 を選びます。
4. [セットアップを開始] を選択します。
5. AWS Panorama でアプライアンスを表すデバイスリソースの名前と説明を入力します。次へ を選択します。

Set up device: Name

Specify name Configure Download file Power on Done

We'll help you set up your device



You'll use the name to find and identify your device later, so pick something memorable and unique. The optional description and tags make it easy to search and select by location or other criteria that you supply.

[Learn more](#)

What do you want to name your device? [Info](#)

Name
Provide a unique name. You can't edit this name later.

Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, _ (underscore) and - (hyphen).

Description - *Optional*
Provide a short description of the device.

The description can have up to 255 characters.

▼ Tags - *Optional*
A tag is a label that you assign to an AWS resource. Each tag consists of a key and an optional value. You can use tags to search and filter your resources or track your AWS costs.

Key

Value - *optional*

Exit Previous **Next**

- IP アドレス、NTP サーバー、または DNS 設定を手動で割り当てる必要がある場合は、[ネットワークの詳細設定] を選択します。それ以外の場合は、次へ を選択します。
- [アーカイブをダウンロード] を選択します。次へ をクリックします。
- 設定アーカイブを USB ドライブのルートディレクトリにコピーします。
- USB ドライブを、アプライアンスの前面、HDMI ポートの横にある USB 3.0 ポートに接続します。


USB ドライブを接続すると、アプライアンスは設定アーカイブとネットワーク設定ファイルをそれぞれにコピーし、AWS クラウドに接続します。接続が完了すると、アプライアンスのステータスライトが緑色から青色に変わり、その後緑色に戻ります。

- 続行するには、次へ を選択します。

Set up device: Plug in USB device and power on

Specify name Configure Download file Power on Done

Plug the USB storage device and cables in, and power on



The configuration file is read from the USB storage device when the device is first powered on. The device connects to your on-premise network, and then establishes a secure connection to your AWS account in the cloud. Further management of the device is done from the AWS Panorama console.

Plug in the USB storage device, cables, and power on your device [Info](#)

Now plug the USB storage device with the configuration file into your device. Plug in the power cable, ethernet cable (if you're using that connection type), and press the power button to finish the initial set up.

The lights will flash for a few moments while the device reads the configuration and connects to your on-premise network. Next the device will automatically establish a secure connection to your AWS account in the cloud, and all further status and device settings are then managed from the AWS Panorama console.

Your appliance is now connected and online.

Exit Previous **Next**

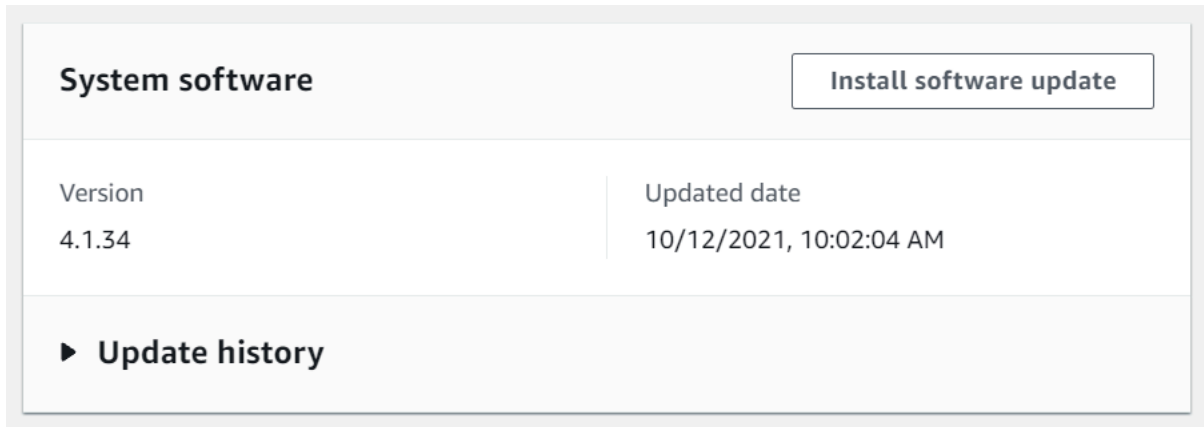
11. 完了 をクリックします。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードする

AWS Panorama アプライアンスには、Linux オペレーティングシステム、[AWS Panorama アプリケーション SDK](#)、サポートするコンピュータビジョンライブラリとフレームワークなど、いくつかのソフトウェアコンポーネントがあります。アプライアンスで最新の機能やアプリケーションを確実に使用できるようにするには、セットアップ後、および更新が可能になるたびにソフトウェアをアップデートしてください。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードする

1. AWS Panorama コンソールの [\[デバイス\] ページ](#)を開きます。
2. アプライアンスを選択します。
3. **[設定]** を選択します。
4. **[システムのソフトウェア]** で **[ソフトウェアのインストール]** を選択します。



5. 新しいバージョンを選択し、**[インストール]** を選択します。

⚠ Important

続行する前に、USB ドライブをアプライアンスから取り外し、フォーマットして内容を削除します。設定アーカイブには機密データが含まれており、自動的に削除されません。

アップグレードのプロセスは完了までに 30 分以上かかる場合があります。その進行状況は、AWS Panorama コンソールまたは接続されたモニターでモニタリングできます。プロセスが完了すると、アプライアンスは再起動します。

カメラストリームを追加します

次に、カメラストリームを AWS Panorama コンソールに登録します。

カメラストリームに登録するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[データソース\] ページ](#)を開きます。
2. **[データソースを追加する]** を選択する。

Add data source

Camera stream details [Info](#)

Name

This is a unique name that identifies the camera. A descriptive name will help you differentiate between your multiple camera streams.

The camera stream name can have up to 255 characters. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, _ (underscore) and - (hyphen).

Description - *optional*

Providing a description will help you differentiate between your multiple camera streams.

The description can have up to 255 characters.

3. 以下を設定します。

- 名前 — カメラストリームの名前。
- 説明 — カメラ、その場所、その他の詳細に関する簡単な説明。
- RTSP URL — カメラの IP アドレスとストリームへのパスを指定する URL。例えば、`rtsp://192.168.0.77/live/mpeg4/`
- 認証情報 — カメラストリームがパスワードで保護されている場合は、ユーザーネームとパスワードを指定します。

4. [Save] を選択します。

AWS Panorama は、カメラの認証情報を安全に に保存します AWS Secrets Manager。複数のアプリケーションが同じカメラストリームを同時に処理できます。

次のステップ

セットアップ中にエラーが発生した場合は、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

サンプルアプリケーションをデプロイするには、[次のトピック](#)に進んでください。

AWS Panorama サンプルアプリケーションのデプロイ

[AWS Panorama Appliance または互換デバイスをセットアップ](#)し、ソフトウェアをアップグレードしたら、サンプルアプリケーションをデプロイします。以下のセクションでは、AWS Panorama アプリケーション CLI を使用してサンプルアプリケーションをインポートし、AWS Panorama コンソールでデプロイします。

サンプルアプリケーションでは、機械学習モデルを使用して、ネットワークカメラからのビデオフレーム内のオブジェクトを分類します。AWS Panorama アプリケーション SDK を使用してモデルの読み込み、画像の取得、モデルの実行を行います。次に、アプリケーションは結果を元の動画の上に重ねて表示し、接続されたディスプレイに出力します。

小売店では、人の往来パターンを分析することでトラフィック量を予測できます。この分析を他のデータと組み合わせることで、休日やその他のイベント前後の人員配置ニーズの増加を計画したり、広告や販売促進の効果を測定したり、ディスプレイの配置や在庫管理を最適化したりできます。

セクション

- [前提条件](#)
- [サンプルアプリケーションをインポートする](#)
- [アプリケーションをデプロイする](#)
- [出力の表示](#)
- [SDK for Python を有効にする](#)
- [クリーンアップ](#)
- [次のステップ](#)

前提条件

このチュートリアルの手順に従うには、コマンドを実行するコマンドラインターミナルまたはシェルが必要になります。コード一覧では、コマンドは、該当する場合、プロンプト記号 (\$) と現在のディレクトリの名前が前に付けられています。

```
~/panorama-project$ this is a command  
this is output
```

コマンドが長い場合は、エスケープ文字 (\) を使用してコマンドを複数行に分割します。

Linux および macOS では、任意のシェルとパッケージマネージャーを使用します。Windows 10 では、[Linux 用の Windows サブシステムをインストール](#)して、Windows 統合バージョンの Ubuntu および Bash を入手できます。Windows での開発環境の設定方法については、[Windows 開発環境でのセットアップ](#)を参照してください。

Python を使用して AWS Panorama アプリケーションを開発し、Python のパッケージマネージャーである pip でツールをインストールします。まだ Python がインストールされていない場合は、[最新バージョンをインストールしてください](#)。Python 3 があり pip はない場合は、オペレーティングシステムのパッケージマネージャーで pip をインストールするか、pip に付属の新しいバージョンの Python をインストールしてください。

このチュートリアルでは、ドッカーを使用してアプリケーションコードを実行するコンテナを構築します。Docker は、Docker ウェブサイトの「[Docker の入手](#)」からインストールします。

このチュートリアルでは、AWS Panorama アプリケーション CLI を使用してサンプルアプリケーションのインポート、パッケージのビルド、アーティファクトのアップロードを行います。AWS Panorama アプリケーション CLI は、AWS Command Line Interface (AWS CLI) を使用してサービス API オペレーションを呼び出します。が既にある場合は AWS CLI、最新バージョンにアップグレードします。AWS Panorama アプリケーション CLI とをインストールするには AWS CLI、を使用します pip。

```
$ pip3 install --upgrade awscli panoramactli
```

サンプルアプリケーションをダウンロードし、ワークスペースに抽出します。

- サンプルアプリケーション — [aws-panorama-サンプル.zip](#)

サンプルアプリケーションをインポートする

サンプルアプリケーションをインポートしてアカウントで使用するには、AWS Panorama アプリケーション CLI を使用します。アプリケーションのフォルダとマニフェストには、プレースホルダーのアカウント番号への参照が含まれています。これらをアカウント番号で更新するには、`panorama-cli import-application` コマンドを実行します。

```
aws-panorama-sample$ panorama-cli import-application
```

`packages` ディレクトリ内の `SAMPLE_CODE` パッケージには、アプリケーションのベースイメージ、`panorama-application` を使用するドッカーファイルなど、アプリケーションのコード

と構成が含まれています。アプライアンス上で動作するアプリケーションコンテナを構築するには、`panorama-cli build-container` コマンドを使用します。

```
aws-panorama-sample$ ACCOUNT_ID=$(aws sts get-caller-identity --output text --query 'Account')
aws-panorama-sample$ panorama-cli build-container --container-asset-name code_asset --package-path packages/${ACCOUNT_ID}-SAMPLE_CODE-1.0
```

AWS Panorama アプリケーション CLI の最後のステップは、アプリケーションのコードとモデルノードを登録し、サービスが提供する Amazon S3 アクセスポイントにアセットをアップロードすることです。アセットには、コードのコンテナイメージ、モデル、およびそれぞれの記述子ファイルが含まれます。ノードを登録してアセットをアップロードするには、`panorama-cli package-application` コマンドを実行します。

```
aws-panorama-sample$ panorama-cli package-application
Uploading package model
Registered model with patch version
bc9c58bd6f83743f26aa347dc86bfc3dd2451b18f964a6de2cc4570cb6f891f9
Uploading package code
Registered code with patch version
11fd7001cb31ea63df6aaed297d600a5ecf641a987044a0c273c78ceb3d5d806
```

アプリケーションをデプロイする

AWS Panorama コンソールを使用して、アプリケーションをアプライアンスにデプロイします。

アプリケーションをデプロイするには

1. AWS Panorama コンソールの [\[デプロイされたアプリケーション\] ページ](#)を開きます。
2. [アプリケーションをデプロイ] を選択します。
3. アプリケーションマニフェスト、`graphs/aws-panorama-sample/graph.json` の内容をテキストエディタに貼り付けます。[Next (次へ)] を選択します。
4. [アプリケーション名] には `aws-panorama-sample` と入力します。
5. [デプロイに進む] を選択します。
6. [デプロイを開始] を選択します。
7. ロールを選択せずに [次へ] を選択します。
8. [デバイスを選択] を選択し、次にアプライアンスを選択します。次へ をクリックします。

9. [データソースを選択] ステップで、[入力を表示] を選択し、カメラストリームをデータソースとして追加します。[Next (次へ)] を選択します。
10. [設定] ステップで、[次へ] を選択します。
11. [デプロイ] を選択してから、[完了] を選択します。
12. デプロイされたアプリケーションのリストで [aws-panorama-サンプル] を選択します。

このページを更新して更新を確認するか、次のスクリプトを使用してコマンドラインからデプロイを監視してください。

Exampleモニター-デプロイメント.sh

```
while true; do
  aws panorama list-application-instances --query 'ApplicationInstances[?Name==`aws-panorama-sample`]'
  sleep 10
done
```

```
[
  {
    "Name": "aws-panorama-sample",
    "ApplicationInstanceId": "applicationInstance-x264exmpl33gq5pchc2ekoi6uu",
    "DefaultRuntimeContextDeviceName": "my-appliance",
    "Status": "DEPLOYMENT_PENDING",
    "HealthStatus": "NOT_AVAILABLE",
    "StatusDescription": "Deployment Workflow has been scheduled.",
    "CreatedTime": 1630010747.443,
    "Arn": "arn:aws:panorama:us-west-2:123456789012:applicationInstance/applicationInstance-x264exmpl33gq5pchc2ekoi6uu",
    "Tags": {}
  }
]
[
  {
    "Name": "aws-panorama-sample",
    "ApplicationInstanceId": "applicationInstance-x264exmpl33gq5pchc2ekoi6uu",
    "DefaultRuntimeContextDeviceName": "my-appliance",
    "Status": "DEPLOYMENT_PENDING",
    "HealthStatus": "NOT_AVAILABLE",
    "StatusDescription": "Deployment Workflow has completed data validation.",
```

```
    "CreatedTime": 1630010747.443,  
    "Arn": "arn:aws:panorama:us-west-2:123456789012:applicationInstance/  
applicationInstance-x264exmpl133gq5pchc2ekoi6uu",  
    "Tags": {}  
  }  
]  
...
```

アプリケーションが起動しない場合は、Amazon CloudWatch Logs の [アプリケーションログとデバイスログ](#)を確認してください。

出力の表示

デプロイが完了すると、アプリケーションはビデオストリームの処理を開始し、CloudWatch にログを送信します。

CloudWatch Logs でログを表示する

1. CloudWatch Logs コンソールの [\[\[ロググループ\] ページ\]](#) を開きます。
2. 次のグループで AWS Panorama アプリケーションログとアプライアンスログを検索します:
 - デバイスログ — /aws/panorama/devices/*device-id*
 - アプリケーションログ — /aws/panorama/devices/*device-id*/applications/*instance-id*

```
2022-08-26 17:43:39 INFO      INITIALIZING APPLICATION  
2022-08-26 17:43:39 INFO      ## ENVIRONMENT VARIABLES  
{'PATH': '/usr/local/sbin:/usr/local/bin:/usr/sbin:/usr/bin:/sbin:/bin', 'TERM':  
'xterm', 'container': 'podman'...}  
2022-08-26 17:43:39 INFO      Configuring parameters.  
2022-08-26 17:43:39 INFO      Configuring AWS SDK for Python.  
2022-08-26 17:43:39 INFO      Initialization complete.  
2022-08-26 17:43:39 INFO      PROCESSING STREAMS  
2022-08-26 17:46:19 INFO      epoch length: 160.183 s (0.936 FPS)  
2022-08-26 17:46:19 INFO      avg inference time: 805.597 ms  
2022-08-26 17:46:19 INFO      max inference time: 120023.984 ms  
2022-08-26 17:46:19 INFO      avg frame processing time: 1065.129 ms  
2022-08-26 17:46:19 INFO      max frame processing time: 149813.972 ms  
2022-08-26 17:46:29 INFO      epoch length: 10.562 s (14.202 FPS)  
2022-08-26 17:46:29 INFO      avg inference time: 7.185 ms
```

```
2022-08-26 17:46:29 INFO    max inference time: 15.693 ms
2022-08-26 17:46:29 INFO    avg frame processing time: 66.561 ms
2022-08-26 17:46:29 INFO    max frame processing time: 123.774 ms
```

アプリケーションのビデオ出力を表示するには、HDMI ケーブルでアプライアンスをモニターに接続します。デフォルトでは、信頼度が 20% を超える分類結果がアプリケーションに表示されます。

Example スクイーズ ネット_クラス.json

```
["tench", "goldfish", "great white shark", "tiger shark",
"hammerhead", "electric ray", "stingray", "cock", "hen", "ostrich",
"brambling", "goldfinch", "house finch", "junco", "indigo bunting",
"robin", "bulbul", "jay", "magpie", "chickadee", "water ouzel",
"kite", "bald eagle", "vulture", "great grey owl",
"European fire salamander", "common newt", "eft",
"spotted salamander", "axolotl", "bullfrog", "tree frog",
...]
```

サンプルモデルには、多くの動物、食べ物、一般的なオブジェクトを含む 1000 のクラスがあります。キーボードやコーヒーマグにカメラを向けてみてください。



簡単にするために、サンプルアプリケーションでは軽量の分類モデルを使用しています。このモデルは、各クラスの確率を含む1つの配列を出力します。実際のアプリケーションでは、多次元出力のオブジェクト検出モデルがより頻繁に使用されます。より複雑なモデルを使用するサンプルアプリケーションについては、[サンプルアプリケーション、スクリプト、テンプレート](#) を参照してください。

SDK for Python を有効にする

サンプルアプリケーションは を使用して Amazon CloudWatch AWS SDK for Python (Boto) にメトリクスを送信します。この機能を有効にするには、メトリクスを送信する権限をアプリケーションに付与するロールを作成し、そのロールをアタッチした状態でアプリケーションを再デプロイします。

サンプルアプリケーションには、必要なアクセス許可を持つロールを作成する CloudFormation テンプレートが含まれています。ロールを作成するには、`aws cloudformation deploy` コマンドを使用します。

```
$ aws cloudformation deploy --template-file aws-panorama-sample.yml --stack-name aws-panorama-sample-runtime --capabilities CAPABILITY_NAMED_IAM
```

アプリケーションを再デプロイするには

1. AWS Panorama コンソールの [\[デプロイされたアプリケーション\] ページ](#)を開きます。
2. アプリケーションを選択します。
3. [置換]を選択します。
4. アプリケーションを実行するには、手順に従います。[IAM ロールを指定]で、作成したロールを選択します。名前が aws-panorama-sample-runtime で始まるものです。
5. デプロイが完了したら、[CloudWatch コンソール](#)を開き、AWSPanoramaApplication 名前空間のメトリックスを表示します。150 フレームごとに、アプリケーションはフレーム処理と推論時間のメトリックスを記録してアップロードします。

クリーンアップ

サンプルアプリケーションの操作が終了したら、AWS Panorama コンソールを使用してアプライアンスから削除できます。

アプライアンスからアプリケーションを削除するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[デプロイされたアプリケーション\] ページ](#)を開きます。
2. アプリケーションを選択します。
3. [デバイスから削除]を選択します。

次のステップ

サンプルアプリケーションのデプロイまたは実行中にエラーが発生した場合は、[トラブルシューティング](#)を参照してください。

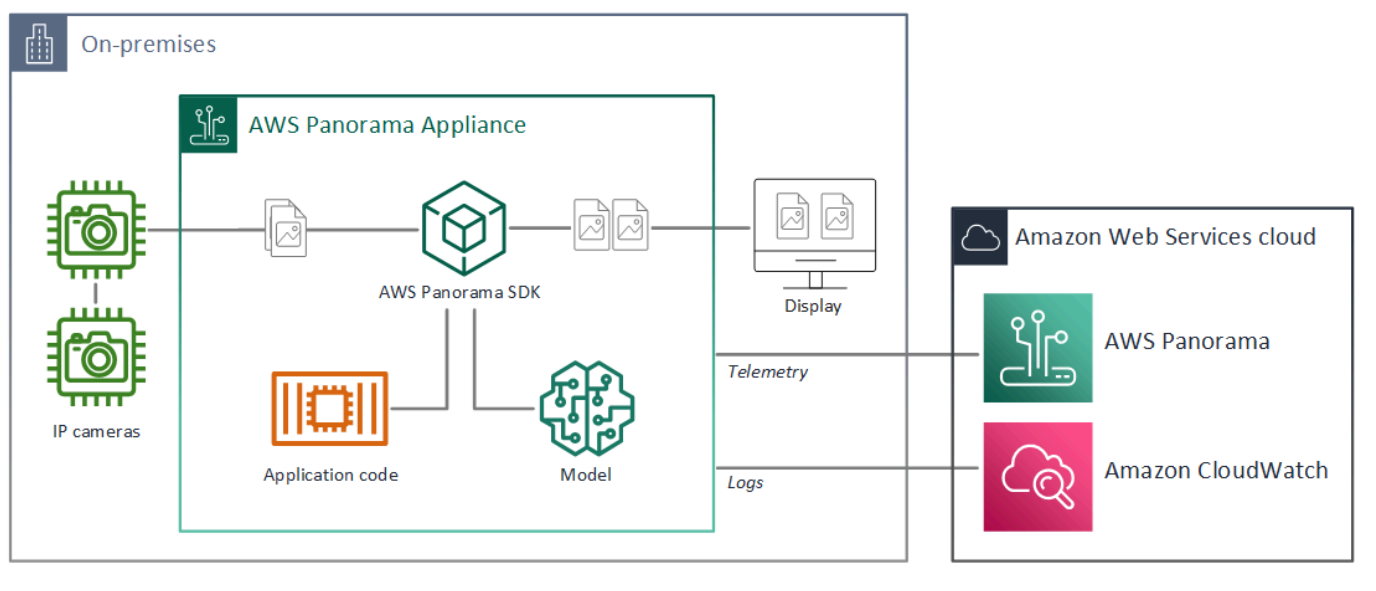
サンプルアプリケーションの機能と実装については、[次のトピック](#)に進んでください。

AWS Panorama アプリケーションの開発

サンプルアプリケーションを使用して、AWS Panorama アプリケーションの構造について学んだり、独自のアプリケーションの開始点にしたりできます。

次の図表に、AWS Panorama アプライアンスで実行されるアプリケーションの主要なコンポーネントを示します。アプリケーションコードは AWS Panorama アプリケーション SDK を使用して画像を取得し、直接アクセスできないモデルとやり取りします。アプリケーションは接続されたディスプレイに動画を出力しますが、ローカルネットワークの外部には画像データを送信しません。

Sample application



この例では、アプリケーションは AWS Panorama アプリケーション SDK を使用してカメラからビデオフレームを取得し、ビデオデータを前処理して、オブジェクトを検出するコンピュータビジョンモデルにデータを送信します。アプリケーションは、アプライアンスに接続された HDMI ディスプレイに結果を表示します。

セクション

- [アプリケーションマニフェスト](#)。
- [サンプルアプリケーションでのビルド](#)
- [コンピュータービジョンモデルの変更](#)
- [画像の前処理](#)
- [Python 用 SDK によるメトリクスのアップロード](#)

- [次の手順](#)

アプリケーションマニフェスト。

アプリケーションマニフェストは、graphs フォルダ内の graph.json という名前のファイルです。マニフェストは、パッケージ、ノード、エッジなどのアプリケーションのコンポーネントを定義します。

パッケージは、アプリケーションコード、モデル、カメラ、ディスプレイのコード、構成、バイナリファイルです。サンプルアプリケーションは 4 つのパッケージを使用します。

Example `graphs/aws-panorama-sample/graph.json` - パッケージ

```
"packages": [  
  {  
    "name": "123456789012::SAMPLE_CODE",  
    "version": "1.0"  
  },  
  {  
    "name": "123456789012::SQUEEZENET_PYTORCH_V1",  
    "version": "1.0"  
  },  
  {  
    "name": "panorama::abstract_rtsp_media_source",  
    "version": "1.0"  
  },  
  {  
    "name": "panorama::hdmi_data_sink",  
    "version": "1.0"  
  }  
],
```

最初の 2 つのパッケージは、アプリケーション内の packages ディレクトリで定義されています。これらには、このアプリケーション固有のコードとモデルが含まれています。次の 2 つのパッケージは、AWS Panorama サービスが提供する汎用のカメラおよびディスプレイパッケージです。abstract_rtsp_media_source パッケージは、デプロイ時にオーバーライドするカメラのブレースホルダーです。hdmi_data_sink パッケージはデバイスの HDMI 出力コネクタを表します。

ノードはパッケージへのインターフェースであると同時に、デプロイ時にオーバーライドできるデフォルト値を持つ非パッケージパラメーターのインターフェースでもあります。コードパッケージと

モデルパッケージは、ビデオストリームでも、フロート、ブーリアン、文字列などの基本データ型でも、入力と出力を指定する `package.json` ファイル内のインターフェイスを定義します。

たとえば、`code_node` ノードは `SAMPLE_CODE` パッケージのインターフェイスを参照します。

```
"nodes": [  
  {  
    "name": "code_node",  
    "interface": "123456789012::SAMPLE_CODE.interface",  
    "overridable": false,  
    "launch": "onAppStart"  
  },  
]
```

このインターフェイスはパッケージ構成ファイル、`package.json` 内で定義されています。このインターフェイスは、パッケージがビジネスロジックであり、`video_in` という名前のビデオストリームと `threshold` という名前の浮動小数点数を入力として受け取ることを指定しています。また、このインターフェイスでは、ビデオをディスプレイに出力するための `video_out` という名前のビデオストリームバッファがコードに必要なことも指定されています。

Example `packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/package.json`

```
{  
  "nodePackage": {  
    "envelopeVersion": "2021-01-01",  
    "name": "SAMPLE_CODE",  
    "version": "1.0",  
    "description": "Computer vision application code.",  
    "assets": [],  
    "interfaces": [  
      {  
        "name": "interface",  
        "category": "business_logic",  
        "asset": "code_asset",  
        "inputs": [  
          {  
            "name": "video_in",  
            "type": "media"  
          },  
          {  
            "name": "threshold",  
            "type": "float32"  
          }  
        ]  
      }  
    ]  
  }  
}
```

```
    ],
    "outputs": [
      {
        "description": "Video stream output",
        "name": "video_out",
        "type": "media"
      }
    ]
  }
]
```

アプリケーションマニフェストに戻ると、`camera_node` ノードはカメラからのビデオストリームを表しています。これには、アプリケーションをデプロイするとコンソールに表示され、カメラストリームの選択を促すデコレータが含まれています。

Example `graphs/aws-panorama-sample/graph.json` – Camera ノード

```
{
  "name": "camera_node",
  "interface": "panorama::abstract_rtsp_media_source.rtsp_v1_interface",
  "overridable": true,
  "launch": "onAppStart",
  "decorator": {
    "title": "Camera",
    "description": "Choose a camera stream."
  }
},
```

パラメータノード `threshold_param` は、アプリケーションコードで使用される信頼度しきい値パラメータを定義します。デフォルト値は 60 で、デプロイ時に上書きできます。

Example `graphs/aws-panorama-sample/graph.json` – パラメータノード

```
{
  "name": "threshold_param",
  "interface": "float32",
  "value": 60.0,
  "overridable": true,
  "decorator": {
    "title": "Confidence threshold",
```

```
        "description": "The minimum confidence for a classification to be
recorded."
    }
}
```

アプリケーションマニフェストの最後のセクション edges では、ノード間の接続を行います。カメラのビデオストリームとしきい値パラメータはコードノードの入力に接続し、コードノードからのビデオ出力はディスプレイに接続します。

Example `graphs/aws-panorama-sample/graph.json` - エッジ

```
"edges": [
  {
    "producer": "camera_node.video_out",
    "consumer": "code_node.video_in"
  },
  {
    "producer": "code_node.video_out",
    "consumer": "output_node.video_in"
  },
  {
    "producer": "threshold_param",
    "consumer": "code_node.threshold"
  }
]
```

サンプルアプリケーションでのビルド

サンプルコードを開始点として使用して、独自のアプリケーションを作成することができます。

各パッケージ名は一意にする必要があります。自分とアカウント内の別のユーザーの両方が code や model などの汎用パッケージ名を使用している場合、デプロイ時に間違ったバージョンのパッケージが表示される可能性があります。コードパッケージの名前を、自分のアプリケーションを表す名前に変更してください。

コードパッケージの名前を変更するには

1. パッケージフォルダーの名前を変更します:
す: `packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/`。
2. 次の場所でパッケージ名を更新します。

- アプリケーションマニフェスト — `graphs/aws-panorama-sample/graph.json`
- パッケージ構成 — `packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/package.json`
- ビルドスクリプト — `3-build-container.sh`

アプリケーションコードを更新するには

1. `packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/src/application.py` でアプリケーションコードを変更します。
2. コンテナを構築するには、`3-build-container.sh` を実行します。

```
aws-panorama-sample$ ./3-build-container.sh
TMPDIR=$(pwd) docker build -t code_asset packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0
Sending build context to Docker daemon 61.44kB
Step 1/2 : FROM public.ecr.aws/panorama/panorama-application
----> 9b197f256b48
Step 2/2 : COPY src /panorama
----> 55c35755e9d2
Successfully built 55c35755e9d2
Successfully tagged code_asset:latest
docker export --output=code_asset.tar $(docker create code_asset:latest)
gzip -9 code_asset.tar
Updating an existing asset with the same name
{
  "name": "code_asset",
  "implementations": [
    {
      "type": "container",
      "assetUri":
"98aaxmpl11c1ef64cde5ac13bd3be5394e5d17064beccee963b4095d83083c343.tar.gz",
      "descriptorUri":
"1872xmpl1129481ed053c52e66d6af8b030f9eb69b1168a29012f01c7034d7a8f.json"
    }
  ]
}
Container asset for the package has been succesfully built at ~/aws-panorama-
sample-dev/
assets/98aaxmpl11c1ef64cde5ac13bd3be5394e5d17064beccee963b4095d83083c343.tar.gz
```

CLI は古いコンテナアセットを `assets` フォルダから自動的に削除し、パッケージ構成を更新します。

3. パッケージをアップロードするには、`4-package-application.py` を実行します。
4. AWS Panorama コンソールの [\[デプロイされたアプリケーション\] ページ](#)を開きます。
5. アプリケーションを選択します。
6. [置換] を選択します。
7. アプリケーションを実行するには、手順に従います。必要に応じて、アプリケーションマニフェスト、カメラストリーム、またはパラメータを変更できます。

コンピュータービジョンモデルの変更

サンプルアプリケーションにはコンピュータービジョンモデルが含まれています。独自のモデルを使用するには、モデルノードの構成を変更し、AWS Panorama アプリケーション CLI を使用してアセットとしてインポートします。

次の例では MXNet SSD ResNet50 モデルを使用しています。このモデルは、このガイドの GitHub リポジトリからダウンロードできます。 [ssd_512_resnet50_v1_voc.tar.gz](#)

サンプルアプリケーションのモデルを変更するには

1. モデルに合うようにパッケージフォルダーの名前を変更します。たとえば、`packages/123456789012-SSD_512_RESNET50_V1_VOC-1.0/` などにします。
2. 次の場所でパッケージ名を更新します。
 - アプリケーションマニフェスト — `graphs/aws-panorama-sample/graph.json`
 - パッケージ構成 – `packages/123456789012-SSD_512_RESNET50_V1_VOC-1.0/package.json`
3. パッケージ構成ファイル (`package.json`) 内。 `assets` 値を空白の配列に変更します。

```
{
  "nodePackage": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "name": "SSD_512_RESNET50_V1_VOC",
    "version": "1.0",
    "description": "Compact classification model",
```

```
"assets": [],
```

4. パッケージ記述ファイル (descriptor.json) を開きます。モデルと一致するように framework および shape の値を更新します。

```
{
  "mlModelDescriptor": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "framework": "MXNET",
    "inputs": [
      {
        "name": "data",
        "shape": [ 1, 3, 512, 512 ]
      }
    ]
  }
}
```

シェイプの値は 1, 3, 512, 512、モデルが入力として受け取る画像の数 (1)、各画像のチャンネル数 (3— 赤、緑、青)、および画像のサイズ (512 x 512) を示します。配列の値と順序はモデルによって異なります。

5. AWS Panorama アプリケーション CLI を使用してモデルをインポートします。AWS Panorama アプリケーション CLI は、モデルファイルと記述子ファイルを一意的な名前ですべて assets フォルダにコピーし、パッケージ構成を更新します。

```
aws-panorama-sample$ panorama-cli add-raw-model --model-asset-name model-asset \
--model-local-path ssd_512_resnet50_v1_voc.tar.gz \
--descriptor-path packages/123456789012-SSD_512_RESNET50_V1_VOC-1.0/descriptor.json \
--packages-path packages/123456789012-SSD_512_RESNET50_V1_VOC-1.0
{
  "name": "model-asset",
  "implementations": [
    {
      "type": "model",
      "assetUri":
"b1a1589afe449b346ff47375c284a1998c3e1522b418a7be8910414911784ce1.tar.gz",
      "descriptorUri":
"a6a9508953f393f182f05f8beaa86b83325f4a535a5928580273e7fe26f79e78.json"
    }
  ]
}
```

}

6. モデルをアップロードするには、`panorama-cli package-application` を実行します。

```
$ panorama-cli package-application
Uploading package SAMPLE_CODE
Patch Version 1844d5a59150d33f6054b04bac527a1771fd2365e05f990ccd8444a5ab775809
already registered, ignoring upload
Uploading package SSD_512_RESNET50_V1_VOC
Patch version for the package
244a63c74d01e082ad012ebf21e67eef5d81ce0de4d6ad1ae2b69d0bc498c8fd
upload: assets/
b1a1589afe449b346ff47375c284a1998c3e1522b418a7be8910414911784ce1.tar.gz to
s3://arn:aws:s3:us-west-2:454554846382:accesspoint/panorama-123456789012-
wc66m5eishf4si4sz5jefhx
63a/123456789012/nodePackages/SSD_512_RESNET50_V1_VOC/binaries/
b1a1589afe449b346ff47375c284a1998c3e1522b418a7be8910414911784ce1.tar.gz
upload: assets/
a6a9508953f393f182f05f8beaa86b83325f4a535a5928580273e7fe26f79e78.json to
s3://arn:aws:s3:us-west-2:454554846382:accesspoint/panorama-123456789012-
wc66m5eishf4si4sz5jefhx63
a/123456789012/nodePackages/SSD_512_RESNET50_V1_VOC/binaries/
a6a9508953f393f182f05f8beaa86b83325f4a535a5928580273e7fe26f79e78.json
{
  "ETag": "\"2381dabba34f4bc0100c478e67e9ab5e\"",
  "ServerSideEncryption": "AES256",
  "VersionId": "KbY5fpESdpYamjWZ0YyGqHo3.LQQWUC2"
}
Registered SSD_512_RESNET50_V1_VOC with patch version
244a63c74d01e082ad012ebf21e67eef5d81ce0de4d6ad1ae2b69d0bc498c8fd
Uploading package SQUEEZENET_PYTORCH_V1
Patch Version 568138c430e0345061bb36f05a04a1458ac834cd6f93bf18fdacdfb62685530
already registered, ignoring upload
```

7. アプリケーションコードを更新します。ほとんどのコードは再利用できます。モデルのレスポンスに固有のコードは、`process_results` メソッド内にあります。

```
def process_results(self, inference_results, stream):
    """Processes output tensors from a computer vision model and annotates a
    video frame."""
    for class_tuple in inference_results:
        indexes = self.topk(class_tuple[0])
        for j in range(2):
```

```
label = 'Class [%s], with probability %.3f. '%  
(self.classes[indexes[j]], class_tuple[0][indexes[j]])  
stream.add_label(label, 0.1, 0.25 + 0.1*j)
```

モデルに応じて、preprocess メソッドを更新する必要があることもあります。

画像の前処理

アプリケーションがイメージをモデルに送信する前に、イメージのサイズを変更してカラーデータを正規化することで、イメージを推論できるように準備します。アプリケーションが使用するモデルには、最初のレイヤーの入力数に合わせて、3つのカラーチャンネルを含む 224 x 224 ピクセルの画像が必要です。アプリケーションは、各色の値を 0 から 1 の間の数値に変換し、その色の平均値を引いて標準偏差で割ることによって調整します。最後に、カラーチャンネルを結合し、モデルが処理できる NumPy 配列に変換します。

Exampleアプリケーション.py — 前処理

```
def preprocess(self, img, width):  
    resized = cv2.resize(img, (width, width))  
    mean = [0.485, 0.456, 0.406]  
    std = [0.229, 0.224, 0.225]  
    img = resized.astype(np.float32) / 255.  
    img_a = img[:, :, 0]  
    img_b = img[:, :, 1]  
    img_c = img[:, :, 2]  
    # Normalize data in each channel  
    img_a = (img_a - mean[0]) / std[0]  
    img_b = (img_b - mean[1]) / std[1]  
    img_c = (img_c - mean[2]) / std[2]  
    # Put the channels back together  
    x1 = [[[ ], [ ], [ ]]]  
    x1[0][0] = img_a  
    x1[0][1] = img_b  
    x1[0][2] = img_c  
    return np.asarray(x1)
```

このプロセスにより、0 を中心とした予測可能な範囲内のモデル値が得られます。これはトレーニングデータセット内の画像に適用される前処理と一致します。これは標準的な方法ですが、モデルごとに異なる場合があります。

Python 用 SDK によるメトリクスのアップロード

サンプルアプリケーションは Python 用 SDK を使用して Amazon CloudWatch にメトリクスをアップロードします。

Exampleアプリケーション.py — Python 用 SDK

```
def process_streams(self):
    """Processes one frame of video from one or more video streams."""
    ...
    logger.info('epoch length: {:.3f} s ({:.3f} FPS)'.format(epoch_time,
epoch_fps))
    logger.info('avg inference time: {:.3f} ms'.format(avg_inference_time))
    logger.info('max inference time: {:.3f} ms'.format(max_inference_time))
    logger.info('avg frame processing time: {:.3f}
ms'.format(avg_frame_processing_time))
    logger.info('max frame processing time: {:.3f}
ms'.format(max_frame_processing_time))
    self.inference_time_ms = 0
    self.inference_time_max = 0
    self.frame_time_ms = 0
    self.frame_time_max = 0
    self.epoch_start = time.time()
    self.put_metric_data('AverageInferenceTime', avg_inference_time)
    self.put_metric_data('AverageFrameProcessingTime',
avg_frame_processing_time)

def put_metric_data(self, metric_name, metric_value):
    """Sends a performance metric to CloudWatch."""
    namespace = 'AWSPanoramaApplication'
    dimension_name = 'Application Name'
    dimension_value = 'aws-panorama-sample'
    try:
        metric = self.cloudwatch.Metric(namespace, metric_name)
        metric.put_data(
            Namespace=namespace,
            MetricData=[{
                'MetricName': metric_name,
                'Value': metric_value,
                'Unit': 'Milliseconds',
                'Dimensions': [
                    {
                        'Name': dimension_name,
```

```

        'Value': dimension_value
    },
    {
        'Name': 'Device ID',
        'Value': self.device_id
    }
]
    ]
    ])
)
logger.info("Put data for metric %s.%s", namespace, metric_name)
except ClientError:
    logger.warning("Couldn't put data for metric %s.%s", namespace,
metric_name)
except AttributeError:
    logger.warning("CloudWatch client is not available.")

```

デプロイ時に割り当てたランタイムロールから権限を取得します。ロールは `aws-panorama-sample.yml` CloudFormation テンプレートで定義されます。

Example [aws-panorama-サンプル.yml](#)

```

Resources:
  runtimeRole:
    Type: AWS::IAM::Role
    Properties:
      AssumeRolePolicyDocument:
        Version: "2012-10-17"
        Statement:
          -
            Effect: Allow
            Principal:
              Service:
                - panorama.amazonaws.com
            Action:
              - sts:AssumeRole
    Policies:
      - PolicyName: cloudwatch-putmetrics
        PolicyDocument:
          Version: 2012-10-17
          Statement:
            - Effect: Allow
              Action: 'cloudwatch:PutMetricData'
              Resource: '*'

```

```
Path: /service-role/
```

サンプルアプリケーションは、Python 用の SDK とその他の依存関係をピップでインストールします。アプリケーションコンテナをビルドすると、Dockerfile はコマンドを実行して、ベースイメージに付属しているものの上にライブラリをインストールします。

Example [Dockerfile](#)

```
FROM public.ecr.aws/panorama/panorama-application
WORKDIR /panorama
COPY . .
RUN pip install --no-cache-dir --upgrade pip && \
    pip install --no-cache-dir -r requirements.txt
```

アプリケーションコードで AWS SDK を使用するには、まずテンプレートを変更して、アプリケーションが使用するすべての API アクションのアクセス許可を追加します。変更を行う `1-create-role.sh` たびに を実行して CloudFormation スタックを更新します。次に、変更内容をアプリケーションコードにデプロイします。

既存のリソースを変更または使用するアクションでは、ターゲット Resource の名前またはパターンを別のステートメントで指定して、このポリシーの範囲を最小限に抑えるのがベストプラクティスです。各サービスでサポートされているアクションとリソースの詳細については、サービス承認リファレンスの「[アクション、リソース、条件キー](#)」を参照してください。

次の手順

AWS Panorama アプリケーション CLI を使用してアプリケーションをビルドし、パッケージを最初から作成する手順については、CLI の README を参照してください。

- github.com/aws/aws-panorama-cli

デプロイ前にアプリケーションコードを検証するために使用できるその他のサンプルコードとテストユーティリティについては、AWS Panorama サンプルリポジトリをご覧ください。

- github.com/aws-samples/aws-panorama-samples

サポートされているコンピュータビジョンモデルとカメラ

AWS Panorama は PyTorch、Apache MXNet、TensorFlow で構築されたモデルをサポートしています。アプリケーションをデプロイすると、AWS Panorama は SageMaker AI Neo でモデルをコンパイルします。Amazon SageMaker SageMaker AI または開発環境でモデルを構築できます。

動画を処理して画像を取得してモデルに送信するには、AWS Panorama アプライアンスは RTSP プロトコルを使用して H.264 でエンコードされたビデオストリームに接続します。AWS Panorama は、さまざまな一般的なカメラの互換性をテストします。

セクション

- [サポートされているモデル](#)
- [サポート対象カメラ](#)

サポートされているモデル

AWS Panorama 用のアプリケーションを構築するときは、アプリケーションがコンピュータビジョンに使用する機械学習モデルを提供します。モデルフレームワークによって提供される、事前構築済みでトレーニング済みのモデル、[サンプルモデル](#)、または自分で構築してトレーニングしたモデルを使用できます。

Note

AWS Panorama でテストされたビルド済みモデルのリストについては、[「モデルの互換性」](#)を参照してください。

アプリケーションをデプロイすると、AWS Panorama は SageMaker AI Neo コンパイラを使用してコンピュータビジョンモデルをコンパイルします。SageMaker AI Neo は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) のインスタンスや AWS Panorama アプライアンスなどのエッジデバイスなど、ターゲットプラットフォームで効率的に実行されるようにモデルを最適化するコンパイラです。

AWS Panorama は、SageMaker AI Neo によってエッジデバイス用にサポートされている PyTorch、Apache MXNet、および TensorFlow のバージョンをサポートしています。独自のモデルを構築するときは、[SageMaker AI Neo リリースノート](#)に記載されているフレームワークバージョンを使用できます。SageMaker AI では、組み込みの[イメージ分類アルゴリズム](#)を使用できます。

AWS Panorama でのモデルの使用の詳細については、「[コンピュータービジョンモデル](#)」を参照してください。

サポート対象カメラ

AWS Panorama アプライアンスは、ローカルネットワーク経由で RTSP を出力するカメラからの H.264 ビデオストリームをサポートします。2 メガピクセルを超えるカメラストリームの場合、アプライアンスは画像を 1920x1080 ピクセル、またはストリームの縦横比を維持する同等のサイズに縮小します。

以下のカメラモデルは、AWS Panorama アプライアンスとの互換性がテストされています。

- [Axis](#) — M3057-PLVE、M3058-PLVE、P1448-LE、P3225-LV Mk II
- [LaVIEW](#) — LV-PB3040W
- [Vivotek](#) – IB9360-H
- [Amcrest](#) – IP2M-841B
- Anpviz — IPC-B850W-S-3X、IPC-D250W-S
- WGCC – Dome PoE 4MP ONVIF

アプライアンスのハードウェア仕様については、「[AWS Panorama アプライアンスの仕様](#)」を参照してください。

AWS Panorama アプライアンスの仕様

AWS Panorama アプライアンスのハードウェア仕様は次のとおりです。その他の[互換性のあるデバイス](#)については、製造元の説明書をご参照ください。

コンポーネント	の仕様
プロセッサと GPU	Nvidia Jetson AGX Xavier (32 GB RAM 搭載)
イーサネット	1000 Base-T (ギガバイト) x 2
USB	USB 2.0 x 1 と USB 3.0 タイプ A メス x 1
HDMI 出力	2.0a
ディメンション	7.75 インチ x 9.6 インチ x 1.6 インチ (197mm x 243mm x 40mm)
重量	3.7 ポンド (1.7 kg)
電源	100V-240V 50-60Hz AC 65W
電源入力	IEC 60320 C6 (3 ピン) レセプタクル
ほこりや液体からの保護	IP-62
EMI/EMC 規制コンプライアンス	FCC Part-15 (米国)
サーマル・ タッチ・ リミット	IEC-62368
動作温度	-20°C ~ 60°C
動作時湿度	相対湿度 (RH) 0% から 95%
保管温度	-20°C ~ 85°C
保管時の湿度	低温では制御されません。高温では相対湿度 (RH) 90%
冷却	強制空気熱抽出 (ファン)

コンポーネント	の仕様
取り付けオプション	ラックマウントまたはフリースタンディング
電源コード	6 フィート (1.8 メートル)
電源管理	プッシュボタン
リセット	モーメンタリスイッチ
ステータス LED とネットワーク LED	プログラム可能な 3 色 RGB LED

Wi-Fi、Bluetooth、SD カードストレージはアプライアンスに搭載されていますが、使用できません。

AWS Panorama アプライアンスには、サーバーラックに取り付けるためのネジが 2 本付属されています。2 つのアプライアンスを並べて 19 インチラックに取り付けることができます。

Service Quotas

AWS Panorama は、アカウントで作成したリソースとデプロイするアプリケーションにクォータを適用します。複数の AWS リージョンで AWS Panorama を使用する場合、クォータはリージョンごとに個別に適用されます。AWS Panorama クォータは調整できません。

AWS Panorama のリソースには、デバイス、アプリケーションノードパッケージ、アプリケーションインスタンスが含まれます。

- デバイス — 1 リージョンあたり最大 50 件の登録済みアプライアンス。
- ノードパッケージ — 1 リージョンあたり 50 パッケージ、1 パッケージあたり最大 20 バージョン。
- アプリケーションインスタンス — デバイスあたり最大 10 個のアプリケーション。各アプリケーションは最大 8 つのカメラストリームを監視できます。各デバイスのデプロイは 1 日あたり 200 件に制限されています。

AWS Panorama Application CLI AWS Command Line Interface、または AWS Panorama サービスで AWS SDK を使用する場合、実行する API コールの数にクォータが適用されます。1 秒あたり合計 5 回までリクエストできます。リソースを作成または変更する API オペレーションの一部には、1 秒あたり 1 リクエストという追加の制限が適用されます。

クォータの全リストについては、[Service Quotas コンソール](#)にアクセスするか、Amazon Web Services 全般のリファレンスの[AWS Panorama エンドポイントとクォータ](#)を参照してください。

AWS Panorama アクセス許可

AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して、アプライアンスやアプリケーションなどの AWS Panorama サービスやリソースへのアクセスを管理できます。を使用するアカウントのユーザーの場合 AWS Panorama、IAM ロールに適用できるアクセス許可ポリシーでアクセス許可を管理します。アプリケーションの権限を管理するには、ロールを作成してそのロールをアプリケーションに割り当てます。

アカウントの[ユーザーのアクセス許可を管理する](#)には、AWS Panorama が提供する 管理ポリシーを使用するか、独自のポリシーを作成します。アプリケーションとアプライアンスのログの取得、メトリクスの表示、アプリケーションへのロールの割り当てを行うには、他の AWS サービスへのアクセス許可が必要です。

AWS Panorama アプライアンスには、AWS サービスとリソースへのアクセス許可を付与するロールもあります。アプライアンスのロールは、[サービスがユーザーに代わって他のサービスにアクセスするために使用するサービスロール](#)の 1 つです。AWS Panorama

[アプリケーションロール](#)は、でサービスを使用するアクセス許可を付与するために、アプリケーション用に作成する別の AWS サービスロールです AWS SDK for Python (Boto)。アプリケーションロールを作成するには、管理者権限または管理者の助けが必要です。

ユーザーのアクセス許可は、アクションが影響を及ぼすリソース (場合によっては追加条件) を使用して制限することができます。例えば、ユーザーが作成するアプリケーションの名前にユーザー名を含めることを要求するアプリケーションの Amazon リソースネーム (ARN) のパターンを指定することができます。各アクションでサポートされているリソースと条件については、サービス承認リファレンスの[アクション、リソース、および条件キー AWS Panorama](#)を参照してください。

詳細については、IAM ユーザーガイドの[IAM とは](#)を参照してください。

トピック

- [AWS Panorama のアイデンティティベースの IAM ポリシー](#)
- [AWS Panorama サービスロールとクロスサービスリソース](#)
- [アプリケーションへの権限の付与](#)

AWS Panorama のアイデンティティベースの IAM ポリシー

アカウントのユーザーに AWS Panorama へのアクセスを許可するには、AWS Identity and Access Management (IAM) でアイデンティティベースのポリシーを使用します。ユーザーに関連付けられている IAM ロールにアイデンティティベースのポリシーを適用する。または、アカウントのロールを引き受け、AWS Panorama リソースにアクセスするためのアクセス権限を別のアカウントのユーザーに付与することもできます。

AWS Panorama は、AWS Panorama API アクションへのアクセスを許可し、場合によっては、AWS Panorama リソースの開発と管理に使用される他のサービスへのアクセスを許可する、マネージドポリシーを提供します。AWS Panorama は、新機能がリリースされたときにユーザーがそれらにアクセスできるよう、これらのマネージドポリシーを必要に応じて更新します。

- `AWSPanoramaFullAccess` – AWS Panorama、Amazon S3 の AWS Panorama アクセスポイント、 のアプライアンス認証情報 AWS Secrets Manager、Amazon CloudWatch のアプライアンスログへのフルアクセスを提供します。AWS Panorama の [サービスにリンクされたロール](#) を作成する権限が含まれます。 [ポリシーを表示](#)

この `AWSPanoramaFullAccess` ポリシーでは、AWS Panorama リソースにタグを付けることはできますが、AWS Panorama コンソールで使用されるタグ関連の権限がすべて含まれているわけではありません。これらの権限を付与するには、次のポリシーを追加します。

- `ResourceGroupsandTagEditorFullAccess` – [ポリシーを表示する](#)

この `AWSPanoramaFullAccess` ポリシーには、AWS Panorama コンソールからデバイスを購入する権限は含まれていません。これらの権限を付与するには、次のポリシーを追加します。

- `ElementalAppliancesSoftwareFullAccess` - [ポリシーを表示する](#)

管理されたポリシーは、ユーザーが変更できるリソースを制限することなく、APIアクションに権限を付与します。きめ細かな制御では、ユーザーのアクセス許可の範囲を制限する独自のポリシーを作成することができます。フルアクセスポリシーをポリシーの出発点として使用してください。

サービスロールの作成

[AWS Panorama コンソール](#) を初めて使用するときは、AWS Panorama アプライアンスで使用される [サービスロール](#) を作成する権限が必要です。サービスロールは、リソースを管理

したり、他のサービスとやり取りしたりする権限をサービスに付与します。このロールは、ユーザーにアクセス権を付与する前に作成してください。

AWS Panorama でユーザーのアクセス許可の範囲を制限するために使用できるリソースと条件の詳細については、「サービス認可リファレンス」の [「AWS Panorama のアクション、リソース、および条件キー」](#) を参照してください。

AWS Panorama サービスロールとクロスサービスリソース

AWS Panorama は、他の AWS サービスを使用して AWS Panorama アプライアンスの管理、データの保存、アプリケーションリソースのインポートを行います。サービスロールは、リソースを管理したり、他のサービスとやり取りしたりする権限をサービスに付与します。AWS Panorama コンソールに初めてサインインするには、次のサービスロールを使用します。

- `AWSServiceRoleForAWSPanorama` — AWS Panorama が AWS IoT、AWS Secrets Manager、および AWS Panorama のリソースを管理できるようにします。

マネージドポリシー: [Panoramaサービスにリンクされたロールポリシー](#)

- `AWSPanoramaApplianceServiceRole` — AWS Panorama アプライアンスが CloudWatch にログをアップロードし、AWS Panorama によって作成された Amazon S3 Access Points からオブジェクトを取得することを許可します。

マネージドポリシー: [AWSPanoramaApplianceServiceRolePolicy](#)

各ロールにアタッチされている権限を表示するには、[IAM コンソール](#)を使用してください。ロールの権限は、可能な限り、AWS Panorama が使用する命名パターンに一致するリソースに制限されます。たとえば、`panorama` を持つ AWS IoT リソースにアクセスするためのアクセス許可のみをサービス `panorama` に `AWSServiceRoleForAWSPanorama` 付与します。

セクション

- [アプライアンスロールの保護](#)
- [他のサービスの使用](#)

アプライアンスロールの保護

AWS Panorama アプライアンスは `AWSPanoramaApplianceServiceRole` ロールを使用してアカウントのリソースにアクセスします。アプライアンスには、CloudWatch Logs へのログのアップロード、カメラストリーム認証情報の読み取り、AWS Secrets Manager、AWS Panorama が作成する Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) アクセスポイントのアプリケーションアーティファクトへのアクセス許可があります。

Note

アプリケーションはアプライアンスの権限を使用しません。アプリケーションに AWS サービスを使用する権限を与えるには、[アプリケーションロール](#)を作成します。

AWS Panorama は、アカウント内のすべてのアプライアンスで同じサービスロールを使用し、アカウント間でロールを使用することはありません。セキュリティを強化するために、アプライアンスロールの信頼ポリシーを変更してこれを明示的に適用できます。これは、ロールを使用してアカウント内のリソースにアクセスするためのサービス権限をサービスに付与する場合のベストプラクティスです。

アプライアンスロールの信頼ポリシーを更新するには

1. IAM コンソールでアプライアンスロール ([AWSPanoramaApplianceServiceRole](#)) を開きます。
2. [Edit trust relationship (信頼関係の編集)] を選択します。
3. ポリシーの内容を更新し、[信頼ポリシーの更新]を選択します。

以下の信頼ポリシーには、AWS Panorama がアプライアンスの役割を引き受けるときに、アカウント内のアプライアンスに対してその役割を担うことを保証する条件が含まれています。aws:SourceAccount 条件は、AWS Panorama で指定されたアカウント ID を、ポリシーに含めたアカウント ID と比較します。

Example信頼ポリシー — 特定のアカウント

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "panorama.amazonaws.com"
      },
      "Action": "sts:AssumeRole",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceAccount": "123456789012"
        }
      }
    }
  ]
}
```

```
    }  
  }  
}  
]  
}
```

AWS Panorama をさらに制限し、特定のデバイスでのみロールを引き受けられるようにしたい場合は、ARN でデバイスを指定できます。aws:SourceArn 条件は、AWS Panorama で指定されたアプライアンスの ARN を、ポリシーに含めたアカウント ID と比較します。

Example信頼ポリシー — 単一アプライアンス

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",  
  "Statement": [  
    {  
      "Effect": "Allow",  
      "Principal": {  
        "Service": "panorama.amazonaws.com"  
      },  
      "Action": "sts:AssumeRole",  
      "Condition": {  
        "ArnLike": {  
          "aws:SourceArn": "arn:aws:panorama:us-east-1:123456789012:device/  
device-1k7exmplpvcr3heqwjmesw76ky"  
        },  
        "StringEquals": {  
          "aws:SourceAccount": "123456789012"  
        }  
      }  
    }  
  ]  
}
```

アプライアンスをリセットして再プロビジョニングする場合は、ソース ARN 条件を一時的に削除してから、新しいデバイス ID を使用して再度追加する必要があります。

これらの条件と、サービスがロールを使用してアカウント内のリソースにアクセスする場合のセキュリティのベストプラクティスについては、「IAM ユーザーガイド」の「[混乱した代理問題](#)」を参照してください。

他のサービスの使用

AWS Panorama は、以下のサービスのリソースを作成またはアクセスします。

- [AWS IoT](#) — AWS Panorama アプライアンス用のモノ、ポリシー、証明書、ジョブ
- [Amazon S3](#) — アプリケーションモデル、コード、構成をステージングするためのアクセスポイント。
- [Secrets Manager](#) — AWS Panorama アプライアンスの短期認証情報。

各サービスの Amazon リソースネーム (ARN) 形式または権限スコープについては、このリストにリンクされている IAM ユーザーガイドのトピックを参照してください。

アプリケーションへの権限の付与

アプリケーションのロールを作成して、AWS サービスを呼び出すアクセス許可を付与できます。デフォルトでは、アプリケーションには何も権限がありません。IAM でアプリケーションロールを作成し、デプロイ時にアプリケーションに割り当てます。アプリケーションに必要な権限のみを付与するには、特定の API アクションの権限を持つロールを作成します。

[サンプルアプリケーション](#)には、アプリケーションロールを作成する CloudFormation テンプレートとスクリプトが含まれています。AWS Panorama が引き受けることができる [サービスロール](#)です。このロールは、アプリケーションに CloudWatch を呼び出してメトリックスをアップロードする権限を付与します。

Example [aws-panorama-sample.yml](#) — アプリケーションロール

```
Resources:
  runtimeRole:
    Type: AWS::IAM::Role
    Properties:
      AssumeRolePolicyDocument:
        Version: "2012-10-17"
        Statement:
          -
            Effect: Allow
            Principal:
              Service:
                - panorama.amazonaws.com
            Action:
              - sts:AssumeRole
      Policies:
        - PolicyName: cloudwatch-putmetrics
          PolicyDocument:
            Version: 2012-10-17
            Statement:
              - Effect: Allow
                Action: 'cloudwatch:PutMetricData'
                Resource: '*'
      Path: /service-role/
```

Action の値に API アクションまたはパターンのリストを指定することで、このスクリプトを拡張して他のサービスにアクセス許可を付与できます。

AWS Panorama でのアクセス権限の詳細は、[AWS Panorama アクセス許可](#) をご参照ください。

AWS Panorama アプライアンスの管理

AWS Panorama アプライアンスは、アプリケーションを実行するハードウェアです。AWS Panorama コンソールを使用して、アプライアンスを登録し、ソフトウェアを更新して、そのアプライアンスにアプリケーションをデプロイします。AWS Panorama アプライアンスのソフトウェアはカメラストリームに接続し、ビデオのフレームをアプリケーションに送信し、アタッチされたディスプレイにビデオ出力を表示します。

アプライアンスまたは別の[互換性のあるデバイス](#)を設定したのち、アプリケーションで使用するカメラを登録します。AWS Panorama コンソールで[カメラストリームを管理します](#)。アプリケーションをデプロイする際は、アプライアンスがどのカメラストリームを送信して処理するかを選択します。

サンプルアプリケーションで AWS Panorama アプライアンスを紹介するチュートリアルについては、「」を参照してくださいの[開始方法 AWS Panorama](#)。

トピック

- [AWS Panorama アプライアンスの管理](#)
- [AWS Panorama アプライアンスをネットワークに接続します](#)
- [AWS Panorama でのカメラストリームの管理](#)
- [AWS Panorama アプライアンスでのアプリケーションの管理](#)
- [AWS Panorama アプライアンスのボタンとライト](#)

AWS Panorama アプライアンスの管理

[AWS Panorama コンソール](#)を使用して、[AWS Panorama アプライアンス](#)やその他の[互換性のあるデバイス](#)を構成、アップグレード、または登録解除します。

アプライアンスをセットアップするには、[入門チュートリアル](#)の指示に従ってください。セットアッププロセスでは、アプライアンスを追跡し、更新とデプロイを調整するリソースが AWS Panorama に作成されます。

AWS Panorama API にアプライアンスを登録するには、「[デバイス登録を自動化](#)」を参照してください。

セクション

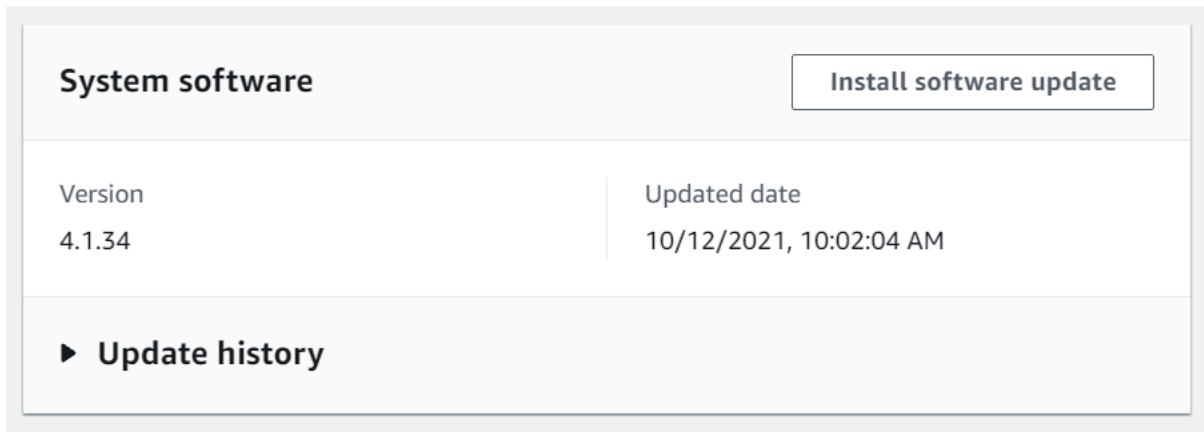
- [アプライアンスソフトウェアを更新します。](#)
- [アプライアンスの登録解除](#)
- [アプライアンスの再起動](#)
- [アプライアンスのリセット](#)

アプライアンスソフトウェアを更新します。

AWS Panorama コンソールでアプライアンスのソフトウェアアップデートを表示してデプロイします。更新は必須またはオプションです。必要なアップデートが入手可能になると、コンソールからそのアップデートを適用するよう求められます。アプライアンスの[設定] ページでオプションのアップデートを適用できます。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードする

1. AWS Panorama コンソールの [\[デバイス\] ページ](#)を開きます。
2. アプライアンスを選択します。
3. [設定] を選択します。
4. [システムのソフトウェア] で [ソフトウェアのインストール] を選択します。



5. 新しいバージョンを選択し、[インストール] を選択します。

アプライアンスの登録解除

アプライアンスの使用が終了したら、AWS Panorama コンソールを使用してアプライアンスの登録を解除し、関連する AWS IoT リソースを削除できます。

アプライアンスを削除するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[デバイス\] ページ](#) を開きます。
2. アプライアンスの名前を選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. アプライアンスの名前を入力し、[削除] を選択します。

AWS Panorama サービスからアプライアンスを削除しても、アプライアンス上のデータは自動的に削除されません。登録解除されたアプライアンスは AWS サービスに接続できず、リセットされるまで再度登録できません。

アプライアンスの再起動

アプライアンスはリモートで再起動できます。

アプライアンスを再起動するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[デバイス\] ページ](#) を開きます。
2. アプライアンスの名前を選択します。
3. [再起動] を選択します。

コンソールはアプライアンスに再起動を求めるメッセージを送信します。信号を受信するには、アプライアンスが AWS IoT に接続できる必要があります。AWS Panorama API にアプライアンスを再起動するには、「[アプライアンスの再起動](#)」を参照してください。

アプライアンスのリセット

別のリージョンまたは別のアカウントのアプライアンスを使用するには、アプライアンスをリセットし、新しい証明書で再プロビジョニングする必要があります。デバイスをリセットすると、必要な最新のソフトウェアバージョンが適用され、すべてのアカウントデータが削除されます。

リセット操作を開始するには、アプライアンスを接続して電源を切る必要があります。電源ボタンとリセットボタンの両方を 5 秒間押し続けます。ボタンを離すと、ステータスライトがオレンジ色に点滅します。ステータスライトが緑色に点滅するまで待ってから、アプライアンスをプロビジョニングまたは切断してください。

デバイスから証明書を削除せずにアプライアンスソフトウェアをリセットすることもできます。詳細については、「[電源ボタンとリセットボタン](#)」を参照してください。

AWS Panorama アプライアンスをネットワークに接続します

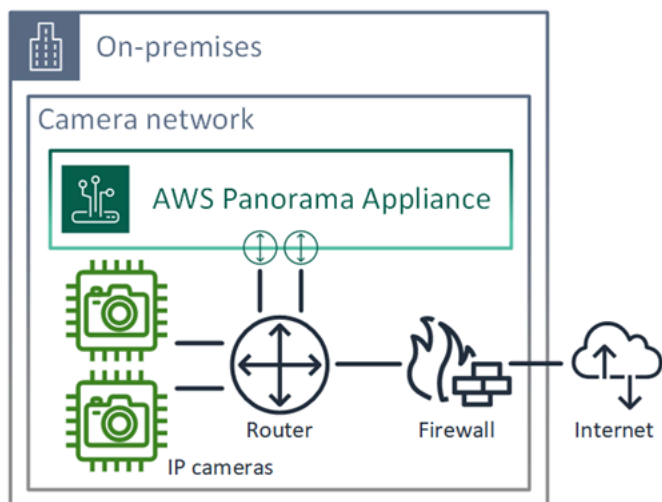
AWS Panorama アプライアンスは、IP カメラの AWS クラウドネットワークとオンプレミスネットワークの両方に接続する必要があります。アプライアンスを両方へのアクセスを許可する単一のファイアウォールに接続することも、デバイスの 2 つのネットワークインターフェイスをそれぞれ別のサブネットに接続することもできます。いずれの場合も、カメラストリームへの不正アクセスを防ぐために、アプライアンスのネットワーク接続を保護する必要があります。

セクション

- [単一ネットワークの構成](#)
- [デュアルネットワーク構成](#)
- [サービスアクセスを構成する](#)
- [ローカルネットワークアクセスの構成](#)
- [プライベート接続](#)

単一ネットワークの構成

アプライアンスには 2 つのイーサネットポートがあります。デバイスとの間で送受信されるすべてのトラフィックを 1 台のルーター経由でルーティングすれば、1 つ目のポートとの物理的な接続が切断された場合に備えて、2 つ目のポートを冗長化できます。アプライアンスがカメラストリームとインターネットにのみ接続できるようにし、それ以外の場合はカメラストリームが内部ネットワークから送信されないようにルーターを構成します。

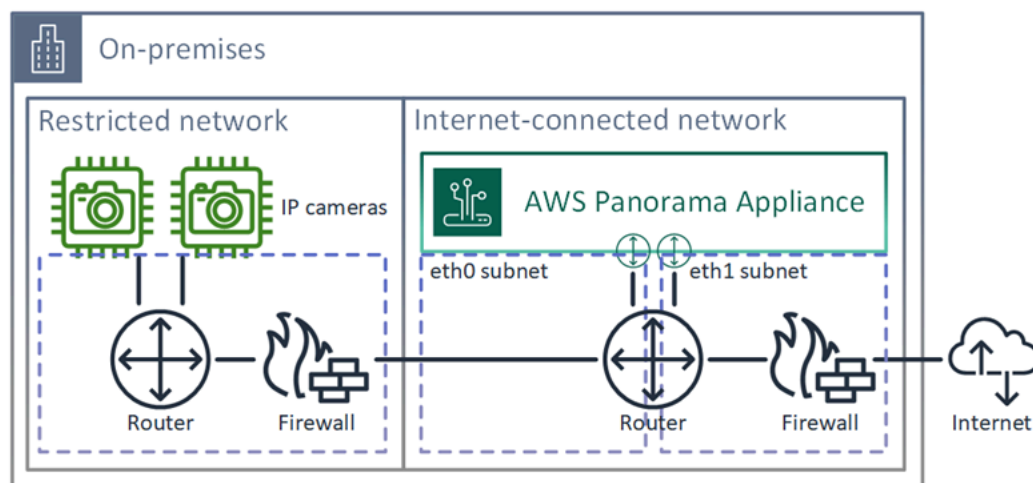


アプライアンスがアクセスする必要があるポートとエンドポイントの詳細については、「[サービスアクセスを構成する](#)」と「[ローカルネットワークアクセスの構成](#)」を参照してください。

デュアルネットワーク構成

セキュリティをさらに強化するために、カメラネットワークとは別のインターネットに接続されたネットワークにアプライアンスを配置できます。制限されたカメラネットワークとアプライアンスのネットワーク間のファイアウォールにより、アプライアンスはビデオストリームにアクセスすることのみ許可されます。セキュリティ上の目的でカメラネットワークがエアギャップになっていた場合は、インターネットへのアクセスも許可するルーターにカメラネットワークを接続するよりも、この方法の方が適しているかもしれません。

以下の例は、アプライアンスを各ポートの異なるサブネットに接続しているところを示しています。ルーターはeth0 インターフェイスをカメラネットワークにルーティングするサブネットと、インターネットにルーティングする eth1 サブネットに配置します。



各ポートの IP アドレスと MAC アドレスは AWS Panorama コンソールで確認できます。

サービスアクセスを構成する

[プロビジョニング](#)中に、特定の IP アドレスをリクエストするようにアプライアンスを構成できます。IP アドレスを事前に選択しておくことで、ファイアウォールの構成が簡単になり、長期間オフラインになってもアプライアンスのアドレスが変更されないようになります。

アプライアンスは AWS サービスを使用して、ソフトウェアの更新とデプロイを調整します。アプライアンスがこれらのエンドポイントに接続できるようにファイアウォールを構成します。

インターネットアクセス

- AWS IoT (HTTPS および MQTT、ポート 443、8443、8883) – AWS IoT Core およびデバイス管理エンドポイント。詳細については、Amazon Web Services 全般のリファレンスの「[AWS IoT Device Management エンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。
- AWS IoT 認証情報 (HTTPS、ポート 443) – `credentials.iot.<region>.amazonaws.com` および サブドメイン。
- Amazon エラスティックコンテナレジストリ (HTTPS、ポート 443) — `api.ecr.<region>.amazonaws.com`、`dkr.ecr.<region>.amazonaws.com` および サブドメイン。
- Amazon CloudWatch (HTTPS、ポート 443) — `monitoring.<region>.amazonaws.com`。
- Amazon CloudWatch Logs (HTTPS、ポート 443) — `logs.<region>.amazonaws.com`。
- Amazon シンプルストレージサービス (HTTPS、ポート 443) — `s3.<region>.amazonaws.com`、`s3-accesspoint.<region>.amazonaws.com` および サブドメイン。

アプリケーションが他の AWS サービスを呼び出す場合、アプライアンスはそれらのサービスのエンドポイントにもアクセスする必要があります。詳細については、「[サービスエンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。

ローカルネットワークアクセスの構成

アプライアンスはローカルで RTSP ビデオストリームにアクセスする必要がありますが、インターネット経由ではアクセスできません。アプライアンスがポート 554 の RTSP ストリームに内部的にアクセスできるようにし、ストリームがインターネットに出入りしないようにファイアウォールを構成します。

ローカルアクセス

- リアルタイムストリーミングプロトコル (RTSP、ポート 554) — カメラストリームを読み取ります。
- ネットワークタイムプロトコル (NTP、ポート 123) — アプライアンスの時計を同期させます。ネットワーク上で NTP サーバーを実行していない場合、アプライアンスはインターネット経由でパブリック NTP サーバーに接続することもできます。

プライベート接続

VPN 接続のプライベート VPC サブネットにデプロイする場合、AWS Panorama アプライアンスはインターネットアクセスを必要としません AWS。Site-to-Site VPN または Direct Connect を使用して、オンプレミスルーターとの間に VPN 接続を作成できます AWS。プライベート VPC サブネット内に、アプライアンスが Amazon Simple Storage Service AWS IoTやその他の サービスに接続できるようにするエンドポイントを作成します。詳細については、「[アプライアンスをプライベートサブネットに接続する](#)」を参照してください。

AWS Panorama でのカメラストリームの管理

ビデオストリームをアプリケーションのデータソースとして登録するには、AWS Panorama コンソールを使用します。アプリケーションは複数のストリームを同時に処理でき、複数のアプライアンスを同じストリームに接続できます。

⚠ Important

アプリケーションは、接続先のローカルネットワークからルーティング可能な任意のカメラストリームに接続できます。ビデオストリームを保護するには、ローカルで RTSP トライクのみを許可するようにネットワークを構成します。詳細については、「[AWS Panorama セキュリティ](#)」を参照してください。

カメラストリームを登録するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[データソース\] ページ](#)を開きます。
2. [\[データソースを追加する\]](#)を選択する。

Add data source

Camera stream details [Info](#)

Name

This is a unique name that identifies the camera. A descriptive name will help you differentiate between your multiple camera streams.

The camera stream name can have up to 255 characters. Valid characters are a-z, A-Z, 0-9, _ (underscore) and - (hyphen).

Description - optional

Providing a description will help you differentiate between your multiple camera streams.

The description can have up to 255 characters.

3. 以下を設定します。

- 名前 — カメラストリームの名前。
 - 説明 — カメラ、その場所、その他の詳細に関する簡単な説明。
 - RTSP URL — カメラの IP アドレスとストリームへのパスを指定する URL。例えば、`rtsp://192.168.0.77/live/mpeg4/`
 - 認証情報 — カメラストリームがパスワードで保護されている場合は、ユーザーネームとパスワードを指定します。
4. [保存] を選択します。

カメラストリームを AWS Panorama API に登録するには、「[デバイス登録を自動化](#)」を参照してください。

AWS Panorama アプライアンスと互換性のあるカメラのリストについては、[サポートされているコンピュータービジョンモデルとカメラ](#) を参照してください。

ストリームを削除します。

カメラストリームは AWS Panorama コンソールで削除できます。

カメラストリームを削除するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[データソース\] ページ](#) を開きます。
2. カメラストリームを選択します
3. [データソースを削除する] を選択します。

サービスからカメラストリームを削除しても、アプリケーションの実行が停止したり、Secrets Manager からカメラの認証情報が削除されたりすることはありません。シークレットを削除するには、[Secrets Manager コンソール](#) を使用してください。

AWS Panorama アプライアンスでのアプリケーションの管理

アプリケーションは、コード、モデル、構成を組み合わせたものです。AWS Panorama コンソールのデバイスページから、アプライアンス上のアプリケーションを管理できます。

AWS Panorama アプライアンスでアプリケーションを管理するには

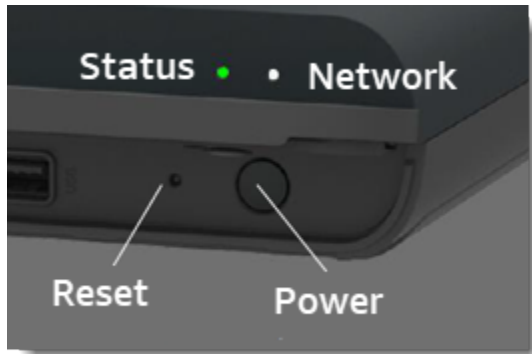
1. AWS Panorama コンソールの [\[デバイス\] ページ](#) を開きます。
2. アプライアンスを選択します。

[デプロイされたアプリケーション] ページには、アプライアンスにデプロイされたアプリケーションが表示されます。

このページのオプションを使用して、デプロイされたアプリケーションをアプライアンスから削除したり、実行中のアプリケーションを新しいバージョンに置き換えたりします。また、(実行中または削除済みの) アプリケーションを複製して、その新しいコピーをデプロイすることもできます。

AWS Panorama アプライアンスのボタンとライト

AWS Panorama アプライアンスの電源ボタンの上には、デバイスのステータスとネットワーク接続を示す 2 つの LED ライトがあります。



ステータスライト

LED の色が変わり、点滅してステータスを示します。ゆっくり点滅するのは 3 秒に 1 回です。高速点滅は 1 秒に 1 回です。

ステータス LED の状態が表示されます。

- 緑色で高速点滅 — アプライアンスは起動中です。
- 緑色で点灯 — アプライアンスは正常に動作しています。
- 青色でゆっくり点滅 — アプライアンスは設定ファイルをコピーし、 [に登録しようとしています](#) AWS IoT。
- 青色で高速点滅 — アプライアンスは [ログイメージを USB ドライブにコピー](#) しています。
- 赤色で高速点滅 — アプライアンスのスタートアップ中にエラーが発生したか、過熱状態になっています。
- オレンジ色でゆっくり点滅 — アプライアンスは最新のソフトウェアバージョンを復元中です。
- オレンジ色で高速点滅 — アプライアンスは最低ソフトウェアバージョンを復元中です。

ネットワークライト

ネットワーク LED には以下の状態があります。

ネットワーク LED の状態

- 緑色で点灯 — イーサネットケーブルが接続されています。

- 緑色で点滅 — アプライアンスはネットワーク経由で通信中です。
- 赤色で点灯 — イーサネットケーブルが接続されています。

電源ボタンとリセットボタン

電源ボタンとリセットボタンは、デバイス前面の保護カバーの下にあります。リセットボタンは小さく、くぼんでいます。小さなドライバーやペーパークリップを使って押してください。

アプライアンスをリセットするには

1. アプライアンスを接続し、電源をオフにする必要があります。アプライアンスの電源を切るには、電源ボタンを1秒間押し続け、シャットダウンシーケンスが完了するまで待ちます。シャットダウンシーケンスには約10秒かかります。
2. アプライアンスを再起動するには、次のボタンの組合せを使用します。短く押すのは1秒です。長押しは5秒です。複数のボタンが必要な操作では、両方のボタンを同時に長押しします。

- フルリセット — 電源を長押ししてリセットします。

最低限のソフトウェアバージョンを復元し、すべての構成ファイルとアプリケーションを削除します。

- 最新のソフトウェアバージョンを復元 — リセットを短く押します。

最新のソフトウェアアップデートをアプライアンスに再適用します。

- 最小ソフトウェアバージョンの復元 — リセットを長押しします。

最新の必要なアップデートをアプライアンスに再適用します。

3. 両方のボタンを離します。アプライアンスの電源が入り、ステータスライトが数分間オレンジ色に点滅します。
4. アプライアンスの準備が整うと、ステータスライトが緑色に点滅します。

アプライアンスをリセットしても、AWS Panorama サービスからは削除されません。詳細については、「[アプライアンスの登録解除](#)」を参照してください。

AWS Panorama アプリケーションの管理

アプリケーションは AWS Panorama アプライアンスで実行され、ビデオストリームでコンピュータビジョンタスクを実行します。Python コードと機械学習モデルを組み合わせることでコンピュータビジョンアプリケーションを構築し、インターネット経由で AWS Panorama アプライアンスにデプロイできます。アプリケーションはディスプレイに動画を送信したり、AWS SDK を使用して結果を AWS のサービスに送信したりできます。

トピック

- [アプリケーションをデプロイします](#)
- [AWS Panorama コンソールでのアプリケーションの管理](#)
- [パッケージ設定](#)
- [AWS Panorama アプリケーションマニフェスト](#)
- [アプリケーションノード](#)
- [アプリケーションパラメータ](#)
- [オーバーライド付きのデプロイ時構成](#)

アプリケーションをデプロイします

アプリケーションをデプロイするには、AWS Panorama Application CLI を使用してアカウントにインポートし、コンテナを構築し、アセットをアップロードして登録し、アプリケーションインスタンスを作成します。このトピックでは、これらの各ステップを詳細に説明し、バックグラウンドで何が行われているかを説明します。

まだアプリケーションをデプロイしていないのであれば、[の開始方法 AWS Panorama](#) を参照してウォークスルーを行ってください。

サンプルアプリケーションのカスタマイズと拡張の詳細については、[AWS Panorama アプリケーションの構築](#) を参照してください。

セクション

- [AWS Panorama Application CLI をインストールする](#)
- [アプリケーションをインポートします](#)
- [コンテナイメージの構築](#)
- [モデルのインポート](#)
- [アプリケーションアセットをアップロードします](#)
- [AWS Panorama コンソールでアプリケーションをデプロイ](#)
- [アプリケーションのデプロイを自動化する](#)

AWS Panorama Application CLI をインストールする

AWS Panorama アプリケーション CLI と をインストールするには AWS CLI、pip を使用します。

```
$ pip3 install --upgrade awscli panoramactl
```

AWS Panorama Application CLI を使用してアプリケーションイメージを構築するには、Docker が必要です。Linux では qemu および関連するシステムライブラリも必要です。AWS Panorama Application CLI のインストールと設定の詳細については、プロジェクトの GitHub リポジトリにある「README」ファイルを参照してください。

- github.com/aws/aws-panorama-cli

Windows で WSL2 を使ってビルド環境を設定する手順については、[Windows 開発環境でのセットアップ](#) を参照してください。

アプリケーションをインポートします

サンプルアプリケーションまたはサードパーティが提供するアプリケーションを使用している場合は、AWS Panorama Application CLI を使用してアプリケーションをインポートします。

```
my-app$ panorama-cli import-application
```

このコマンドは、アカウント ID でアプリケーションパッケージの名前を変更します。Package 名は、デプロイ先のアカウントのアカウント ID で始まります。アプリケーションを複数のアカウントにデプロイする場合、アカウントごとにアプリケーションを個別にインポートしてパッケージ化する必要があります。

たとえば、このガイドのサンプルアプリケーションには、コードパッケージとモデルパッケージがあり、それぞれの名前にプレースホルダーアカウント ID が付けられています。import-application コマンドは、これらの名前を変更して、CLI がワークスペースの AWS 認証情報から推測するアカウント ID を使用します。

```
/aws-panorama-sample
### assets
### graphs
#   ### my-app
#       ### graph.json
### packages
### 123456789012-SAMPLE\_CODE-1.0
#   ### Dockerfile
#   ### application.py
#   ### descriptor.json
#   ### package.json
#   ### requirements.txt
#   ### squeezenet_classes.json
### 123456789012-SQUEEZENET\_PYTORCH-1.0
### descriptor.json
### package.json
```

パッケージ・ディレクトリ名と、それらを参照するアプリケーション・マニフェスト (graph.json) では、123456789012 はアカウント ID に置き換えられます。アカウント ID を確認するには、aws sts get-caller-identity を呼び出します AWS CLI。

```
$ aws sts get-caller-identity
{
  "UserId": "AIDAXMPL7W66UC3GFXMPL",
  "Account": "210987654321",
  "Arn": "arn:aws:iam::210987654321:user/devenv"
}
```

コンテナイメージの構築

アプリケーションコードは Docker コンテナイメージにパッケージ化されており、これには Dockerfile にインストールするアプリケーションコードとライブラリが含まれます。AWS Panorama Application CLI `build-container` コマンドを使用して Docker イメージを構築し、ファイルシステムイメージをエクスポートします。

```
my-app$ panorama-cli build-container --container-asset-name code_asset --package-path
packages/210987654321-SAMPLE_CODE-1.0
{
  "name": "code_asset",
  "implementations": [
    {
      "type": "container",
      "assetUri":
"5fa5xmplbc8c16bf8182a5cb97d626767868d3f4d9958a4e49830e1551d227c5.tar.gz",
      "descriptorUri":
"1872xmpl1129481ed053c52e66d6af8b030f9eb69b1168a29012f01c7034d7a8f.json"
    }
  ]
}
Container asset for the package has been succesfully built at
assets/5fa5xmplbc8c16bf8182a5cb97d626767868d3f4d9958a4e49830e1551d227c5.tar.gz
```

このコマンドは、という名前の Docker イメージを作成し `code_asset`、ファイルシステムをフォルダ内のアーカイブにエクスポートします。 `.tar.gz` `assetsCLI` は、アプリケーションの Dockerfile で指定されているように、Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) からアプリケーションのベースイメージを取得します。

コンテナアーカイブに加えて、CLI はパッケージ記述子 (`descriptor.json`) のアセットを作成します。どちらのファイルも、元のファイルのハッシュを反映する一意の識別子で名前が変更されます。また、AWS Panorama Application CLI は、2 つのアセットの名前を記録するブロックをパッ

ページ設定に追加します。これらの名前は、デプロイプロセス中にアプライアンスによって使用されます。

Example [Packages/123456789012-sample_code-1.0/Package.json](#) — アセットブロック付き

```
{
  "nodePackage": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "name": "SAMPLE_CODE",
    "version": "1.0",
    "description": "Computer vision application code.",
    "assets": [
      {
        "name": "code_asset",
        "implementations": [
          {
            "type": "container",
            "assetUri":
"5fa5xmplbc8c16bf8182a5cb97d626767868d3f4d9958a4e49830e1551d227c5.tar.gz",
            "descriptorUri":
"1872xmpl1129481ed053c52e66d6af8b030f9eb69b1168a29012f01c7034d7a8f.json"
          }
        ]
      }
    ],
    "interfaces": [
      {
        "name": "interface",
        "category": "business_logic",
        "asset": "code_asset",
        "inputs": [
          {
            "name": "video_in",
            "type": "media"
          }
        ]
      }
    ]
  }
}
```

build-container コマンドで指定するコードアセットの名前は、パッケージ設定内の asset フィールドの値と一致する必要があります。前述の例では、両方の値が code_asset です。

モデルのインポート

アプリケーションの アセットフォルダーにモデルアーカイブがある場合や、個別にダウンロードするモデルアーカイブがある場合があります。新しいモデル、更新されたモデル、または更新されたモデル記述子ファイルがある場合は、`add-raw-model` コマンドを使用してインポートします。

```
my-app$ panorama-cli add-raw-model --model-asset-name model_asset \  
--model-local-path my-model.tar.gz \  
--descriptor-path packages/210987654321-SQUEEZENET_PYTORCH-1.0/descriptor.json \  
--packages-path packages/210987654321-SQUEEZENET_PYTORCH-1.0
```

記述子ファイルの更新だけが必要な場合は、アセットディレクトリにある既存のモデルを再利用できます。浮動小数点精度モードなどの機能を設定するには、記述子ファイルの更新が必要な場合があります。例えば、次のスクリプトはサンプルアプリでこれを行う方法を示しています。

Example [util-scripts/update-model-config.sh](#)

```
#!/bin/bash  
set -eo pipefail  
MODEL_ASSET=fd1axmplacc3350a5c2673adacffab06af54c3f14da6fe4a8be24cac687a386e  
MODEL_PACKAGE=SQUEEZENET_PYTORCH  
ACCOUNT_ID=$(ls packages | grep -Eo '[0-9]{12}' | head -1)  
panorama-cli add-raw-model --model-asset-name model_asset --model-local-path assets/  
${MODEL_ASSET}.tar.gz --descriptor-path packages/${ACCOUNT_ID}-${MODEL_PACKAGE}-1.0/  
descriptor.json --packages-path packages/${ACCOUNT_ID}-${MODEL_PACKAGE}-1.0  
cp packages/${ACCOUNT_ID}-${MODEL_PACKAGE}-1.0/package.json packages/${ACCOUNT_ID}-  
${MODEL_PACKAGE}-1.0/package.json.bup
```

モデルパッケージディレクトリの記述子ファイルへの変更は、CLI で再インポートするまで適用されません。CLI は、コンテナを再構築するときにアプリケーションコードパッケージの設定を更新すると同様に、新しいアセット名を使用してモデルパッケージ構成を更新します。

アプリケーションアセットをアップロードします

モデルアーカイブ、コンテナファイルシステムアーカイブ、およびそれらの記述子ファイルを含むアプリケーションのアセットをアップロードして登録するには、`package-application` コマンドを使用します。

```
my-app$ panorama-cli package-application  
Uploading package SQUEEZENET_PYTORCH
```

```
Patch version for the package
5d3cxmplb7113faa1d130f97f619655d8ca12787c751851a0e155e50eb5e3e96
Deregistering previous patch version
e845xmpl8ea0361eb345c313a8dded30294b3a46b486dc8e7c174ee7aab29362
Asset fd1axmplacc3350a5c2673adacffab06af54c3f14da6fe4a8be24cac687a386e.tar.gz already
exists, ignoring upload
upload: assets/87fbxmpl6f18aeae4d1e3ff8bbc6147390feaf47d85b5da34f8374974ecc4aaf.json
to s3://arn:aws:s3:us-east-2:212345678901:accesspoint/
panorama-210987654321-6k75xmpl2jypelgzst7uux62ye/210987654321/nodePackages/
SQUEEZENET_PYTORCH/
binaries/87fbxmpl6f18aeae4d1e3ff8bbc6147390feaf47d85b5da34f8374974ecc4aaf.json
Called register package version for SQUEEZENET_PYTORCH with patch version
5d3cxmplb7113faa1d130f97f619655d8ca12787c751851a0e155e50eb5e3e96
...
```

アセットファイルまたはパッケージ設定に変更がない場合、CLI はそれをスキップします。

```
Uploading package SAMPLE_CODE
Patch Version ca91xmplca526fe3f07821fb0c514f70ed0c444f34cb9bd3a20e153730b35d70 already
registered, ignoring upload
Register patch version complete for SQUEEZENET_PYTORCH with patch version
5d3cxmplb7113faa1d130f97f619655d8ca12787c751851a0e155e50eb5e3e96
Register patch version complete for SAMPLE_CODE with patch version
ca91xmplca526fe3f07821fb0c514f70ed0c444f34cb9bd3a20e153730b35d70
All packages uploaded and registered successfully
```

CLI は、各パッケージのアセットを、アカウントに固有の Amazon S3 Access Points にアップロードします。AWS Panorama はアクセスポイントを管理し、[DescribePackage](#) API を通じてアクセスポイントに関する情報を提供します。CLI は各パッケージのアセットをそのパッケージに指定された場所にアップロードし、パッケージ設定で記述された設定で AWS Panorama サービスに登録します。

AWS Panorama コンソールでアプリケーションをデプロイ

AWS Panorama コンソールでアプリケーションをデプロイできます。デプロイプロセス中に、アプリケーションコードに渡すカメラストリームを選択し、アプリケーションの開発者が提供するオプションを設定します。

アプリケーションのデプロイ

1. AWS Panorama コンソールの [\[デプロイされたアプリケーション\] ページ](#)を開きます。

2. [アプリケーションをデプロイ] を選択します。
3. アプリケーションマニフェスト、`graph.json` の内容をテキストエディタに貼り付けます。次へ をクリックします。
4. 名前と説明を入力します。
5. [デプロイに進む] を選択します。
6. [デプロイを開始] を選択します。
7. アプリケーションで [ロールを使用](#) する場合は、ドロップダウンメニューからロールを選択します。次へ をクリックします。
8. [デバイスを選択] を選択し、次にアプライアンスを選択します。次へ をクリックします。
9. [データソースを選択] ステップで、[入力を表示] を選択し、カメラストリームをデータソースとして追加します。次へ をクリックします。
10. [設定] ステップでは、開発者が定義したアプリケーション固有の設定を行います。次へ をクリックします。
11. [デプロイ] を選択してから、[完了] を選択します。
12. デプロイされたアプリケーションのリストで、ステータスをモニタリングするアプリケーションを選択します。

デプロイプロセスには約 15~20 分かかります。アプリケーションの起動中は、アプライアンスの出力が長時間空白になることがあります。エラーが発生した場合は、[トラブルシューティング](#) を参照してください。

アプリケーションのデプロイを自動化する

[CreateApplicationInstance](#) API でアプリケーションのデプロイプロセスを自動化できます。この API は 2 つの設定ファイルを入力として受け取ります。アプリケーションマニフェストは、使用するパッケージとそれらの関係を指定します。2 つ目のファイルは、アプリケーションマニフェスト内の値をデプロイ時のオーバーライドを指定するオーバーライドファイルです。オーバーライドファイルを使用すると、同じアプリケーションマニフェストを使用してアプリケーションを異なるカメラストリームにデプロイしたり、その他のアプリケーション固有の設定を行ったりできます。

詳細と、このトピックの各ステップのスクリプト例については、[アプリケーションのデプロイを自動化する](#) を参照してください。

AWS Panorama コンソールでのアプリケーションの管理

AWS Panorama コンソールを使用してデプロイされたアプリケーションを管理します。

セクション

- [アプリケーションを更新またはコピーします。](#)
- [バージョンとアプリケーションを削除します。](#)

アプリケーションを更新またはコピーします。

アプリケーションを更新するには、置き換え オプションを使用します。アプリケーションを置き換えるときに、そのコードまたはモデルを更新できます。

アプリケーションを更新するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[デプロイされたアプリケーション\] ページ](#)を開きます。
2. アプリケーションを選択します。
3. [置換] を選択します。
4. 手順に従って、新しいバージョンまたはアプリケーションを作成します。

[置き換え]と同様の動作をする [クローン] オプションもありますが、古いバージョンのアプリケーションは削除されません。このオプションを使用すると、実行中のバージョンを停止せずにアプリケーションの変更をテストしたり、すでに削除したバージョンを再デプロイしたりできます。

バージョンとアプリケーションを削除します。

未使用のアプリケーションバージョンをクリーンアップするには、アプライアンスから削除します。

アプリケーションを削除するには

1. AWS Panorama コンソールの [\[デプロイされたアプリケーション\] ページ](#)を開きます。
2. アプリケーションを選択します。
3. [デバイスから削除] を選択します。

パッケージ設定

AWS Panorama アプリケーション CLI コマンド `panorama-cli package-application` を使用すると、CLI はアプリケーションのアセットを Amazon S3 にアップロードし、AWS Panorama に登録します。アセットには、AWS Panorama Appliance がデプロイ中にダウンロードするバイナリファイル (コンテナイメージとモデル) と記述子ファイルが含まれます。パッケージのアセットを登録するには、パッケージ、そのアセット、そのインターフェイスを定義する個別のパッケージ構成ファイルを提供します。

次の例は、1つの入力と1つの出力を備えたコードノードのパッケージ構成を示しています。ビデオ入力では、カメラストリームの画像データにアクセスできます。出力ノードは処理された画像をディスプレイに送ります。

Example packages/1234567890-SAMPLE_CODE-1.0/package.json

```
{
  "nodePackage": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "name": "SAMPLE_CODE",
    "version": "1.0",
    "description": "Computer vision application code.",
    "assets": [
      {
        "name": "code_asset",
        "implementations": [
          {
            "type": "container",
            "assetUri":
"3d9bxmpl1bdb67a3c9730abb19e48d78780b507f3340ec3871201903d8805328a.tar.gz",
            "descriptorUri":
"1872xmpl1129481ed053c52e66d6af8b030f9eb69b1168a29012f01c7034d7a8f.json"
          }
        ]
      }
    ],
    "interfaces": [
      {
        "name": "interface",
        "category": "business_logic",
        "asset": "code_asset",
        "inputs": [
          {
```

```
        "name": "video_in",
        "type": "media"
      }
    ],
    "outputs": [
      {
        "description": "Video stream output",
        "name": "video_out",
        "type": "media"
      }
    ]
  }
}
```

assets セクションでは、AWS Panorama アプリケーション CLI が Amazon S3 にアップロードしたアーティファクトの名前を指定します。サンプルアプリケーションまたは別のユーザーからアプリケーションをインポートする場合、このセクションは空だったり、アカウントにないアセットを参照していたりすることがあります。panorama-cli package-application を実行すると、AWS Panorama アプリケーション CLI によってこのセクションに正しい値が入力されます。

AWS Panorama アプリケーションマニフェスト

アプリケーションをデプロイするときは、アプリケーションマニフェストと呼ばれる設定ファイルを提供します。このファイルでは、アプリケーションをノードとエッジを含むグラフとして定義します。アプリケーションマニフェストはアプリケーションのソースコードの一部であり、graphs ディレクトリに保存されます。

Example graphs/aws-panorama-sample/graph.json

```
{
  "nodeGraph": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "packages": [
      {
        "name": "123456789012::SAMPLE_CODE",
        "version": "1.0"
      },
      {
        "name": "123456789012::SQUEEZENET_PYTORCH_V1",
        "version": "1.0"
      },
      {
        "name": "panorama::abstract_rtsp_media_source",
        "version": "1.0"
      },
      {
        "name": "panorama::hdmi_data_sink",
        "version": "1.0"
      }
    ],
    "nodes": [
      {
        "name": "code_node",
        "interface": "123456789012::SAMPLE_CODE.interface"
      },
      {
        "name": "model_node",
        "interface": "123456789012::SQUEEZENET_PYTORCH_V1.interface"
      },
      {
        "name": "camera_node",
        "interface": "panorama::abstract_rtsp_media_source.rtsp_v1_interface",
        "overridable": true,

```

```
        "overrideMandatory": true,
        "decorator": {
            "title": "IP camera",
            "description": "Choose a camera stream."
        }
    },
    {
        "name": "output_node",
        "interface": "panorama::hdmi_data_sink.hdmi0"
    },
    {
        "name": "log_level",
        "interface": "string",
        "value": "INFO",
        "overridable": true,
        "decorator": {
            "title": "Logging level",
            "description": "DEBUG, INFO, WARNING, ERROR, or CRITICAL."
        }
    }
    ...
],
"edges": [
    {
        "producer": "camera_node.video_out",
        "consumer": "code_node.video_in"
    },
    {
        "producer": "code_node.video_out",
        "consumer": "output_node.video_in"
    },
    {
        "producer": "log_level",
        "consumer": "code_node.log_level"
    }
]
}
}
```

ノードは、ノードの入力と出力間のマッピングを指定するエッジによって接続されています。あるノードの出力は別のノードの入力に接続され、グラフを形成します。

JSON スキーマ

アプリケーションマニフェストとオーバーライドドキュメントの形式は JSON スキーマで定義されます。JSON スキーマを使用して、デプロイ前に設定ドキュメントを検証できます。JSON スキーマは、本ガイドの GitHub リポジトリから入手できます。

- JSON スキーマ – aws-panorama-developer-guide/resources

アプリケーションノード

ノードはモデル、コード、カメラストリーム、出力、パラメーターです。ノードには入力と出力を定義するインターフェースがあります。インターフェースは、アカウントのパッケージ、AWS Panorama が提供するパッケージ、または組み込みタイプで定義できます。

次の例では、code_node と model_node Bはサンプルアプリケーションに含まれるサンプルコードとモデルパッケージを参照しています。camera_node は AWS Panorama が提供するパッケージを使用して、デプロイ時に指定したカメラストリームのプレースホルダーを作成します。

Example graph.json — ノード

```
"nodes": [  
  {  
    "name": "code_node",  
    "interface": "123456789012::SAMPLE_CODE.interface"  
  },  
  {  
    "name": "model_node",  
    "interface": "123456789012::SQUEEZENET_PYTORCH_V1.interface"  
  },  
  {  
    "name": "camera_node",  
    "interface": "panorama::abstract_rtsp_media_source.rtsp_v1_interface",  
    "overridable": true,  
    "overrideMandatory": true,  
    "decorator": {  
      "title": "IP camera",  
      "description": "Choose a camera stream."  
    }  
  }  
]
```

エッジ

エッジは、あるノードからの出力を別のノードの入力にマップします。次の例では、最初のエッジがカメラストリームノードからの出力をアプリケーションコードノードの入力にマッピングします。video_in と video_out の名前はノードパッケージのインターフェースで定義されています。

Example graph.json — エッジ

```
"edges": [  
  {  
    "producer": "camera_node.video_out",  
    "consumer": "code_node.video_in"  
  },  
  {  
    "producer": "code_node.video_out",  
    "consumer": "output_node.video_in"  
  },  
]
```

アプリケーションコードでは、`inputs` および `outputs` の属性を使用して入力ストリームから画像を取得し、画像を出力ストリームに送信します。

Example application.py — ビデオの入力と出力

```
def process_streams(self):  
    """Processes one frame of video from one or more video streams."""  
    frame_start = time.time()  
    self.frame_num += 1  
    logger.debug(self.frame_num)  
    # Loop through attached video streams  
    streams = self.inputs.video_in.get()  
    for stream in streams:  
        self.process_media(stream)  
    ...  
    self.outputs.video_out.put(streams)
```

抽象ノード

アプリケーションマニフェストでは、抽象ノードは AWS Panorama によって定義されたパッケージを指し、アプリケーションマニフェストのプレースホルダーとして使用できます。AWS Panorama には、2 つのタイプの抽象ノードがあります。

- カメラストリーム — デプロイ時にアプリケーションが使用するカメラストリームを選択します。

パッケージ名 - `panorama::abstract_rtsp_media_source`

インターフェイス名 - `rtsp_v1_interface`

- HDMI 出力 — アプリケーションがビデオを出力することを示します。

パッケージ名 - panorama::hdmi_data_sink

インターフェイス名 - hdmi0

次の例は、カメラストリームを処理してビデオをディスプレイに出力するアプリケーションのパッケージ、ノード、エッジの基本セットを示しています。AWS Panorama abstract_rtsp_media_source のパッケージのインターフェイスを使用するカメラノードは、複数のカメラストリームを入力として受け入れることができます。hdmi_data_sink を参照する出力ノードは、アプライアンスのHDMIポートから出力されるビデオバッファへのアクセスをアプリケーションコードに提供します。

Example graph.json — 抽象ノード

```
{
  "nodeGraph": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "packages": [
      {
        "name": "123456789012::SAMPLE_CODE",
        "version": "1.0"
      },
      {
        "name": "123456789012::SQUEEZENET_PYTORCH_V1",
        "version": "1.0"
      },
      {
        "name": "panorama::abstract_rtsp_media_source",
        "version": "1.0"
      },
      {
        "name": "panorama::hdmi_data_sink",
        "version": "1.0"
      }
    ],
    "nodes": [
      {
        "name": "camera_node",
        "interface": "panorama::abstract_rtsp_media_source.rtsp_v1_interface",
        "overridable": true,
        "decorator": {
```

```
        "title": "IP camera",
        "description": "Choose a camera stream."
    }
},
{
    "name": "output_node",
    "interface": "panorama::hdmi_data_sink.hdmi0"
}
],
"edges": [
    {
        "producer": "camera_node.video_out",
        "consumer": "code_node.video_in"
    },
    {
        "producer": "code_node.video_out",
        "consumer": "output_node.video_in"
    }
]
}
```

アプリケーションパラメータ

パラメータは基本タイプのノードで、デプロイ時にオーバーライドできます。パラメータにはデフォルト値と、アプリケーションのユーザーにその構成方法を指示するデコレータを構成できます。

パラメータタイプ

- string - 文字列。例えば、DEBUG と指定します。
- int32 - 整数。例えば、20
- float32 - 浮動小数点数。例えば、47.5
- boolean - true または false

次の例は、文字列と数値の 2 つのパラメータを示しており、これらは入力としてコードノードに送信されます。

Example グラフ.json — パラメータ

```
"nodes": [  
  {  
    "name": "detection_threshold",  
    "interface": "float32",  
    "value": 20.0,  
    "overridable": true,  
    "decorator": {  
      "title": "Threshold",  
      "description": "The minimum confidence percentage for a positive  
classification."  
    }  
  },  
  {  
    "name": "log_level",  
    "interface": "string",  
    "value": "INFO",  
    "overridable": true,  
    "decorator": {  
      "title": "Logging level",  
      "description": "DEBUG, INFO, WARNING, ERROR, or CRITICAL."  
    }  
  }  
  ...  
]
```

```
    ],
    "edges": [
      {
        "producer": "detection_threshold",
        "consumer": "code_node.threshold"
      },
      {
        "producer": "log_level",
        "consumer": "code_node.log_level"
      }
      ...
    ]
  }
}
```

アプリケーションマニフェストでパラメータを直接変更することも、デプロイ時にオーバーライドを使用して新しい値を指定することもできます。詳細については、「[オーバーライド付きのデプロイ時構成](#)」を参照してください。

オーバーライド付きのデプロイ時構成

デプロイ時にパラメーターと抽象ノードを構成します。AWS Panorama コンソールを使用してデプロイする場合、各パラメータの値を指定し、入力としてカメラストリームを選択できます。AWS Panorama API を使用してアプリケーションをデプロイする場合は、オーバーライドドキュメントでこれらの設定を指定します。

オーバーライドドキュメントは、アプリケーションマニフェストと構造が似ています。基本型のパラメータには、ノードを定義します。カメラストリームでは、登録したカメラストリームにマップするノードとパッケージを定義します。次に、置き換えるアプリケーションマニフェストからノードを指定するオーバーライドをノードごとに定義します。

Exampleオーバーライド.json

```
{
  "nodeGraphOverrides": {
    "nodes": [
      {
        "name": "my_camera",
        "interface": "123456789012::exterior-south.exterior-south"
      },
      {
        "name": "my_region",
        "interface": "string",
        "value": "us-east-1"
      }
    ],
    "packages": [
      {
        "name": "123456789012::exterior-south",
        "version": "1.0"
      }
    ],
    "nodeOverrides": [
      {
        "replace": "camera_node",
        "with": [
          {
            "name": "my_camera"
          }
        ]
      }
    ]
  },
}
```

```
    {
      "replace": "region",
      "with": [
        {
          "name": "my_region"
        }
      ]
    }
  ],
  "envelopeVersion": "2021-01-01"
}
}
```

前の例では、ドキュメントは 1 つの文字列パラメータと 1 つの抽象カメラノードにオーバーライドを定義しています。nodeOverrides は、このドキュメントのどのノードがアプリケーションマニフェストのどのノードをオーバーライドするかを AWS Panorama に伝えます。

AWS Panorama アプリケーションの構築

アプリケーションは AWS Panorama アプライアンスで実行され、ビデオストリームでコンピュータビジョンタスクを実行します。Python コードと機械学習モデルを組み合わせることでコンピュータビジョンアプリケーションを構築し、インターネット経由で AWS Panorama アプライアンスにデプロイできます。アプリケーションはディスプレイに動画を送信したり、AWS SDK を使用して結果を AWS のサービスに送信したりできます。

モデル は画像を分析して人物、車両、その他の物体を検出します。トレーニング中に見た画像に基づいて、モデルはそれが何だと思っているか、その推測にどの程度自信があるのかを教えてください。独自の画像データを使用してモデルをトレーニングすることも、サンプルから始めることもできます。

アプリケーションの **コード** は、カメラストリームからの静止画像を処理してモデルに送信し、結果を処理します。モデルは複数のオブジェクトを検出し、その形状と位置を返す場合があります。コードはこの情報を使用してビデオにテキストやグラフィックを追加したり、結果を AWS サービスに送信して保存したり、さらなる処理を行うことができます。

ストリームからイメージを取得し、モデルを操作し、ビデオを出力するために、アプリケーションコードは [AWS Panorama Application SDK](#) を使用します。アプリケーション SDK は PyTorch、Apache MXNet、TensorFlow で生成されたモデルをサポートする Python ライブラリです。

トピック

- [コンピュータービジョンモデル](#)
- [アプリケーションイメージを構築する](#)
- [アプリケーションコードから AWS サービスを呼び出す](#)
- [AWS Panorama アプリケーション SDK](#)
- [複数のスレッドの実行](#)
- [インバウンドトラフィックへの対応](#)
- [GPU を使用する](#)
- [Windows 開発環境でのセットアップ](#)

コンピュータービジョンモデル

コンピュータービジョンモデルは、画像内のオブジェクトを検出するようにトレーニングされたソフトウェアプログラムです。モデルは、最初にトレーニングを通じてそれらのオブジェクトの画像を分析することで、一連のオブジェクトを認識することを学習します。コンピュータービジョンモデルは、画像を入力として受け取り、検出したオブジェクトに関する情報 (オブジェクトのタイプや位置など) を出力します。AWS Panorama は PyTorch、Apache MXNet、TensorFlow で構築されたコンピュータービジョンモデルをサポートしています。

Note

AWS Panorama でテストされたビルド済みモデルのリストについては、[「モデルの互換性」](#)を参照してください。

セクション

- [コード内でのモデルの使用](#)
- [カスタムモデルの構築](#)
- [モデルのパッケージ化](#)
- [モデルのトレーニング](#)

コード内でのモデルの使用

モデルは 1 つ以上の結果を返します。これには、検出されたクラスの高確率、位置情報、その他のデータが含まれる場合があります。次の例は、ビデオストリームの画像に対して推論を実行し、モデルの出力を処理関数に送信する方法を示しています。

Exampleアプリケーション.py — 推論

```
def process_media(self, stream):
    """Runs inference on a frame of video."""
    image_data = preprocess(stream.image, self.MODEL_DIM)
    logger.debug('Image data: {}'.format(image_data))
    # Run inference
    inference_start = time.time()
    inference_results = self.call({"data":image_data}, self.MODEL_NODE)
    # Log metrics
```

```
inference_time = (time.time() - inference_start) * 1000
if inference_time > self.inference_time_max:
    self.inference_time_max = inference_time
self.inference_time_ms += inference_time
# Process results (classification)
self.process_results(inference_results, stream)
```

次の例は、基本分類モデルから結果を処理する関数を示しています。サンプルモデルは確率の配列を返します。これは結果配列の最初で唯一の値です。

Exampleアプリケーション.py — 処理結果

```
def process_results(self, inference_results, stream):
    """Processes output tensors from a computer vision model and annotates a video
    frame."""
    if inference_results is None:
        logger.warning("Inference results are None.")
        return
    max_results = 5
    logger.debug('Inference results: {}'.format(inference_results))
    class_tuple = inference_results[0]
    enum_vals = [(i, val) for i, val in enumerate(class_tuple[0])]
    sorted_vals = sorted(enum_vals, key=lambda tup: tup[1])
    top_k = sorted_vals[::-1][:max_results]
    indexes = [tup[0] for tup in top_k]

    for j in range(max_results):
        label = 'Class [%s], with probability %.3f.' % (self.classes[indexes[j]],
        class_tuple[0][indexes[j]])
        stream.add_label(label, 0.1, 0.1 + 0.1*j)
```

アプリケーションコードは確率が最も高い値を見つけて、初期化時に読み込まれるリソースファイル内のラベルにマッピングします。

カスタムモデルの構築

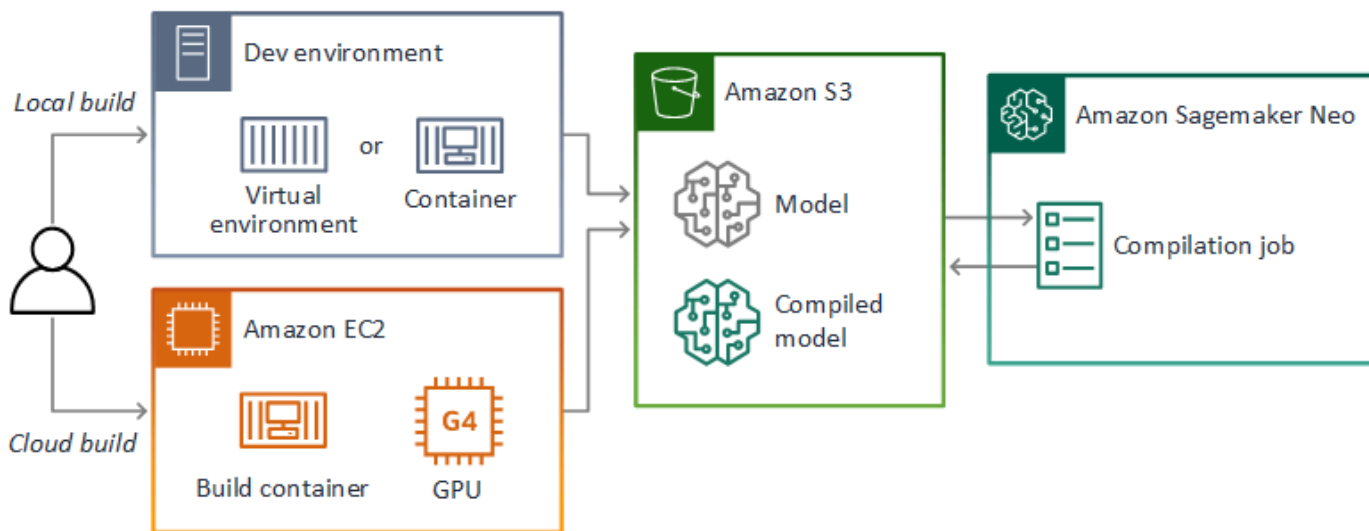
PyTorch、Apache MXNet、TensorFlow で構築したモデルを AWS Panorama アプリケーションで使用できます。SageMaker AI でモデルを構築およびトレーニングする代わりに、トレーニング済みモデルを使用するか、サポートされているフレームワークを使用して独自のモデルを構築およびトレーニングし、ローカル環境または Amazon EC2 にエクスポートできます。

Note

SageMaker AI Neo でサポートされているフレームワークのバージョンとファイル形式の詳細については、[Amazon SageMakerデベロッパーガイド](#)の「[サポートされているフレームワーク](#)」を参照してください。

このガイドのリポジトリには、TensorFlow SavedModel形式の Keras モデルのこのワークフローを示すサンプルアプリケーションが用意されています。TensorFlow 2 を使用しており、仮想環境でローカルに実行することも、Docker コンテナで実行することもできます。サンプルアプリケーションには、Amazon EC2 インスタンスでモデルを構築するためのテンプレートとスクリプトも含まれています。

• [カスタムモデルサンプルアプリケーション](#)



AWS Panorama は SageMaker AI Neo を使用して、AWS Panorama アプライアンスで使用するモデルをコンパイルします。フレームワークごとに、[SageMaker AI Neo でサポートされている形式](#)を使用し、モデルを .tar.gz アーカイブにパッケージ化します。

詳細については、Amazon SageMaker [SageMaker AI デベロッパーガイド](#)の「[Neo でモデルをコンパイルしてデプロイする](#)」を参照してください。

モデルのパッケージ化

モデルパッケージは、記述子、パッケージ構成、モデルアーカイブで構成されます。[アプリケーションイメージパッケージ](#)と同様に、パッケージ構成は、モデルと記述子が Amazon S3 のどこに保存されているかを AWS Panorama サービスに伝えます。

Example [packages/123456789012-SQUEEZENET_PYTORCH-1.0/descriptor.json](#)

```
{
  "mlModelDescriptor": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "framework": "PYTORCH",
    "frameworkVersion": "1.8",
    "precisionMode": "FP16",
    "inputs": [
      {
        "name": "data",
        "shape": [
          1,
          3,
          224,
          224
        ]
      }
    ]
  }
}
```

Note

フレームワークバージョンのメジャーバージョンとマイナーバージョンのみを指定してください。サポートされている PyTorch、Apache MXNet、および TensorFlow バージョンのリストについては、[「サポートされているフレームワーク」](#)を参照してください。

モデルをインポートするには、AWS Panorama アプリケーション CLI `import-raw-model` コマンドを使用します。モデルやその記述子に変更を加えた場合は、このコマンドを再実行してアプリケーションのアセットを更新する必要があります。詳細については、[「コンピュータービジョンモデルの変更」](#)を参照してください。

ディスクリプターファイルの JSON スキーマについては、[「AssetDescriptor.schema.json」](#) を参照してください。

モデルのトレーニング

モデルをトレーニングするときは、ターゲット環境、またはターゲット環境によく似たテスト環境のイメージを使用してください。モデルのパフォーマンスに影響を与える可能性がある以下の要因を考慮してください。

- 照明 — 被写体が反射する光の量によって、モデルがどの程度詳細に分析しなければならないかが決まります。明るい被写体の画像でトレーニングしたモデルは、暗い場所や逆光の環境ではうまく機能しない可能性があります。
- 解像度 — モデルの入力サイズは、通常、幅 224 ~ 512 ピクセル (縦横比) の解像度に固定されます。ビデオのフレームをモデルに渡す前に、必要なサイズに合うように縮小またはトリミングできます。
- 画像のゆがみ — カメラの焦点距離とレンズの形状により、画像がフレームの中心から離れるにつれて歪みが生じることがあります。また、カメラの位置によって、被写体のどの部分が見えるかが決まります。たとえば、広角レンズを搭載したオーバーヘッドカメラでは、被写体がフレームの中央にあるときは被写体の上部が表示され、中心から遠ざかるにつれて被写体の側面が歪んで表示されます。

このような問題に対処するには、画像をモデルに送る前に前処理を行い、実世界の環境の変化を反映するさまざまな画像でモデルをトレーニングできます。照明環境やさまざまなカメラでモデルを動作させる必要がある場合は、トレーニングのためにより多くのデータが必要になります。より多くの画像を収集するだけでなく、歪んだ画像や照明が異なる既存の画像のバリエーションを作成することで、より多くのトレーニングデータを取得できます。

アプリケーションイメージを構築する

AWS Panorama アプライアンスは、構築したイメージからエクスポートされたコンテナファイルシステムとしてアプリケーションを実行します。アプリケーションの依存関係とリソースは、AWS Panorama アプリケーションのベースイメージを開始点として使用する Dockerfile で指定します。

アプリケーションイメージを構築するには、Docker と AWS Panorama アプリケーション CLI を使用します。このガイドのサンプルアプリケーションの次の例は、これらのユースケースを示しています。

Example [packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/Dockerfile](#)

```
FROM public.ecr.aws/panorama/panorama-application
WORKDIR /panorama
COPY . .
RUN pip install --no-cache-dir --upgrade pip && \
    pip install --no-cache-dir -r requirements.txt
```

次の Dockerfile 指示を使用します。

- FROM — アプリケーションベースイメージ (public.ecr.aws/panorama/panorama-application) をロードします。
- WORKDIR — イメージに作業ディレクトリを設定します。/panorama はアプリケーションコードおよび関連ファイルに使用されます。この設定は構築中のみ保持され、ランタイム (/) のアプリケーションの作業ディレクトリには影響しません。
- COPY — ファイルをローカルパスからイメージ上のパスにコピーします。COPY . . は現在のディレクトリ (パッケージディレクトリ) のファイルをイメージ上の作業ディレクトリにコピーします。たとえば、アプリケーションコードは packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/application.py から /panorama/application.py にコピーされます。
- RUN — 構築中にイメージ上でシェルコマンドを実行します。コマンド間に && を使用することで、1回の RUN 操作で複数のコマンドを順番に実行することができます。この例では、pip パッケージマネージャーを更新し、requirements.txt に記載されているライブラリをインストールします。

ADD や ARG など、構築時に役立つ他の指示も使用できます。ENV のような、ランタイム情報をコンテナに追加する指示は、AWS Panorama では機能しません。AWS Panorama はイメージからコンテ

ナを実行しません。イメージを使用してファイルシステムをエクスポートし、アプライアンスに転送するだけです。

依存関係の指定

requirements.txt は、アプリケーションが使用するライブラリを指定する Python 要件ファイルです。サンプルアプリケーションは Open CV と AWS SDK for Python (Boto3)を使用しています。

Example [packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/requirements.txt](#)

```
boto3==1.24.*
opencv-python==4.6.*
```

Dockerfile の pip install コマンドは、これらのライブラリを /usr/local/lib の Python dist-packages ディレクトリにインストールし、アプリケーションコードでインポートできるようにします。

ローカルストレージ

AWS Panorama はアプリケーションストレージ用の /opt/aws/panorama/storage ディレクトリを確保します。アプリケーションはこのパスでファイルを作成および変更できます。ストレージディレクトリに作成されたファイルは、再起動しても保持されます。他の一時ファイルの場所は起動時にクリアされます。

イメージアセットの構築

AWS Panorama Application CLI でアプリケーションパッケージのイメージを構築すると、CLI はパッケージディレクトリで docker build を実行します。これにより、アプリケーションコードを含むアプリケーションイメージが構築されます。次に、CLI はコンテナを作成し、そのファイルシステムをエクスポートして圧縮し、assets フォルダに保存します。

```
$ panorama-cli build-container --container-asset-name code_asset --package-path
  packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0
docker build -t code_asset packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0 --pull
docker export --output=code_asset.tar $(docker create code_asset:latest)
gzip -1 code_asset.tar
{
  "name": "code_asset",
  "implementations": [
    {
```

```
        "type": "container",
        "assetUri":
"6f67xmpl132743ed0e60c151a02f2f0da1bf70a4ab9d83fe236fa32a6f9b9f808.tar.gz",
        "descriptorUri":
"1872xmpl1129481ed053c52e66d6af8b030f9eb69b1168a29012f01c7034d7a8f.json"
    }
]
}
Container asset for the package has been succesfully built at /home/
user/aws-panorama-developer-guide/sample-apps/aws-panorama-sample/
assets/6f67xmpl132743ed0e60c151a02f2f0da1bf70a4ab9d83fe236fa32a6f9b9f808.tar.gz
```

出力の JSON ブロックは、CLI がパッケージ設定 (package.json) に追加して AWS Panorama サービスに登録するアセット定義です。CLI は、アプリケーションスクリプト (アプリケーションのエントリーポイント) へのパスを指定する記述子ファイルもコピーします。

Example [packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0/descriptor.json](#)

```
{
  "runtimeDescriptor":
  {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "entry":
    {
      "path": "python3",
      "name": "/panorama/application.py"
    }
  }
}
```

アセットフォルダーでは、記述子とアプリケーションイメージには SHA-256 チェックサムにちなんだ名前が付けられています。この名前は、アセットが Amazon S3 に保存されるときに、アセットの一意的識別子として使用されます。

アプリケーションコードから AWS サービスを呼び出す

を使用して AWS SDK for Python (Boto) 、アプリケーションコードから AWS サービスを呼び出すことができます。たとえば、モデルが異常を検出した場合、Amazon CloudWatch にメトリクスを投稿したり、Amazon SNS で通知を送信したり、イメージを Amazon S3 に保存したり、Lambda 関数を呼び出してさらに処理したりすることができます。ほとんどの AWS サービスには、AWS SDK で使用できるパブリック API があります。

デフォルトでは、アプライアンスには AWS サービスへのアクセス権限がありません。アクセス権限を付与するには、[アプリケーションのロールを作成し](#)、デプロイ時にアプリケーションインスタンスに割り当てます。

セクション

- [Amazon S3 の使用](#)
- [AWS IoT MQTT トピックの使用](#)

Amazon S3 の使用

Amazon S3 を使用して処理結果やその他のアプリケーションデータを保存できます。

```
import boto3
s3_client=boto3.client("s3")
s3_client.upload_file(data_file,
                      s3_bucket_name,
                      os.path.basename(data_file))
```

AWS IoT MQTT トピックの使用

SDK for Python (Boto3) を使用して、AWS IoTの [MQTT トピック](#) にメッセージを送信できます。次の例では、アプリケーションは [AWS IoT コンソール](#) に表示されるアプライアンスのモノの名前にちなんだ名前のトピックに投稿します。

```
import boto3
iot_client=boto3.client('iot-data')
topic = "panorama/panorama_my-appliance_Thing_a01e373b"
iot_client.publish(topic=topic, payload="my message")
```

デバイス ID または任意のその他の識別子を示す名前を選択します。メッセージを公開するには、アプリケーションに `iot:Publish` を呼び出す権限が必要です。

MQTT キューをモニタリングするには

1. [AWS IoT コンソールの Test \(テスト\) ページ](#)を開きます。
2. サブスクリプショントピックに、トピック名を入力します。例えば、`panorama/panorama_my-appliance_Thing_a01e373b` と指定します。
3. トピックに登録する を選択します。

AWS Panorama アプリケーション SDK

AWS Panorama アプリケーション SDK は、AWS Panorama アプリケーションを開発するための Python ライブラリです。[アプリケーションコード](#)では、AWS Panorama アプリケーション SDK を使用してコンピュータビジョンモデルをロードし、推論を実行し、ビデオをモニタに出力します。

Note

AWS Panorama アプリケーション SDK の最新機能にアクセスできるようにするには、[アプリケーションソフトウェアをアップグレード](#)してください。

アプリケーション SDK が定義するクラスとそのメソッドの詳細については、[「アプリケーション SDK リファレンス」](#)を参照してください。

セクション

- [出力ビデオへのテキストとボックスの追加](#)

出力ビデオへのテキストとボックスの追加

AWS Panorama SDK を使用すると、ビデオストリームをディスプレイに出力できます。動画には、モデルからの出力、アプリケーションの現在の状態、またはその他のデータを表示するテキストやボックスを含めることができます。

video_in 配列内の各オブジェクトは、アプライアンスに接続されたカメラストリームからの画像です。このオブジェクトのタイプは panoramasdk.media です。画像にテキストや長方形のボックスを追加して、video_out 配列に割り当てるメソッドがあります。

次の例で、サンプルアプリケーションは結果ごとに 1 つのラベルを追加します。各結果は同じ左位置に配置されますが、高さは異なります。

```
for j in range(max_results):
    label = 'Class [%s], with probability %.3f.' % (self.classes[indexes[j]],
class_tuple[0][indexes[j]])
    stream.add_label(label, 0.1, 0.1 + 0.1*j)
```

出力イメージにボックスを追加するには、add_rect を使用します。このメソッドは、ボックスの左上隅と右下隅の位置を示す 0 から 1 までの値を 4 つ取ります。

```
w,h,c = stream.image.shape
stream.add_rect(x1/w, y1/h, x2/w, y2/h)
```

複数のスレッドの実行

アプリケーションロジックを処理スレッドで実行し、他のスレッドを他のバックグラウンドプロセスに使用することができます。例えば、デバッグのために [HTTP トラフィックを処理するスレッド](#) や、推論結果をモニタリングしてデータを送信するスレッドを作成できます AWS。

複数のスレッドを実行するには、Python 標準ライブラリの [スレッディングモジュール](#) を使用して、プロセスごとにスレッドを作成します。次の例は、アプリケーションオブジェクトを作成し、それを使用して 3 つのスレッドを実行するデバッグサーバーのサンプルアプリケーションのメインループを示しています。

Example [packages/123456789012-DEBUG_SERVER-1.0/application.py](#) — メインループ

```
def main():
    panorama = panoramasdk.node()
    while True:
        try:
            # Instantiate application
            logger.info('INITIALIZING APPLICATION')
            app = Application(panorama)
            # Create threads for stream processing, debugger, and client
            app.run_thread = threading.Thread(target=app.run_cv)
            app.server_thread = threading.Thread(target=app.run_debugger)
            app.client_thread = threading.Thread(target=app.run_client)
            # Start threads
            logger.info('RUNNING APPLICATION')
            app.run_thread.start()
            logger.info('RUNNING SERVER')
            app.server_thread.start()
            logger.info('RUNNING CLIENT')
            app.client_thread.start()
            # Wait for threads to exit
            app.run_thread.join()
            app.server_thread.join()
            app.client_thread.join()
            logger.info('RESTARTING APPLICATION')
        except:
            logger.exception('Exception during processing loop.')
```

すべてのスレッドが終了すると、アプリケーションは自動的に再起動します。run_cv ループはカメラストリームからの画像を処理します。停止のシグナルを受け取ると、デバッガープロセスをシャット

トダウンします。デバッガープロセスは HTTP サーバーを実行していますが、それ自体をシャットダウンすることはできません。各スレッドは独自のエラーを処理する必要があります。エラーが捕捉されログに記録されない場合、スレッドは静かに終了します。

Example [packages/123456789012-DEBUG_SERVER-1.0/application.py](#) — 処理ループ

```
# Processing loop
def run_cv(self):
    """Run computer vision workflow in a loop."""
    logger.info("PROCESSING STREAMS")
    while not self.terminate:
        try:
            self.process_streams()
            # turn off debug logging after 15 loops
            if logger.getEffectiveLevel() == logging.DEBUG and self.frame_num ==
15:
                logger.setLevel(logging.INFO)
        except:
            logger.exception('Exception on processing thread.')
    # Stop signal received
    logger.info("SHUTTING DOWN SERVER")
    self.server.shutdown()
    self.server.server_close()
    logger.info("EXITING RUN THREAD")
```

スレッドはアプリケーションの `self` オブジェクトを介して通信します。アプリケーション処理ループを再開するには、デバッガースレッドが `stop` メソッドを呼び出します。このメソッドは、ほかのスレッドにシャットダウンを知らせる `terminate` 属性を設定します。

Example [packages/123456789012-DEBUG_SERVER-1.0/application.py](#) — 停止メソッド

```
# Interrupt processing loop
def stop(self):
    """Signal application to stop processing."""
    logger.info("STOPPING APPLICATION")
    # Signal processes to stop
    self.terminate = True
# HTTP debug server
def run_debugger(self):
    """Process debug commands from local network."""
    class ServerHandler(SimpleHTTPRequestHandler):
        # Store reference to application
```

```
application = self
# Get status
def do_GET(self):
    """Process GET requests."""
    logger.info('Get request to {}'.format(self.path))
    if self.path == "/status":
        self.send_200('OK')
    else:
        self.send_error(400)
# Restart application
def do_POST(self):
    """Process POST requests."""
    logger.info('Post request to {}'.format(self.path))
    if self.path == '/restart':
        self.send_200('OK')
        ServerHandler.application.stop()
    else:
        self.send_error(400)
```

インバウンドトラフィックへの対応

アプリケーションコードと一緒に HTTP サーバーを実行することで、アプリケーションをローカルでモニタリングまたはデバッグできます。外部トラフィックを処理するには、AWS Panorama アプライアンスのポートをアプリケーションコンテナのポートにマッピングします。

⚠ Important

デフォルトでは、AWS Panorama アプライアンスはどのポートでも着信トラフィックを受け付けません。アプライアンスのポートを開くことには、暗黙のセキュリティリスクがあります。この機能を使用するときは、[外部トラフィックからアプライアンスを保護](#)し、許可されたクライアントとアプライアンス間の通信を保護するための追加措置を講じる必要があります。

このガイドに含まれるサンプルコードはデモンストレーションを目的としており、認証、認可、暗号化は実装されていません。

アプライアンスでは 8000 ~ 9000 の範囲のポートを開くことができます。これらのポートを開くと、ルーティング可能なすべてのクライアントからのトラフィックを受信できます。アプリケーションをデプロイするときは、開くポートを指定し、アプライアンス上のポートをアプリケーションコンテナのポートにマッピングします。アプライアンスソフトウェアはトラフィックをコンテナに転送し、要求者に応答を送り返します。リクエストは指定したアプライアンスポートで受信され、応答はランダムなエフェメラルポートに送信されます。

インバウンドポートの設定

ポートマッピングはアプリケーション設定の 3 つの場所で指定します。コードパッケージの `package.json` では、コードノードがリッスンするポートを `network` ブロック内で指定します。次の例では、ノードがポート 80 でリッスンすることを宣言しています。

Example [packages/123456789012-debug_server-1.0/Package.json](#)

```
"outputs": [  
  {  
    "description": "Video stream output",  
    "name": "video_out",  
    "type": "media"  
  }  
]
```

```
    ],
    "network": {
      "inboundPorts": [
        {
          "port": 80,
          "description": "http"
        }
      ]
    }
  }
```

アプリケーションマニフェストでは、アプライアンスのポートをアプリケーションのコードコンテナのポートにマップするルーティングルールを宣言します。次の例では、デバイスのポート 8080 を code_node コンテナのポート 80 にマッピングするルールを追加します。

Example [graphs/my-app/graph.json](#)

```
{
  "producer": "model_input_width",
  "consumer": "code_node.model_input_width"
},
{
  "producer": "model_input_order",
  "consumer": "code_node.model_input_order"
}
],
"networkRoutingRules": [
  {
    "node": "code_node",
    "containerPort": 80,
    "hostPort": 8080,
    "decorator": {
      "title": "Listener port 8080",
      "description": "Container monitoring and debug."
    }
  }
]
]
```

アプリケーションをデプロイするときは、AWS Panorama コンソールで同じルールを指定するか、[CreateApplicationInstance](#) API に渡されるオーバーライドドキュメントを使用して指定します。アプライアンスでポートを開きたいことを確認するために、デプロイ時にこの設定を提供する必要があります。

Example [graphs/my-app/override.json](#)

```
{
  {
    "replace": "camera_node",
    "with": [
      {
        "name": "exterior-north"
      }
    ]
  }
],
"networkRoutingRules":[
  {
    "node": "code_node",
    "containerPort": 80,
    "hostPort": 8080
  }
],
"envelopeVersion": "2021-01-01"
}
```

アプリケーションマニフェストで指定されているデバイスポートが別のアプリケーションで使用されている場合は、オーバーライドドキュメントを使用して別のポートを選択できます。

トラフィックを処理する

コンテナのポートが開いていると、ソケットを開いたり、サーバーを実行して受信リクエストを処理したりできます。この debug-server サンプルは、コンピュータービジョンのアプリケーションコードと一緒に稼働する HTTP サーバーの基本的な実装を示しています。

Important

このサンプル実装は、実稼働環境では安全ではありません。アプライアンスが攻撃に対して脆弱にならないようにするには、コードとネットワーク構成に適切なセキュリティ制御を実装する必要があります。

Example [packages/123456789012-DEBUG_SERVER-1.0/application.py](#) — HTTP サーバー

```
# HTTP debug server
```

```
def run_debugger(self):
    """Process debug commands from local network."""
    class ServerHandler(SimpleHTTPRequestHandler):
        # Store reference to application
        application = self
        # Get status
        def do_GET(self):
            """Process GET requests."""
            logger.info('Get request to {}'.format(self.path))
            if self.path == '/status':
                self.send_200('OK')
            else:
                self.send_error(400)
        # Restart application
        def do_POST(self):
            """Process POST requests."""
            logger.info('Post request to {}'.format(self.path))
            if self.path == '/restart':
                self.send_200('OK')
                ServerHandler.application.stop()
            else:
                self.send_error(400)
        # Send response
        def send_200(self, msg):
            """Send 200 (success) response with message."""
            self.send_response(200)
            self.send_header('Content-Type', 'text/plain')
            self.end_headers()
            self.wfile.write(msg.encode('utf-8'))
    try:
        # Run HTTP server
        self.server = HTTPServer(("", self.CONTAINER_PORT), ServerHandler)
        self.server.serve_forever(1)
        # Server shut down by run_cv loop
        logger.info("EXITING SERVER THREAD")
    except:
        logger.exception('Exception on server thread.')
```

サーバーは /status パスで GET リクエストを受け付けて、アプリケーションに関する情報を取得します。また、アプリケーションを再起動するための /restart への POST リクエストも受け付けます。

この機能を実証するために、サンプルアプリケーションは別のスレッドで HTTP クライアントを実行します。クライアントは起動後すぐにローカルネットワーク経由で /status パス呼び出し、数分後にアプリケーションを再起動します。

Example [packages/123456789012-DEBUG_SERVER-1.0/application.py](#) — HTTP クライアント

```
# HTTP test client
def run_client(self):
    """Send HTTP requests to device port to demonstrate debug server functions."""
    def client_get():
        """Get container status"""
        r = requests.get('http://{ip}:{port}/status'.format(self.device_ip,
self.DEVICE_PORT))
        logger.info('Response: {}'.format(r.text))
        return
    def client_post():
        """Restart application"""
        r = requests.post('http://{ip}:{port}/restart'.format(self.device_ip,
self.DEVICE_PORT))
        logger.info('Response: {}'.format(r.text))
        return
    # Call debug server
    while not self.terminate:
        try:
            time.sleep(30)
            client_get()
            time.sleep(300)
            client_post()
        except:
            logger.exception('Exception on client thread.')
    # stop signal received
    logger.info("EXITING CLIENT THREAD")
```

メインループはスレッドを管理し、終了時にアプリケーションを再起動します。

Example [packages/123456789012-DEBUG_SERVER-1.0/application.py](#) — メインループ

```
def main():
    panorama = panoramasdk.node()
    while True:
        try:
            # Instantiate application
            logger.info('INITIALIZING APPLICATION')
```

```
app = Application(panorama)
# Create threads for stream processing, debugger, and client
app.run_thread = threading.Thread(target=app.run_cv)
app.server_thread = threading.Thread(target=app.run_debugger)
app.client_thread = threading.Thread(target=app.run_client)
# Start threads
logger.info('RUNNING APPLICATION')
app.run_thread.start()
logger.info('RUNNING SERVER')
app.server_thread.start()
logger.info('RUNNING CLIENT')
app.client_thread.start()
# Wait for threads to exit
app.run_thread.join()
app.server_thread.join()
app.client_thread.join()
logger.info('RESTARTING APPLICATION')
except:
    logger.exception('Exception during processing loop.')
```

サンプルアプリケーションをデプロイするには、[このガイドの GitHub リポジトリにある「手順」](#)を参照してください。

GPU を使用する

AWS Panorama アプライアンスのグラフィックプロセッサ (GPU) にアクセスして GPU アクセラレーションライブラリを使用したり、アプリケーションコードで機械学習モデルを実行したりできます。GPU アクセスを有効にするには、アプリケーションコードコンテナを構築した後に、パッケージ設定に GPU アクセスを要件として追加します。

⚠ Important

GPU アクセスを有効にすると、アプライアンス上のどのアプリケーションでもモデルノードを実行できなくなります。セキュリティ上の理由から、アプライアンスが SageMaker AI Neo でコンパイルされたモデルを実行する場合、GPU アクセスは制限されます。GPU アクセスでは、モデルをアプリケーションコードノードで実行し、デバイス上のすべてのアプリケーションが GPU へのアクセスを共有する必要があります。

アプリケーションの GPU アクセスを有効にするには、AWS Panorama Application CLI [でパッケージを構築した後に パッケージ設定](#) を更新します。次の例は、GPU アクセスをアプリケーションコードノードに追加する requirements ブロックを示しています。

Example要件ブロックを含む package.json

```
{
  "nodePackage": {
    "envelopeVersion": "2021-01-01",
    "name": "SAMPLE_CODE",
    "version": "1.0",
    "description": "Computer vision application code.",
    "assets": [
      {
        "name": "code_asset",
        "implementations": [
          {
            "type": "container",
            "assetUri":
"eba3xmpl71aa387e8f89be9a8c396416cdb80a717bb32103c957a8bf41440b12.tar.gz",
            "descriptorUri":
"4abdxmpl15a6f047d2b3047adde44704759d13f0126c00ed9b4309726f6bb43400ba9.json",
            "requirements": [
              {
                "type": "hardware_access",
```

```
        "inferenceAccelerators": [
            {
                "deviceType": "nvhost_gpu",
                "sharedResourcePolicy": {
                    "policy" : "allow_all"
                }
            }
        ]
    }
}
],
"interfaces": [
    ...
```

開発ワークフローのビルドステップとパッケージングステップの間にパッケージ設定を更新します。

GPU アクセスでアプリケーションをデプロイするには

1. アプリケーションコンテナを構築するには、`build-container` コマンドを使用します。

```
$ panorama-cli build-container --container-asset-name code_asset --package-path
packages/123456789012-SAMPLE_CODE-1.0
```

2. `requirements` ブロックをパッケージ設定に追加します。
3. コンテナアセットとパッケージ設定をアップロードするには、`package-application` コマンドを使用します。

```
$ panorama-cli package-application
```

4. アプリケーションをデプロイします。

GPU アクセスを使用するサンプルアプリケーションについては、[aws-panorama-samples](#) GitHub リポジトリをご覧ください。

Windows 開発環境でのセットアップ

AWS Panorama アプリケーションを構築するには、Docker、コマンドラインツール、および Python を使用します。Windows では、Linux と Ubuntu 用の Docker デスクトップと Windows サブシステムを使用して開発環境をセットアップできます。このチュートリアルでは、AWS Panorama ツールとサンプルアプリケーションでテストされた開発環境の設定プロセスを順を追って説明します。

セクション

- [前提条件](#)
- [WSL 2、Ubuntu でインストールする](#)
- [Docker をインストールする](#)
- [Ubuntu の設定](#)
- [次のステップ](#)

前提条件

このチュートリアルに沿って作業するためには、Linux 2 用 Windows サブシステム (WSL 2) をサポートするバージョンの Windows が必要です。

- Windows 10 バージョン 1903 以降 (ビルド 18362 以降) または Windows 11
- Windows の機能
 - Windows Subsystem for Linux
 - Hyper-V
 - 仮想マシンのプラットフォーム

このチュートリアルは、次のソフトウェアバージョンで開発されました。

- Ubuntu 20.04
- Python 3.8.5
- Docker 20.10.8

WSL 2、Ubuntu でインストールする

Windows 10 バージョン 2004 以降 (ビルド 19041 以降) をお使いの場合は、次の PowerShell コマンドを使用して WSL 2 と Ubuntu 20.04 をインストールできます。

```
> wsl --install -d Ubuntu-20.04
```

古いバージョンの Windows の場合は、WSL 2 ドキュメントの指示に従ってください：[古いバージョンの手動インストール手順](#)

Docker をインストールする

Docker Desktop をインストールするには、hub.docker.com からインストーラーパッケージをダウンロードして実行します。問題が発生した場合は、Docker ウェブサイトの「[Docker デスクトップ WSL 2 バックエンド](#)」に記載されている指示に従ってください。

Docker Desktop を実行し、初回実行のチュートリアルに従ってサンプルコンテナを構築します。

Note

Docker Desktop はデフォルトのディストリビューションでのみ Docker を有効にします。このチュートリアルを実行する前に他の Linux ディストリビューションをインストールしていた場合は、[リソース]、[WSL 統合]の [Docker Desktop 設定] メニューで、新しくインストールした Ubuntu ディストリビューションで Docker を有効にしてください。

Ubuntu の設定

これで Ubuntu 仮想マシンで Docker コマンドを実行できるようになりました。コマンドラインターミナルを開くには、スタートメニューからディストリビューションを実行します。初めて実行するときは、管理者コマンドの実行に使用できるユーザー名とパスワードを設定します。

開発環境の設定を完了するには、仮想マシンのソフトウェアを更新し、ツールをインストールします。

仮想マシンを設定するには

1. Ubuntu に付属するソフトウェアを更新します。

```
$ sudo apt update && sudo apt upgrade -y && sudo apt autoremove
```

2. apt で開発ツールをインストールします。

```
$ sudo apt install unzip python3-pip
```

3. pip で Python ライブラリをインストールします。

```
$ pip3 install awscli panoramacli
```

4. 新しいターミナルを開き、aws configure を実行して AWS CLIを設定します。

```
$ aws configure
```

アクセスキーがない場合は、[IAM コンソール](#)で生成することができます。

最後に、サンプルアプリケーションをダウンロードしてインポートします。

サンプルアプリケーションを入手する

1. サンプルアプリケーションをダウンロードして解凍する。

```
$ wget https://github.com/awsdocs/aws-panorama-developer-guide/releases/download/v1.0-ga/aws-panorama-sample.zip
$ unzip aws-panorama-sample.zip
$ cd aws-panorama-sample
```

2. 付属のスクリプトを実行して、コンパイルをテストし、アプリケーションコンテナを構築し、パッケージを AWS Panorama にアップロードします。

```
aws-panorama-sample$ ./0-test-compile.sh
aws-panorama-sample$ ./1-create-role.sh
aws-panorama-sample$ ./2-import-app.sh
aws-panorama-sample$ ./3-build-container.sh
aws-panorama-sample$ ./4-package-app.sh
```

AWS Panorama アプリケーション CLI はパッケージをアップロードし、AWS Panorama サービスに登録します。これで、AWS Panorama コンソールで[サンプルアプリケーション](#)をデプロイできます。

次のステップ

プロジェクトファイルを確認して編集するには、ファイルエクスプローラーまたは WSL をサポートする統合開発環境 (IDE) を使用できます。

仮想マシンのファイルシステムにアクセスするには、ファイルエクスプローラーを開き、ナビゲーションバーに「`\\ws1$`」と入力します。このディレクトリには、仮想マシンのファイルシステム (Ubuntu-20.04) と Docker のデータ用のファイルシステムへのリンクが含まれています。Ubuntu-20.04 の下、ユーザーディレクトリは `home\username` にあります。

Note

Ubuntu 内から Windows インストール内のファイルにアクセスするには、`/mnt/c` ディレクトリに移動します。たとえば、`ls /mnt/c/Users/windows-username/Downloads` を実行することで、ダウンロードディレクトリにあるファイルを一覧表示できます。

Visual Studio Code では、開発環境でアプリケーションコードを編集し、統合ターミナルでコマンドを実行できます。Visual Studio Code をインストールするには、code.visualstudio.com にアクセスしてください。インストール後、[リモート WSL](#) 拡張機能を追加します。

Windows ターミナルは、これまでコマンドを実行してきた標準 Ubuntu ターミナルの代わりとなるものです。複数のタブをサポートし、PowerShell、コマンドプロンプト、およびインストールするその他のさまざまな Linux のターミナルを実行できます。Ctrl+C や Ctrl+V を使ったコピーアンドペースト、クリック可能な URL、その他の便利な機能強化をサポートしています。Windows ターミナルをインストールするには、microsoft.com にアクセスしてください。

AWS Panorama API

AWS Panorama サービスのパブリック API を使用して、デバイスとアプリケーションの管理ワークフローを自動化できます。AWS Command Line Interface または AWS SDK を使用すると、リソースとデプロイを管理するスクリプトまたはアプリケーションを開発できます。このガイドの GitHub リポジトリには、独自のコードの開始点として使用できるスクリプトが含まれています。

- [aws-panorama-開発者ガイド/util-scripts](#)

セクション

- [デバイス登録を自動化](#)
- [AWS Panorama API によるアプライアンスの管理](#)
- [アプリケーションのデプロイを自動化する](#)
- [AWS Panorama API によるアプリケーションの管理](#)
- [VPC エンドポイントの使用](#)

デバイス登録を自動化

アプライアンスをプロビジョニングするには、[プロビジョンデバイス](#) API を使用します。レスポンスには、デバイスの構成と一時的な認証情報が記載された ZIP ファイルが含まれます。ファイルをデコードし、プレフィックス `certificates-omni_` を付けてアーカイブに保存します。

Exampleプロビジョン-デバイス.sh

```
if [[ $# -eq 1 ]] ; then
    DEVICE_NAME=$1
else
    echo "Usage: ./provision-device.sh <device-name>"
    exit 1
fi
CERTIFICATE_BUNDLE=certificates-omni_${DEVICE_NAME}.zip
aws panorama provision-device --name ${DEVICE_NAME} --output text --query Certificates
| base64 --decode > ${CERTIFICATE_BUNDLE}
echo "Created certificate bundle ${CERTIFICATE_BUNDLE}"
```

構成アーカイブ内の認証情報は 5 分後に期限切れになります。付属の USB ドライブを使用してアーカイブをアプライアンスに転送します。

カメラを登録するには、[テンプレートジョブからノードを作成](#) API を使用します。この API は、カメラのユーザー名、パスワード、URL のテンプレートパラメータのマップを取得します。バッシュの文字列操作を使用して、このマップを JSON ドキュメントとしてフォーマットできます。

Example登録カメラ.sh

```
if [[ $# -eq 3 ]] ; then
    NAME=$1
    USERNAME=$2
    URL=$3
else
    echo "Usage: ./register-camera.sh <stream-name> <username> <rtsp-url>"
    exit 1
fi
echo "Enter camera stream password: "
read PASSWORD
TEMPLATE='{"Username":"MY_USERNAME","Password":"MY_PASSWORD","StreamUrl": "MY_URL"}'
TEMPLATE=${TEMPLATE/MY_USERNAME/$USERNAME}
TEMPLATE=${TEMPLATE/MY_PASSWORD/$PASSWORD}
TEMPLATE=${TEMPLATE/MY_URL/$URL}
```

```
echo ${TEMPLATE}
JOB_ID=$(aws panorama create-node-from-template-job --template-type RTSP_CAMERA_STREAM
--output-package-name ${NAME} --output-package-version "1.0" --node-name ${NAME} --
template-parameters "${TEMPLATE}" --output text)
```

または、JSON 構成をファイルからロードすることもできます。

```
--template-parameters file://camera-template.json
```

AWS Panorama API によるアプライアンスの管理

AWS Panorama API を使用してアプライアンス管理ワークタスクを自動化します。

デバイスを表示

デバイス ID を持つアプライアンスのリストを取得するには、[デバイス一覧](#) API を使用します。

```
$ aws panorama list-devices
  "Devices": [
    {
      "DeviceId": "device-4tafxmplhmtzabv5lsacba4ere",
      "Name": "my-appliance",
      "CreatedTime": 1652409973.613,
      "ProvisioningStatus": "SUCCEEDED",
      "LastUpdatedTime": 1652410973.052,
      "LeaseExpirationTime": 1652842940.0
    }
  ]
}
```

アプライアンスに関する詳細情報を取得するには、[デバイスを説明](#) API を使用してください。

```
$ aws panorama describe-device --device-id device-4tafxmplhmtzabv5lsacba4ere
{
  "DeviceId": "device-4tafxmplhmtzabv5lsacba4ere",
  "Name": "my-appliance",
  "Arn": "arn:aws:panorama:us-west-2:123456789012:device/device-4tafxmplhmtzabv5lsacba4ere",
  "Type": "PANORAMA_APPLIANCE",
  "DeviceConnectionStatus": "ONLINE",
  "CreatedTime": 1648232043.421,
  "ProvisioningStatus": "SUCCEEDED",
  "LatestSoftware": "4.3.55",
  "CurrentSoftware": "4.3.45",
  "SerialNumber": "GFXMPL0013023708",
  "Tags": {},
  "CurrentNetworkingStatus": {
    "Ethernet0Status": {
      "IpAddress": "192.168.0.1/24",
      "ConnectionStatus": "CONNECTED",
      "HwAddress": "8C:XM:PL:60:C5:88"
    }
  },
}
```

```
    "Ethernet1Status": {
      "IpAddress": "--",
      "ConnectionStatus": "NOT_CONNECTED",
      "HwAddress": "8C:XM:PL:60:C5:89"
    }
  },
  "LeaseExpirationTime": 1652746098.0
}
```

アプライアンスソフトウェアをアップグレードする

LatestSoftware バージョンが CurrentSoftware よりも新しい場合は、デバイスをアップグレードできます。[デバイスのためにジョブを作成](#) API を使用して無線通信 (OTA) 更新ジョブを作成します。

```
$ aws panorama create-job-for-devices --device-ids device-4tafxmplhtzabv5lsacba4ere \
  --device-job-config '{"OTAJobConfig": {"ImageVersion": "4.3.55"}}' --job-type OTA
{
  "Jobs": [
    {
      "JobId": "device-4tafxmplhtzabv5lsacba4ere-0",
      "DeviceId": "device-4tafxmplhtzabv5lsacba4ere"
    }
  ]
}
```

スクリプトでは、ジョブ構成ファイルのイメージバージョンフィールドにバッシュ文字列操作を入力できます。

Example更新のチェック.sh

```
apply_update() {
  DEVICE_ID=$1
  NEW_VERSION=$2
  CONFIG='{"OTAJobConfig": {"ImageVersion": "NEW_VERSION"}}'
  CONFIG=${CONFIG/NEW_VERSION/$NEW_VERSION}
  aws panorama create-job-for-devices --device-ids ${DEVICE_ID} --device-job-config
  "${CONFIG}" --job-type OTA
}
```

アプライアンスは指定されたソフトウェアバージョンをダウンロードし、自動的にアップデートします。[デバイスジョブを説明](#) API を使用してアップデートの進行状況を監視します。

```
$ aws panorama describe-device-job --job-id device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere-0
{
  "JobId": "device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere-0",
  "DeviceId": "device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere",
  "DeviceArn": "arn:aws:panorama:us-west-2:559823168634:device/
device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere",
  "DeviceName": "my-appliance",
  "DeviceType": "PANORAMA_APPLIANCE",
  "ImageVersion": "4.3.55",
  "Status": "REBOOTING",
  "CreatedTime": 1652410232.465
}
```

実行中のすべてのジョブのリストを取得するには、[デバイスジョブ一覧](#)を使用してください。

```
$ aws panorama list-devices-jobs
{
  "DeviceJobs": [
    {
      "DeviceName": "my-appliance",
      "DeviceId": "device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere",
      "JobId": "device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere-0",
      "CreatedTime": 1652410232.465
    }
  ]
}
```

更新を確認して適用するサンプルスクリプトについては、このガイドの GitHub リポジトリにある [更新のチェック.sh](#) を参照してください。

アプライアンスの再起動

アプライアンスを再起動するには、[デバイスのためにジョブを作成](#) API を使用します。

```
$ aws panorama create-job-for-devices --device-ids device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere --
job-type REBOOT
{
  "Jobs": [
    {
      "JobId": "device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere-0",
      "DeviceId": "device-4tafxmplhtmlmzabv5lsacba4ere"
    }
  ]
}
```

```
]
}
```

スクリプトでは、デバイスのリストを取得し、そのうちの1つを選択してインタラクティブに再起動できます。

Exampleデバイスの再起動.sh — 使用方法

```
$ ./reboot-device.sh
Getting devices...
0: device-53amxmplyn3gmj72epzanacniy      my-se70-1
1: device-6talxmpl5mmik6qh5moba6jium      my-manh-24
Choose a device
1
Reboot device device-6talxmpl5mmik6qh5moba6jium? (y/n)y
{
  "Jobs": [
    {
      "DeviceId": "device-6talxmpl5mmik6qh5moba6jium",
      "JobId": "device-6talxmpl5mmik6qh5moba6jium-8"
    }
  ]
}
```

アプリケーションのデプロイを自動化する

アプリケーションをデプロイするには、AWS Panorama アプリケーション CLI と の両方を使用します。AWS Command Line Interface。アプリケーションコンテナを構築したら、それと他のアセットを Amazon S3 Access Points にアップロードします。次に、[CreateApplicationInstance](#) API を使用してアプリケーションをデプロイします。

示されているスクリプトの詳細と使用方法については、[サンプルアプリケーションの README](#)の指示に従ってください。

セクション

- [コンテナを構築します](#)
- [コンテナをアップロードしてノードを登録します](#)
- [アプリケーションをデプロイする](#)
- [デプロイをモニタリングします](#)

コンテナを構築します

アプリケーションコンテナを構築するには、`build-container` コマンドを使用します。このコマンドは Docker コンテナを構築し、圧縮ファイルシステムとして `assets` フォルダに保存します。

Example [3-build-container.sh](#)

```
CODE_PACKAGE=SAMPLE_CODE
ACCOUNT_ID=$(aws sts get-caller-identity --output text --query 'Account')
panorama-cli build-container --container-asset-name code_asset --package-path packages/
${ACCOUNT_ID}-${CODE_PACKAGE}-1.0
```

また、パスの一部を入力して TAB を押すことで、コマンドライン補完を使ってパスの引数を埋めることもできます。

```
$ panorama-cli build-container --package-path packages/TAB
```

コンテナをアップロードしてノードを登録します

アプリケーションをアップロードするには、`package-application` コマンドを使用します。このコマンドは、`assets` フォルダから AWS Panorama が管理する Amazon S3 Access Points にアセットをアップロードします。

Example [4-package-app.sh](#)

```
panorama-cli package-application
```

AWS Panorama アプリケーション CLI は、各パッケージのパッケージ設定 (`package.json`) によって参照されるコンテナアセットと記述子アセットをアップロードし、パッケージを AWS Panorama のノードとして登録します。次に、アプリケーションマニフェスト (`graph.json`) でこれらのノードを参照してアプリケーションをデプロイします。

アプリケーションをデプロイする

アプリケーションをデプロイするには、[CreateApplicationInstance](#) API を使用します。このアクションは、特に以下のパラメーターを取ります。

- `ManifestPayload` — アプリケーションのノード、パッケージ、エッジ、パラメータを定義するアプリケーションマニフェスト (`graph.json`)。
- `ManifestOverridesPayload` — 最初のマニフェストのパラメータをオーバーライドする 2 つ目のマニフェスト。アプリケーション マニフェストはアプリケーション ソース内の静的リソースとみなすことができ、オーバーライド マニフェストはデプロイをカスタマイズするデプロイ時設定を提供します。
- `DefaultRuntimeContextDevice` - ターゲットデバイス。
- `RuntimeRoleArn` — AWS サービスおよびリソースにアクセスするためにアプリケーションが使用する IAM ロールの ARN。
- `ApplicationInstanceIdToReplace` — デバイスから削除する既存のアプリケーションインスタンスの ID。

マニフェストペイロードとオーバーライドペイロードは JSON ドキュメントであり、別のドキュメント内にネストされた文字列値として提供する必要があります。そのために、スクリプトはマニフェストをファイルから文字列として読み込み、[jq ツール](#)を使用してネストされたドキュメントをコンストラクトします。

Example [5-deploy.sh](#) — マニフェストを作成

```
GRAPH_PATH="graphs/my-app/graph.json"  
OVERRIDE_PATH="graphs/my-app/override.json"
```

```
# application manifest
GRAPH=$(cat ${GRAPH_PATH} | tr -d '\n' | tr -d '[:blank:]')
MANIFEST="$(jq --arg value "${GRAPH}" '.PayloadData="\($value)"' <<< {})"
# manifest override
OVERRIDE=$(cat ${OVERRIDE_PATH} | tr -d '\n' | tr -d '[:blank:]')
MANIFEST_OVERRIDE="$(jq --arg value "${OVERRIDE}" '.PayloadData="\($value)"' <<< {})"
```

デプロイスクリプトは [ListDevices](#) API を使用して現在のリージョンに登録されているデバイスのリストを取得し、ユーザーの選択を今後のデプロイ用にローカルファイルに保存します。

Example [5-deploy.sh](#) — デバイスを検出

```
echo "Getting devices..."
DEVICES=$(aws panorama list-devices)
DEVICE_NAMES=$((echo ${DEVICES} | jq -r '.Devices |=sort_by(.LastUpdatedTime) | [.Devices[].Name] | @sh') | tr -d '\\"))
DEVICE_IDS=$((echo ${DEVICES} | jq -r '.Devices |=sort_by(.LastUpdatedTime) | [.Devices[].DeviceId] | @sh') | tr -d '\\"))
for (( c=0; c<${#DEVICE_NAMES[@]}; c++ ))
do
    echo "${c}: ${DEVICE_IDS[${c}]}      ${DEVICE_NAMES[${c}]}"
done
echo "Choose a device"
read D_INDEX
echo "Deploying to device ${DEVICE_IDS[${D_INDEX}]}"
echo -n ${DEVICE_IDS[${D_INDEX}]} > device-id.txt
DEVICE_ID=$(cat device-id.txt)
```

アプリケーションロールは別のスクリプト ([1-create-role.sh](#)) によって作成されます。デプロイスクリプトは、このロールの ARN を取得します AWS CloudFormation。アプリケーションが既にデバイスにデプロイされている場合、スクリプトはローカルファイルからそのアプリケーションインスタンスの ID を取得します。

Example [5-deploy.sh](#) — ロール ARN と置換引数

```
# application role
STACK_NAME=panorama-${NAME}
ROLE_ARN=$(aws cloudformation describe-stacks --stack-name panorama-${PWD##*/} --query 'Stacks[0].Outputs[?OutputKey==`roleArn`.OutputValue' --output text)
ROLE_ARG="--runtime-role-arn=${ROLE_ARN}"
```

```
# existing application instance id
if [ -f "application-id.txt" ]; then
    EXISTING_APPLICATION=$(cat application-id.txt)
    REPLACE_ARG="--application-instance-id-to-replace=${EXISTING_APPLICATION}"
    echo "Replacing application instance ${EXISTING_APPLICATION}"
fi
```

最後に、このスクリプトはすべての要素をまとめてアプリケーションインスタンスを作成し、アプリケーションをデバイスにデプロイします。サービスは、後で使用するためにスクリプトが保存するインスタンス ID で応答します。

Example [5-deploy.sh](#) — アプリケーションをデプロイ

```
APPLICATION_ID=$(aws panorama create-application-instance ${REPLACE_ARG} --manifest-
payload="${MANIFEST}" --default-runtime-context-device=${DEVICE_ID} --name=${NAME}
--description="command-line deploy" --tags client=sample --manifest-overrides-
payload="${MANIFEST_OVERRIDE}" ${ROLE_ARG} --output text)
echo "New application instance ${APPLICATION_ID}"
echo -n $APPLICATION_ID > application-id.txt
```

デプロイをモニタリングします

デプロイをモニタリングするには、[ListApplicationInstances API](#) を使用します。モニタースクリプトは、アプリケーションディレクトリ内のファイルからデバイス ID とアプリケーションインスタンス ID を取得し、それらを使用して CLI コマンドを構築します。その後、ループで呼び出されます。

Example [6-monitor-deployment.sh](#)

```
APPLICATION_ID=$(cat application-id.txt)
DEVICE_ID=$(cat device-id.txt)
QUERY="ApplicationInstances[?ApplicationInstanceId==`\`APPLICATION_ID\`]"
QUERY=${QUERY/APPLICATION_ID/$APPLICATION_ID}
MONITOR_CMD="aws panorama list-application-instances --device-id ${DEVICE_ID} --query
${QUERY}"
MONITOR_CMD=${MONITOR_CMD/QUERY/$QUERY}
while true; do
    $MONITOR_CMD
    sleep 60
done
```

デプロイが完了すると、Amazon CloudWatch Logs API を呼び出してログを表示できます。ログ表示スクリプトは CloudWatch Logs GetLogEvents API を使用します。

Example [view-logs.sh](#)

```
GROUP="/aws/panorama/devices/MY_DEVICE_ID/applications/MY_APPLICATION_ID"
GROUP=${GROUP/MY_DEVICE_ID/$DEVICE_ID}
GROUP=${GROUP/MY_APPLICATION_ID/$APPLICATION_ID}
echo "Getting logs for group ${GROUP}."
#set -x
while true
do
    LOGS=$(aws logs get-log-events --log-group-name ${GROUP} --log-stream-name
code_node --limit 150)
    readarray -t ENTRIES < <(echo $LOGS | jq -c '.events[].message')
    for ENTRY in "${ENTRIES[@]"; do
        echo "$ENTRY" | tr -d \"
    done
    sleep 20
done
```

AWS Panorama API によるアプリケーションの管理

AWS Panorama API を使用して、アプリケーションをモニタリングおよび管理できます。

アプリケーションの表示

アプライアンスで実行されているアプリケーションのリストを取得するには、[ListApplicationInstances](#) API を使用します。

```
$ aws panorama list-application-instances
  "ApplicationInstances": [
    {
      "Name": "aws-panorama-sample",
      "ApplicationInstanceId": "applicationInstance-ddaxxmpl2z7bg74ywutd7byxuq",
      "DefaultRuntimeContextDevice": "device-4tafxmplhtzabv5lsacba4ere",
      "DefaultRuntimeContextDeviceName": "my-appliance",
      "Description": "command-line deploy",
      "Status": "DEPLOYMENT_SUCCEEDED",
      "HealthStatus": "RUNNING",
      "StatusDescription": "Application deployed successfully.",
      "CreatedTime": 1661902051.925,
      "Arn": "arn:aws:panorama:us-east-2:123456789012:applicationInstance/applicationInstance-ddaxxmpl2z7bg74ywutd7byxuq",
      "Tags": {
        "client": "sample"
      }
    },
  ]
}
```

アプリケーションインスタンスのノードに関する詳細情報を取得するには、[ListApplicationInstanceNodeInstances](#) API を使用してください。

```
$ aws panorama list-application-instance-node-instances --application-instance-id applicationInstance-ddaxxmpl2z7bg74ywutd7byxuq
{
  "NodeInstances": [
    {
      "NodeInstanceId": "code_node",
      "NodeId": "SAMPLE_CODE-1.0-fd3dxmpl-interface",
      "PackageName": "SAMPLE_CODE",
    }
  ]
}
```

```

    "PackageVersion": "1.0",
    "PackagePatchVersion":
"fd3dxmlp12bdfa41e6fe1be290a79dd2c29cf014eadf7416d861ce7715ad5e8a8",
    "NodeName": "interface",
    "CurrentStatus": "RUNNING"
  },
  {
    "NodeInstanceId": "camera_node_override",
    "NodeId": "warehouse-floor-1.0-9eabxmlp1-warehouse-floor",
    "PackageName": "warehouse-floor",
    "PackageVersion": "1.0",
    "PackagePatchVersion":
"9eabxmlp1e89f0f8b2f2852cca2a6e7971aa38f1629a210d069045e83697e42a7",
    "NodeName": "warehouse-floor",
    "CurrentStatus": "RUNNING"
  },
  {
    "NodeInstanceId": "output_node",
    "NodeId": "hdmi_data_sink-1.0-9c23xmlp1-hdmi0",
    "PackageName": "hdmi_data_sink",
    "PackageVersion": "1.0",
    "PackagePatchVersion":
"9c23xmlp1c4c98b92baea4af676c8b16063d17945a3f6bd8f83f4ff5aa0d0b394",
    "NodeName": "hdmi0",
    "CurrentStatus": "RUNNING"
  },
  {
    "NodeInstanceId": "model_node",
    "NodeId": "SQUEEZENET_PYTORCH-1.0-5d3cabda-interface",
    "PackageName": "SQUEEZENET_PYTORCH",
    "PackageVersion": "1.0",
    "PackagePatchVersion":
"5d3cxmlp1b7113faa1d130f97f619655d8ca12787c751851a0e155e50eb5e3e96",
    "NodeName": "interface",
    "CurrentStatus": "RUNNING"
  }
]
}

```

カメラストリームの管理

[SignalApplicationInstanceNodeInstances](#) API を使用してカメラストリームノードを一時停止および再開できます。

```
$ aws panorama signal-application-instance-node-instances --application-instance-id
applicationInstance-ddaxxmpl2z7bg74ywutd7byxuq \
    --node-signals '[{"NodeInstanceId": "camera_node_override", "Signal":
"PAUSE"}]'
{
  "ApplicationInstanceId": "applicationInstance-ddaxxmpl2z7bg74ywutd7byxuq"
}
```

スクリプトでは、ノードのリストを取得し、インタラクティブに一時停止または再開するノードを1つ選択できます。

Example [pause-camera.sh](#) — 使用方法

```
my-app$ ./pause-camera.sh

Getting nodes...
0: SAMPLE_CODE          RUNNING
1: warehouse-floor      RUNNING
2: hdmi_data_sink       RUNNING
3: entrance-north      PAUSED
4: SQUEEZENET_PYTORCH  RUNNING
Choose a node
1
Signalling node warehouse-floor
+ aws panorama signal-application-instance-node-instances --application-instance-id
applicationInstance-r3a7xmplcbmpjqeds7vj4b6pjy --node-signals '[{"NodeInstanceId":
"warehouse-floor", "Signal": "PAUSE"}]'
{
  "ApplicationInstanceId": "applicationInstance-r3a7xmplcbmpjqeds7vj4b6pjy"
}
```

カメラノードを一時停止して再開することで、同時に処理できる数よりも多くのカメラストリームをサイクルさせることができます。そのためには、複数のカメラストリームをオーバーライドマニフェストの同じ入力ノードにマップします。

次の例では、オーバーライドマニフェストは `warehouse-floor` と `entrance-north`、2つのカメラストリームを同じ入力ノード (`camera_node`) にマップします。アプリケーションが起動し、`entrance-north` ノードが信号がオンになるのを待つと、`warehouse-floor` ストリームはアクティブになります。

Example [override-multicam.json](#)

```
"nodeGraph0overrides": {
  "nodes": [
    {
      "name": "warehouse-floor",
      "interface": "123456789012::warehouse-floor.warehouse-floor",
      "launch": "onAppStart"
    },
    {
      "name": "entrance-north",
      "interface": "123456789012::entrance-north.entrance-north",
      "launch": "onSignal"
    },
    ...
  ],
  "packages": [
    {
      "name": "123456789012::warehouse-floor",
      "version": "1.0"
    },
    {
      "name": "123456789012::entrance-north",
      "version": "1.0"
    }
  ],
  "node0overrides": [
    {
      "replace": "camera_node",
      "with": [
        {
          "name": "warehouse-floor"
        },
        {
          "name": "entrance-north"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

APIでのデプロイの詳細については、[アプリケーションのデプロイを自動化する](#)を参照してください。

VPC エンドポイントの使用

インターネットにアクセスできない VPC で作業する場合は、AWS Panorama で使用する [VPC エンドポイント](#)を作成できます。VPC エンドポイントを使用すると、プライベートサブネットで実行されているクライアントは、インターネットに接続しなくても AWS サービスに接続できます。

AWS Panorama アプライアンスで使用されるポートとエンドポイントの詳細については、「[???](#)」を参照してください。

セクション

- [VPC エンドポイントの作成](#)
- [アプライアンスをプライベートサブネットに接続する](#)
- [サンプル AWS CloudFormation テンプレート](#)

VPC エンドポイントの作成

VPC と AWS Panorama とのプライベート接続を確立するには、VPC エンドポイントを作成します。AWS Panorama を使用するために VPC エンドポイントは必要ありません。VPC エンドポイントを作成する必要があるのは、インターネットにアクセスできない VPC で作業する場合だけです。AWS CLI または SDK が AWS Panorama に接続しようとする時、トラフィックは VPC エンドポイントを経由してルーティングされます。

次の設定を使用して AWS Panorama の [VPC エンドポイントを作成](#)します。

- サービス名 - **com.amazonaws.us-west-2.panorama**
- タイプ — インターフェイス

VPC エンドポイントはサービスの DNS 名を使用して、追加の設定なしで AWS SDK クライアントからのトラフィックを取得します。VPC エンドポイントの使い方の詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[インターフェイス VPC エンドポイント](#)」を参照してください。

アプライアンスをプライベートサブネットに接続する

AWS Panorama アプライアンスは、AWS Site-to-Site VPN または どのプライベート VPN 接続 AWS を介してに接続できます AWS Direct Connect。これらのサービスを使用すると、データセンターにまで及ぶプライベートサブネットを作成できます。アプライアンスはプライベートサブネットに接続し、VPC エンドポイントを介して AWS サービスにアクセスします。

Site-to-Site VPN および Direct Connect は、データセンターを Amazon VPC に安全に接続するためのサービスです。Site-to-Site VPN では、市販のネットワークデバイスを使用して接続できます。は AWS デバイス Direct Connect を使用して接続します。

- Site-to-Site VPN - [AWS Site-to-Site VPNとは何か？](#)
- Direct Connect - [AWS Direct Connectとは何か？](#)

ローカルネットワークを VPC 内のプライベートサブネットに接続したら、次のサービスの VPC エンドポイントを作成します。

- Amazon Simple Storage Service – [AWS PrivateLink for Amazon S3](#)
- AWS IoT Core — [AWS IoT Core をインターフェイス VPC エンドポイント](#) (データプレーンと認証情報プロバイダー) で使用する
- Amazon Elastic コンテナレジストリ — [Amazon Elastic コンテナレジストリインターフェイス VPC エンドポイント](#)
- Amazon CloudWatch - [インターフェイス VPC エンドポイント で CloudWatch を使用する](#)
- Amazon CloudWatch Logs - [インターフェイス VPC エンドポイントで CloudWatch Logs を使用する](#)

アプライアンスは AWS Panorama サービスに接続する必要はありません。メッセージングチャンネルを介して AWS Panorama と通信します AWS IoT。

VPC エンドポイントに加えて、Amazon S3 および AWS IoT では Amazon Route 53 プライベートホストゾーンを使用する必要があります。プライベートホストゾーンは、Amazon S3 Access Points のサブドメインや MQTT トピックを含むサブドメインからのトラフィックを正しい VPC エンドポイントにルーティングします。プライベートホストゾーンの詳細については、「Amazon Route 53 デベロッパーガイド」の「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

VPC エンドポイントとプライベートホストゾーンを使用した VPC 設定のサンプルについては、[サンプル AWS CloudFormation テンプレート](#) を参照してください。

サンプル AWS CloudFormation テンプレート

このガイドの GitHub リポジトリには、AWS Panorama で使用するリソースを作成するために使用できる AWS CloudFormation テンプレートが用意されています。テンプレートでは、2 つのプライ

ベートサブネット、パブリックサブネット、および VPC エンドポイントを持つ VPC を作成します。VPC のプライベートサブネットを使用して、インターネットから隔離されたリソースをホストできます。パブリックサブネット内のリソースはプライベートリソースと通信できますが、プライベートリソースにはインターネットからアクセスできません。

Example [vpc-endpoint.yml](#) — プライベートサブネット

```
AWSTemplateFormatVersion: 2010-09-09
Resources:
  vpc:
    Type: AWS::EC2::VPC
    Properties:
      CidrBlock: 172.31.0.0/16
      EnableDnsHostnames: true
      EnableDnsSupport: true
    Tags:
      - Key: Name
        Value: !Ref AWS::StackName
  privateSubnetA:
    Type: AWS::EC2::Subnet
    Properties:
      VpcId: !Ref vpc
      AvailabilityZone:
        Fn::Select:
          - 0
          - Fn::GetAZs: ""
      CidrBlock: 172.31.3.0/24
      MapPublicIpOnLaunch: false
    Tags:
      - Key: Name
        Value: !Sub ${AWS::StackName}-subnet-a
  ...
```

`vpc-endpoint.yml` テンプレートでは、AWS Panorama 用の VPC エンドポイントを作成する方法を示します。このエンドポイントを使用して、AWS SDK または `aws` で AWS Panorama リソースを管理できます AWS CLI。

Example [vpc-endpoint.yml](#) — VPC エンドポイント

```
panoramaEndpoint:
  Type: AWS::EC2::VPCEndpoint
  Properties:
```

```

ServiceName: !Sub com.amazonaws.${AWS::Region}.panorama
VpcId: !Ref vpc
VpcEndpointType: Interface
SecurityGroupIds:
- !GetAtt vpc.DefaultSecurityGroup
PrivateDnsEnabled: true
SubnetIds:
- !Ref privateSubnetA
- !Ref privateSubnetB
PolicyDocument:
  Version: 2012-10-17
  Statement:
  - Effect: Allow
    Principal: "*"
    Action:
      - "panorama:*"
    Resource:
      - "*"

```

PolicyDocument は、エンドポイントで実行できる API 呼び出しを定義するリソーススペースのアクセス権限ポリシーです。ポリシーを変更して、エンドポイントからアクセスできるアクションとリソースを制限できます。詳細については、「Amazon VPC ユーザーガイド」の「[VPC エンドポイントによるサービスのアクセスコントロール](#)」を参照してください。

vpc-appliance.yml テンプレートは、AWS Panorama アプライアンスが使用するサービス用の VPC エンドポイントとプライベートホストゾーンを作成する方法を示しています。

Example [vpc-appliance.yml](#) — プライベートホストゾーンを持つ Amazon S3 Access Points エンドポイント

```

s3Endpoint:
  Type: AWS::EC2::VPCEndpoint
  Properties:
    ServiceName: !Sub com.amazonaws.${AWS::Region}.s3
    VpcId: !Ref vpc
    VpcEndpointType: Interface
    SecurityGroupIds:
      - !GetAtt vpc.DefaultSecurityGroup
    PrivateDnsEnabled: false
    SubnetIds:
      - !Ref privateSubnetA
      - !Ref privateSubnetB
...

```

```
s3apHostedZone:
  Type: AWS::Route53::HostedZone
  Properties:
    Name: !Sub s3-accesspoint.${AWS::Region}.amazonaws.com
    VPCs:
      - VPCId: !Ref vpc
        VPCRegion: !Ref AWS::Region
s3apRecords:
  Type: AWS::Route53::RecordSet
  Properties:
    HostedZoneId: !Ref s3apHostedZone
    Name: !Sub "*.s3-accesspoint.${AWS::Region}.amazonaws.com"
    Type: CNAME
    TTL: 600
    # first DNS entry, split on :, second value
    ResourceRecords:
      - !Select [1, !Split [":", !Select [0, !GetAtt s3Endpoint.DnsEntries ] ] ]
```

サンプルテンプレートでは、サンプル VPC を使用して Amazon VPC と Route 53 リソースを作成する方法について説明しています。VPC リソースを削除し、サブネット、セキュリティグループ、VPC ID への参照をリソースの ID に置き換えることで、これらをユースケースに適合させることができます。

サンプルアプリケーション、スクリプト、テンプレート

このガイドの GitHub リポジトリには、AWS Panorama デバイスのサンプルアプリケーション、スクリプト、テンプレートが用意されています。これらのサンプルを使ってベストプラクティスを学び、開発ワークフローを自動化します。

セクション

- [サンプルアプリケーション](#)
- [ユーティリティスクリプト](#)
- [CloudFormation テンプレート](#)
- [その他のサンプルとツール](#)

サンプルアプリケーション

サンプルアプリケーションは、AWS Panorama 機能と一般的なコンピュータビジョンタスクの使用を示しています。これらのサンプルアプリケーションには、セットアップとデプロイを自動化するスクリプトとテンプレートが含まれています。最小限の設定で、コマンドラインからアプリケーションのデプロイと更新を実行できます。

- [aws-panorama-sample](#) — 分類モデルを使用した基本的なコンピュータビジョン。を使用して AWS SDK for Python (Boto)、メトリクスを CloudWatch にアップロードし、前処理と推論の方法を実装し、ログ記録を設定します。
- [debug-server](#) — デバイスの [インバウンドポートを開き](#)、トラフィックをアプリケーションコードコンテナに転送します。マルチスレッドを使用して、アプリケーションコード、HTTP サーバー、HTTP クライアントを同時に実行します。
- [カスタムモデル](#) — コードからモデルをエクスポートし、SageMaker AI Neo でコンパイルして、AWS Panorama アプライアンスとの互換性をテストします。Python 開発環境、Docker コンテナ、または Amazon EC2 インスタンスでローカルに構築します。特定の TensorFlow または Python バージョン用に、すべての組み込みアプリケーションモデルを Keras にエクスポートしてコンパイルします。

その他のサンプルアプリケーションについては、[aws-panorama-samples](#) リポジトリもご覧ください。

ユーティリティスクリプト

util-scripts ディレクトリのスクリプトは、AWS Panorama リソースを管理したり、開発ワークフローを自動化したりします。

- [provision-device.sh](#) — デバイスをプロビジョニングします。
- [check-updates.sh](#) — アプライアンスのソフトウェアアップデートを確認して適用します。
- [reboot-device.sh](#) — デバイスを再起動します。
- [register-camera.sh](#) — カメラを登録します。
- [deregister-camera.sh](#) — カメラノードを削除します。
- [view-logs.sh](#) — アプリケーションインスタンスのログを表示します。
- [pause-camera.sh](#) — カメラストリームを一時停止または再開します。
- [push.sh](#) — アプリケーションを構築、アップロード、デプロイします。
- [rename-package.sh](#) — ノードパッケージの名前を変更します。ディレクトリ名、設定ファイル、アプリケーションマニフェストを更新します。
- [simplify.sh](#) — アカウント ID をサンプルアカウント ID に置き換え、バックアップ設定を復元してローカル設定を削除します。
- [update-model-config.sh](#) — 記述子ファイルを更新した後に、モデルをアプリケーションに再度追加します。
- [cleanup-patches.sh](#) — 古いパッチバージョンの登録を解除し、そのマニフェストを Amazon S3 から削除します。

使用方法の詳細については、「[README](#)」を参照してください。

CloudFormation テンプレート

cloudformation-templates ディレクトリの CloudFormation テンプレートを使用して、アプリケーションのリソース AWS Panorama を作成します。

- [alarm-application.yml](#) — アプリケーションのエラーをモニタリングするアラームを作成します。アプリケーションインスタンスでエラーが発生したり、5 分間実行が停止したりすると、アラームは通知メールを送信します。

- [alarm-device.yml](#) — デバイスの接続をモニタリングするアラームを作成します。デバイスがメトリクスの送信を 5 分間停止すると、アラームは通知メールを送信します。
- [application-role.yml](#) — アプリケーションロールを作成します。ロールには CloudWatch にメトリクスを送信する権限が含まれます。アプリケーションが使用する他の API オペレーションの権限をポリシーステートメントに追加します。
- [vpc-appliance.yml](#) — AWS Panorama アプライアンスのプライベートサブネットサービスアクセスを持つ VPC を作成します。アプライアンスを VPC に接続するには、AWS Direct Connect またはを使用します AWS Site-to-Site VPN。
- [vpc-endpoint.yml](#) — AWS Panorama サービスへのプライベートサブネットサービスアクセスを持つ VPC を作成します。VPC 内のリソースは、インターネットに接続せずにに接続 AWS Panorama して AWS Panorama リソースをモニタリングおよび管理できます。

このディレクトリの `create-stack.sh` スクリプトは CloudFormation スタックを作成します。引数の数は可変です。最初の引数はテンプレートの名前で、残りの引数はテンプレートのパラメーターのオーバーライドです。

例えば、以下のコマンドはアプリケーションロールを作成します。

```
$ ./create-stack.sh application-role
```

その他のサンプルとツール

[aws-panorama-samples](#) リポジトリには、さらに多くのサンプルアプリケーションと便利なツールがあります。

- [アプリケーション](#) — さまざまなモデルアーキテクチャとユースケースに対応するサンプルアプリケーション。
- [カメラストリームの検証](#) — カメラストリームを検証します。
- [PanoJupyter](#) — AWS Panorama アプライアンスで JupyterLab を実行します。
- [サイドローディング](#) — アプリケーションコンテナを構築またはデプロイせずにアプリケーションコードを更新します。

AWS コミュニティでは、 のツールとガイダンスも開発されています AWS Panorama。GitHub で次のオープンソースプロジェクトをチェックしてください。

- [cookiecutter-panorama](#) – AWS Panorama アプリケーション用の Cookiecutter テンプレート。
- [バックパック](#) – ランタイム環境の詳細、プロファイリング、その他のビデオ出力オプションにアクセスするための Python モジュール。

AWS Panorama リソースとアプリケーションのモニタリング

AWS Panorama コンソールおよび Amazon CloudWatch で AWS Panorama リソースをモニタリングできます。AWS Panorama アプライアンスはインターネット経由でクラウドに接続し、そのステータスと接続された AWS カメラのステータスを報告します。また、オンになっている間、アプライアンスは CloudWatch Logs にリアルタイムでログを送信します。

アプライアンスは AWS IoT、AWS Panorama コンソールを初めて使用するときに作成するサービスロールから、CloudWatch Logs、およびその他の AWS のサービスを使用するためのアクセス許可を取得します。詳細については、「[AWS Panorama サービスロールとクロスサービスリソース](#)」を参照してください。

特定のエラーのトラブルシューティングのヘルプについては、「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

トピック

- [AWS Panorama コンソールでのモニタリング](#)
- [AWS Panorama ログを表示する](#)
- [Amazon CloudWatch によるアプライアンスとアプリケーションのモニタリング](#)

AWS Panorama コンソールでのモニタリング

AWS Panorama コンソールを使用して AWS Panorama アプライアンスとカメラをモニタリングできます。コンソールは AWS IoT を使用してアプライアンスの状態をモニタリングします。

AWS Panorama コンソールでアプライアンスをモニタリングするには

1. [AWS Panorama コンソール](#)を開きます。
2. AWS Panorama コンソールの [\[デバイス\] ページ](#)を開きます。
3. アプライアンスを選択します。
4. アプリケーションインスタンスのステータスを確認するには、リストから選択します。
5. アプライアンスのネットワークインターフェースのステータスを確認するには、Settings を選択します。

ページの上部にアプライアンスの全体的なステータスが表示されます。ステータスがオンラインの場合、アプライアンスは に接続 AWS され、定期的なステータス更新を送信します。

AWS Panorama ログを表示する

AWS Panorama は、アプリケーションイベントとシステムイベントを Amazon CloudWatch Logs にレポートします。問題が発生した場合は、イベントログを使用して AWS Panorama アプリケーションのデバッグやアプリケーション設定のトラブルシューティングを行うことができます。

CloudWatch Logs でログを表示する

1. CloudWatch Logs コンソールの [\[\[ロググループ\] ページ\]](#) を開きます。
2. 次のグループで AWS Panorama アプリケーションログとアプライアンスログを検索します:
 - デバイスログ — `/aws/panorama/devices/device-id`
 - アプリケーションログ — `/aws/panorama/devices/device-id/applications/instance-id`

システムソフトウェアの更新後にアプライアンスを再プロビジョニングすると、[プロビジョニング USB ドライブのログ](#)も表示できます。

セクション

- [デバイスログの表示](#)
- [アプリケーションログの表示](#)
- [アプリケーションログの設定をする](#)
- [プロビジョニングログの表示](#)
- [デバイスからのログ出力](#)

デバイスログの表示

AWS Panorama アプライアンスは、デバイスのロググループと、デプロイする各アプリケーションインスタンスのグループを作成します。デバイスログには、アプリケーションのステータス、ソフトウェアのアップグレード、システム設定に関する情報が含まれます。

デバイスログ — `/aws/panorama/devices/device-id`

- `occ_log` — コントローラープロセスからの出力。このプロセスは、アプリケーションのデプロイを調整し、各アプリケーションインスタンスのノードの状態をレポートします。

- ota_log — 無線通信 (OTA) ソフトウェアアップグレードを調整するプロセスから出力されません。
- syslog — プロセス間で送信されたメッセージをキャプチャする、デバイスの syslog プロセスからの出力。
- kern_log — デバイスの Linux カーネルからのイベント。
- logging_setup_logs — CloudWatch Logs エージェントを設定するプロセスからの出力。
- cloudwatch_agent_logs — CloudWatch Logs エージェントからの出力。
- shadow_log — [AWS IoT デバイスシャドウ](#)からの出力。

アプリケーションログの表示

アプリケーションインスタンスのロググループには、ノードにちなんで名付けられた各ノードのログストリームが含まれます。

アプリケーションログ — `/aws/panorama/devices/device-id/applications/instance-id`

- コード — アプリケーションコードと AWS Panorama アプリケーション SDK からの出力。 `/opt/aws/panorama/logs` からのアプリケーションログを集約します。
- モデル — 推論リクエストをモデルと連携させるプロセスからの出力。
- ストリーム — カメラストリームからのビデオをデコードするプロセスからの出力。
- ディスプレイ — HDMI ポートのビデオ出力をレンダリングするプロセスからの出力。
- mds — アプライアンスメタデータサーバーからのログ。
- console_output — 標準出力ストリームとエラーストリームをコードコンテナからキャプチャします。

CloudWatch Logs にログが表示されない場合は、正しい AWS リージョンにあることを確認します。その場合、アプライアンスの AWS への接続または [アプライアンスの AWS Identity and Access Management \(IAM\) ロール](#) に対するアクセス許可に問題がある可能性があります。

アプリケーションログの設定をする

`/opt/aws/panorama/logs` にログファイルを書き込むための Python ロガーを設定します。アプライアンスはこの場所から CloudWatch Logs にログをストリーミングします。ディスク容量を過剰に使用しないようにするには、最大ファイルサイズを 10 MiB、バックアップ数を 1 にします。次の例は、ロガーを作成する方法を示しています。

Example [application.py](#) — ログ設定

```
def get_logger(name=__name__, level=logging.INFO):
    logger = logging.getLogger(name)
    logger.setLevel(level)
    LOG_PATH = '/opt/aws/panorama/logs'
    handler = RotatingFileHandler("{} /app.log".format(LOG_PATH), maxBytes=10000000,
    backupCount=1)
    formatter = logging.Formatter(fmt='%(asctime)s %(levelname)-8s %(message)s',
    datefmt='%Y-%m-%d %H:%M:%S')
    handler.setFormatter(formatter)
    logger.addHandler(handler)
    return logger
```

ログをグローバルスコープで初期化し、アプリケーションコード全体で使します。

Example [application.py](#) — ログを初期化します

```
def main():
    try:
        logger.info("INITIALIZING APPLICATION")
        app = Application()
        logger.info("PROCESSING STREAMS")
        while True:
            app.process_streams()
            # turn off debug logging after 150 loops
            if logger.getEffectiveLevel() == logging.DEBUG and app.frame_num == 150:
                logger.setLevel(logging.INFO)
    except:
        logger.exception('Exception during processing loop.')

logger = get_logger(level=logging.INFO)
main()
```

プロビジョニングログの表示

プロビジョニング中、AWS Panorama アプライアンスは設定アーカイブをアプライアンスに転送するために使用する USB ドライブにログをコピーします。これらのログを使用して、最新のソフトウェアバージョンのアプライアンスのプロビジョニングに関する問題のトラブルシューティングを行います。

⚠ Important

プロビジョニングログは、ソフトウェアバージョン 4.3.23 以降に更新されたアプライアンスで使用できます。

アプリケーションログ

- /panorama/occ.log — AWS Panorama コントローラーのソフトウェアログ。
- /panorama/ota_agent.log — AWS Panorama 無線通信経由 (OTA) 更新エージェントのログ。
- /panorama/syslog.log — Linux システムログ。
- /panorama/kern.log — Linux カーネルログ。

デバイスからのログ出力

デバイスとアプリケーションのログが CloudWatch Logs に表示されない場合は、USB ドライブを使用して暗号化されたログイメージをデバイスから取得できます。AWS Panorama サービスチームが代わりにログを復号し、デバッグを支援します。

前提条件

手順を実行するには、次のハードウェアが必要になります：

- USB ドライブ — AWS Panorama アプライアンスからログファイルを転送するための、少なくとも 1 GB のストレージを備えた FAT32 形式の USB フラッシュメモリドライブ。

デバイスからログを出力する

1. panorama フォルダー内にある managed_logs フォルダーが入った USB ドライブを用意します。

```
/  
### panorama  
### managed_logs
```

2. USB ドライブをデバイスに接続します。
3. AWS Panorama アプライアンスの [電源を切ります](#)。

4. AWS Panorama アプライアンスの電源を入れます。
5. デバイスがログをデバイスにコピーします。この処理中は、ステータス LED が [青色に点滅](#) します。
6. その後、ログファイルは managed_logs ディレクトリ内に `panorama_device_log_v1_dd_hh_mm.img` フォーマットで見つけることができます

ログイメージを自分で復号化することはできません。カスタマーサポート、AWS Panorama のテクニカルアカウントマネージャー、またはソリューションアーキテクトと協力してサービスチームとの調整を行ってください。

Amazon CloudWatch によるアプライアンスとアプリケーションのモニタリング

アプライアンスをオンラインにすると、AWS Panorama はメトリクスを Amazon CloudWatch に送信します。CloudWatch コンソールでこれらのメトリクスを使ってグラフやダッシュボードを構築してアプライアンスのアクティビティをモニタリングし、デバイスがオフラインになったり、アプリケーションにエラーが発生したときに通知するアラームを設定することができます。

CloudWatch コンソールでメトリクスを表示する

1. [AWS Panorama コンソールのメトリクスページ](#) (PanoramaDeviceMetrics 名前空間) を開きます。
2. デイメンションスキーマを選択します。
3. メトリクスを選択してグラフに追加します。
4. 別の統計を選択してグラフをカスタマイズするには、グラフ化されたメトリクス タブのオプションを使用します。デフォルトでは、グラフはすべてのメトリクスで Average 統計を使用します。

料金

CloudWatch では、無期限の無料利用枠をご利用いただけます。無料利用枠の限度を超えた場合、メトリクス、ダッシュボード、アラーム、ログ、インサイトに対する CloudWatch 料金が発生します。詳細については、[CloudWatch 料金表](#)を参照してください。

CloudWatch の詳細については、「[Amazon CloudWatch ユーザーガイド](#)」を参照してください。

セクション

- [デバイスマトリクスを使用する](#)
- [アプリケーションメトリクスを使用する](#)
- [アラームの設定](#)

デバイスメトリクスを使用する

アプリケーションがオンラインになると、メトリクスを Amazon CloudWatch に送信します。これらのメトリクスを使用してデバイスのアクティビティをモニタリングし、デバイスがオフラインになった場合にアラームをトリガーすることができます。

- DeviceActive— デバイスがアクティブになると定期的に送信されます。

寸法 — DeviceId と DeviceName。

DeviceActive メトリクスと共に Average 統計を表示します。

アプリケーションメトリクスを使用する

アプリケーションでエラーが発生すると、メトリクスを Amazon CloudWatch に送信します。これらのメトリクスを使用して、アプリケーションが実行を停止した場合にアラームをトリガーできます。

- ApplicationErrors — 記録されたアプリケーションエラーの数。

寸法 — ApplicationInstanceName と ApplicationInstanceId。

Sum 統計と共に、アプリケーションメトリクスを表示します。

アラームの設定

メトリクスがしきい値を超えたときに通知を受け取るには、アラームを作成します。例えば、ApplicationErrors メトリクスの合計が1の状態が20分間継続した場合に通知を送信するアラームを作成できます。

アラームを作成する

1. [Amazon CloudWatch コンソールのアラームページ](#)を開きます。
2. アラームの作成 を選択します。
3. メトリクスの選択を選択し、applicationInstance-gk75xmplqbqtenlnmz4ehiu7xaやmy-applicationの ApplicationErrors のようなデバイスのメトリクスを探します。
4. 手順に従って、アラームの条件、アクション、名前を設定します。

詳細な手順については、Amazon CloudWatch ユーザーガイドの、[Amazon CloudWatch アラームを作成する](#)を参照してください。

トラブルシューティング

以下のトピックでは、AWS Panorama コンソール、アプライアンス、または SDK の使用時に発生する可能性のあるエラーや問題のトラブルシューティングに関するアドバイスを提供します。ここに記載されていない問題が見つかった場合は、このページの [フィードバックを提供する] ボタンを使用して報告することができます。

アプライアンスのログは [Amazon CloudWatch Logs コンソール](#) で確認できます。アプライアンスは、アプリケーションコード、アプライアンスソフトウェア、AWS IoT プロセスのログの生成時にアップロードします。詳細については、「[AWS Panorama ログを表示する](#)」を参照してください。

プロビジョニング

問題: (macOS) 付属の USB ドライブ (USB-C アダプター付き) をコンピューターが認識しません。

これは、既にコンピューターに接続されている USB-C アダプターに USB ドライブを接続した場合に発生することがあります。アダプターを取り外し、既に接続されている USB ドライブに再接続してみてください。

問題: 自分の USB ドライブを使用するとプロビジョニングに失敗します。

問題: アプライアンスの USB 2.0 ポートを使用するとプロビジョニングが失敗します。

AWS Panorama アプライアンスは 1~32 GB の USB フラッシュメモリデバイスと互換性がありますが、すべてに互換性があるわけではありません。USB 2.0 ポートをプロビジョニングに使用すると問題が発生しています。一貫した結果を得るには、付属の USB 3.0 ポート (HDMI ポートの隣) の USB ドライブを使用してください。

レノボ ThinkEdge® SE70 の場合、USB ドライブはアプライアンスに含まれていません。1 GB 以上のストレージを備えた USB 3.0 ドライブを使用してください。

アプライアンスの構成

問題: アプライアンスの起動中に空白の画面が表示されます。

約 1 分かかる初期起動シーケンスを完了すると、アプライアンスはモデルをロードしてアプリケーションを起動する間、1 分以上にわたって空白の画面を表示します。また、ディスプレイがオンになった後にディスプレイを接続しても、アプライアンスはビデオを出力しません。

問題: 電源ボタンを長押しして電源を切っても、アプライアンスが反応しません。

アプライアンスを安全にシャットダウンするには最大 10 秒かかります。電源ボタンを 1 秒間押し続けるだけで、シャットダウンシーケンスを開始できます。ボタン操作の詳細なリストについては、[AWS Panorama アプライアンスのボタンとライト](#) を参照してください。

問題: 構成を変更したり、紛失した証明書を交換したりするために、新しい構成アーカイブを生成する必要があります。

AWS Panorama は、ダウンロード後にデバイス証明書またはネットワーク設定を保存せず、設定アーカイブを再使用することはできません。AWS Panorama コンソールを使用してアプライアンスを削除し、新しい設定アーカイブを使用して新しいアプライアンスを作成します。

アプリケーションの構成

問題: 複数のアプリケーションを実行すると、HDMI 出力を使用するアプリケーションを制御できません。

出力ノードを持つ複数のアプリケーションをデプロイすると、最後に起動したアプリケーションが HDMI 出力を使用します。このアプリケーションが実行を停止すると、別のアプリケーションが出力を使用することができます。1 つのアプリケーションだけが出力にアクセスできるようにするには、出力ノードと対応するエッジを他のアプリケーションの[アプリケーションマニフェスト](#)から削除し、再デプロイします。

問題: アプリケーションの出力がログに表示されません

`/opt/aws/panorama/logs` にログファイルを書き込むための [Python ログを設定します](#)。これらはコードコンテナノードのログストリームにキャプチャされます。標準出力ストリームとエラーストリームは、`console-output` という別のログストリームにキャプチャされます。`print` を使用する場合は、`flush=True` オプションを使用してメッセージが出力バッファに滞留しないようにします。

エラー: You've reached the maximum number of versions for package SAMPLE_CODE. Deregister unused package versions and try again.

ソース: AWS Panorama サービス

アプリケーションに変更をデプロイするたびに、そのアプリケーションが使用する各パッケージのパッケージ構成とアセットファイルを表すパッチバージョンを登録します。[クリーンアップパッチスクリプト](#)を使用して、未使用のパッチバージョンを登録解除します。

カメラストリーム

エラー: liveMedia0: Failed to get SDP description: Connection to server failed: Connection timed out (-115)

エラー: liveMedia0: Failed to get SDP description: 404 Not Found; with the result code: 404

エラー: liveMedia0: Failed to get SDP description: DESCRIBE send() failed: Broken pipe; with the result code: -32

ソース: カメラノードログ

アプリケーションはアプリケーションのカメラストリームに接続できません。この場合、アプリケーションが AWS Panorama Application SDK からのビデオフレームを待機している間、ビデオ出力は空白になるか、最後に処理されたフレームでフリーズします。アプリケーションソフトウェアはカメラストリームへの接続を試み、カメラノードログにタイムアウトエラーを記録します。カメラストリーム URL が正しく、RTSP トラフィックがネットワーク内のカメラとアプリケーション間でルーティング可能であることを確認します。詳細については、「[AWS Panorama アプリケーションをネットワークに接続します](#)」を参照してください。

エラー: ERROR finalizeInterface(35) Camera credential fetching for port [username] failed

ソース: OCC ログ

カメラストリームの認証情報を持つ AWS Secrets Manager シークレットが見つかりません。カメラストリームを削除して再作成してください。

エラー: Camera did not provide an H264 encoded stream

ソース: カメラノードログ

カメラストリームのエンコーディングは H.264 以外 (H.265 など) です。H.264 カメラストリームを使用してアプリケーションを再デプロイします。サポートされているカメラの詳細については、「[サポート対象カメラ](#)」を参照してください。

AWS Panorama セキュリティ

のクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。AWS のお客様は、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャからメリットを得られます。

セキュリティは、AWS とお客様の間で共有される責任です。[責任共有モデル](#)では、この責任がクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティとして説明されています。

- クラウドのセキュリティ — AWS クラウドで AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する AWS 責任があります。AWS また、は、お客様が安全に使用できるサービスも提供します。[「AWS」コンプライアンスプログラム](#)の一環として、サードパーティーの監査が定期的にセキュリティの有効性をテストおよび検証しています。AWS Panorama に適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については、[「コンプライアンスプログラムによる対象範囲内のAWS サービス」](#)を参照してください。
- クラウド内のセキュリティ - ユーザーの責任は、使用する「AWS」のサービスに応じて異なります。また、ユーザーは、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

このドキュメントは、AWS Panorama を使用する際に責任共有モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます。次のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的達成のための AWS Panorama の設定方法を示します。また、AWS Panorama リソースのモニタリングや保護に役立つ他の AWS のサービスの使用方法についても説明します。

トピック

- [AWS Panorama アプライアンスのセキュリティ機能](#)
- [AWS Panorama アプライアンスセキュリティのベストプラクティス](#)
- [AWS Panorama でのデータ保護](#)
- [AWS Panorama のアイデンティティとアクセス管理](#)
- [AWS Panorama のコンプライアンス検証](#)
- [AWS Panorama のインフラストラクチャセキュリティ](#)
- [AWS Panorama ランタイム環境ソフトウェア](#)

AWS Panorama アプライアンスのセキュリティ機能

[アプリケーション、モデル](#)、ハードウェアを悪意のあるコードやその他の悪用から保護するために、AWS Panorama アプライアンスには広範なセキュリティ機能が実装されています。以下の理由がありますが、これらに限定されるものではありません。

- **フルディスク暗号化** — アプライアンスにはLinux 統合キーセットアップ (LUKS2) のフルディスク暗号化が実装されています。すべてのシステムソフトウェアとアプリケーションデータは、デバイス固有のキーで暗号化されます。デバイスに物理的にアクセスしても、攻撃者はストレージの内容を検査することはできません。
- **メモリアウトのランダム化** — メモリにロードされた実行コードを標的とする攻撃から保護するために、AWS Panorama アプライアンスはアドレス空間レイアウトのランダム化 (ASLR) を使用しています。ASLR は、オペレーティングシステムコードがメモリに読み込まれるときに、その位置をランダム化します。これにより、ランタイム中にコードの保存場所を予測することで、コードの特定のセクションを上書きしたり実行したりする悪用を防ぐことができます。
- **信頼できる実行環境** — アプライアンスは、独立したストレージ、メモリ、および処理リソースを備えた ARM TrustZone に基づく信頼できる実行環境 (TEE) を使用します。トラストゾーンに保存されている鍵やその他の機密データには、TEE 内の別のオペレーティングシステムで動作する信頼できるアプリケーションのみがアクセスできます。AWS Panorama アプライアンスソフトウェアは、アプリケーションコードとともに信頼できない Linux 環境で実行されます。暗号化操作にアクセスできるのは、安全なアプリケーションにリクエストを行う場合のみです。
- **安全なプロビジョニング** — アプライアンスをプロビジョニングする場合、デバイスに転送する認証情報 (鍵、証明書、その他の暗号資料) は短期間しか有効になりません。アプライアンスは、有効期間の短い認証情報を使用してに接続 AWS IoT し、より長い期間有効な証明書を自身にリクエストします。AWS Panorama サービスは認証情報を生成し、デバイスにハードコーディングされたキーで暗号化します。証明書をリクエストしたデバイスのみが、証明書を復号化して AWS Panorama と通信できます。
- **セキュアブート** — デバイスの起動時に、各ソフトウェアコンポーネントは実行前に認証されます。ブート ROM は、プロセッサにハードコーディングされた変更不可能なソフトウェアで、ハードコードされた暗号化キーを使用してブートローダーを復号化し、信頼できる実行環境のカーネルなどを検証します。
- **署名付きカーネル** — カーネルモジュールは非対称暗号鍵で署名されます。オペレーティングシステムカーネルは、モジュールをメモリにロードする前に、公開鍵を使用して署名を復号化し、モジュールの署名と一致することを確認します。

- dm-verity — カーネルモジュールの検証と同様に、アプライアンスは Linux デバイスマッパー dm-verity の機能を使用して、アプライアンスのソフトウェアイメージをマウントする前にその整合性を検証します。アプライアンスソフトウェアが変更されると、動作しなくなります。
- ロールバック防止 — アプライアンスソフトウェアを更新すると、アプライアンスは SoC (システムオンチップ) の電子ヒューズを切断します。各ソフトウェアバージョンでは、切れるヒューズの数が増えることが予想され、ヒューズがさらに切れると動作しなくなります。

AWS Panorama アプライアンスセキュリティのベストプラクティス

AWS Panorama アプライアンスを使用するときは、次の点に注意してください。

- アプライアンスを物理的に保護する — アプライアンスは密閉されたサーバーラックまたは安全な部屋に設置してください。デバイスへの物理的なアクセスは、権限のある担当者限定してください。
- アプライアンスのネットワーク接続を保護する — 内部リソースと外部リソースへのアクセスを制限するルーターにアプライアンスを接続します。アプライアンスは、安全な内部ネットワーク上にあるカメラに接続する必要があります。また、AWSに接続する必要があります。2つ目のイーサネットポートは物理的な冗長性のためだけに使用し、必要なトラフィックのみを許可するようにルーターを構成します。

推奨ネットワーク構成のいずれかを使用して、ネットワークレイアウトを計画してください。詳細については、「[AWS Panorama アプライアンスをネットワークに接続します](#)」を参照してください。

- USB ドライブのフォーマット — アプライアンスをプロビジョニングしたら、USB ドライブを取り外してフォーマットします。アプライアンスは AWS Panorama サービスに登録した後は USB ドライブを使用しません。一時的な認証情報、構成ファイル、プロビジョニングログを削除するようにドライブをフォーマットします。
- アプライアンスを最新の状態に保つ — アプライアンスのソフトウェアアップデートを適時に適用してください。AWS Panorama コンソールでアプライアンスを表示すると、ソフトウェアアップデートが利用可能な場合コンソールから通知されます。詳細については、「[AWS Panorama アプライアンスの管理](#)」を参照してください。

デバイスを説明 API オペレーションでは、LatestSoftwareおよびCurrentSoftware フィールドを比較することで更新の確認を自動化できます。最新のソフトウェアバージョンが現在のバージョンと異なる場合は、コンソールまたは [デバイスのためにジョブを作成](#) オペレーションを使用してアップデートを適用します。

- アプライアンスの使用をやめた場合は、リセットしてください — アプライアンスを安全なデータセンターから移動する前に、アプライアンスを完全にリセットしてください。アプライアンスの電源を切り、電源を接続した状態で、電源ボタンとリセットボタンを同時に5秒間押します。これにより、アカウント認証情報、アプリケーション、およびログがアプライアンスから削除されます。

詳細については、「[AWS Panorama アプライアンスのボタンとライト](#)」を参照してください。

- AWS Panorama やその他のサービスへのアクセスを制限する — [AWSPanoramaFullAccess](#) を使用すると、すべての AWS Panorama API オペレーションにアクセスできるほか、必要に応じて他のサービスにもアクセスできます。このポリシーは、可能な限り、命名規則に基づいてリソースへのアクセスを制限します。例えば、 で始まる名前を持つ AWS Secrets Manager シークレットへのアクセスを提供しますpanorama。読み取り専用アクセス権が必要なユーザーや、より具体的なリソースセットへのアクセスを必要とするユーザーには、最小特権ポリシーを起点として管理ポリシーを使用してください。

詳細については、「[AWS Panorama のアイデンティティベースの IAM ポリシー](#)」を参照してください。

AWS Panorama でのデータ保護

責任 AWS [共有モデル](#)、AWS Panorama でのデータ保護に適用されます。このモデルで説明されているように、AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する「AWS のサービス」のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、[データプライバシーに関するよくある質問](#)を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された [AWS 責任共有モデルおよび GDPR](#) のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント、AWS IAM アイデンティティセンターまたは AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の [CloudTrail 証跡の使用](#) を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、その中のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「[連邦情報処理規格 \(FIPS\) 140-3](#)」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、または SDK を使用して AWS Panorama AWS CLI または他の AWS のサービス を使用する場合も同様です。AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

セクション

- [転送中の暗号化](#)
- [AWS Panorama アプライアンス](#)
- [アプリケーション](#)
- [その他のサービス](#)

転送中の暗号化

AWS Panorama API エンドポイントでは、HTTPS 経由の安全な接続のみがサポートされます。AWS Panorama リソースを AWS マネジメントコンソール、AWS SDK、または AWS Panorama API を使用して管理する場合、すべての通信は Transport Layer Security (TLS) で暗号化されます。AWS Panorama アプライアンスと AWS 間の通信も TLS で暗号化されます。RTSP 上の AWS Panorama アプライアンスとカメラ間の通信は暗号化されません。

API エンドポイントの詳細なリストについては、AWS 全般のリファレンスの「[のリージョンとエンドポイント](#)」を参照してください。

AWS Panorama アプライアンス

AWS Panorama アプライアンスには、イーサネット、HDMI ビデオ、USB ストレージ用の物理ポートがあります。SD カードスロット、Wi-Fi、Bluetooth は使用できません。USB ポートは、プロビジョニング中に構成アーカイブをアプライアンスに転送するためにのみ使用されます。

アプライアンスのプロビジョニング証明書とネットワーク構成を含む構成アーカイブの内容は暗号化されません。AWS Panorama はこれらのファイルを保存しません。アプライアンスを登録したときにのみ取得できます。構成アーカイブをアプライアンスに転送したら、コンピュータと USB ストレージデバイスから削除します。

アプライアンスのファイルシステム全体が暗号化されます。さらに、アプライアンスは必要なソフトウェアアップデートのロールバック保護、署名付きカーネルとブートローダー、ソフトウェア整合性検証など、システムレベルの保護をいくつか適用します。

アプライアンスの使用を停止したら、[フルリセット](#)を実行してアプリケーションデータを削除し、アプライアンスソフトウェアをリセットします。

アプリケーション

アプライアンスにデプロイするコードを制御できます。ソースに関係なく、デプロイする前にすべてのアプリケーションコードにセキュリティ上の問題がないか検証してください。アプリケーションで

サードパーティのライブラリを使用する場合は、そのライブラリのライセンスポリシーとサポートポリシーを慎重に検討してください。

アプリケーションの CPU、メモリ、およびディスク使用量は、アプライアンスソフトウェアによる制約を受けません。アプリケーションがリソースを大量に使用すると、他のアプリケーションやデバイスの動作に悪影響を及ぼす可能性があります。アプリケーションは、組み合わせたり、実稼働環境にデプロイしたりする前に個別にテストしてください。

アプリケーション資産 (コードとモデル) は、アカウント、アプライアンス、またはビルド環境内のアクセスから切り離されているわけではありません。AWS Panorama アプリケーション CLI によって生成されたコンテナイメージとモデルアーカイブは暗号化されません。本番環境のワークロードには別のアカウントを使用し、アクセスは必要な場合にのみ許可してください。

その他のサービス

モデルとアプリケーションコンテナを Amazon S3 に安全に保存するために、AWS Panorama は Amazon S3 が管理するキーによるサーバー側の暗号化を使用しています。詳細については、「Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド」の [「暗号化を使用したデータの保護」](#) を参照してください。

カメラストリームの認証情報は、保管時に暗号化されます AWS Secrets Manager。アプライアンスの IAM ロールは、ストリームのユーザー名とパスワードにアクセスするためのシークレットを取得する権限を付与します。

AWS Panorama アプライアンスはログデータを Amazon CloudWatch Logs に送信します。CloudWatch Logs は、デフォルトでこのデータを暗号化し、カスタマーマネージドキーを使用するように構成できます。詳しくは、Amazon CloudWatch Logs ユーザーガイドの [AWS KMSを使用して CloudWatch Logs のログデータを暗号化する](#) を参照してください。

AWS Panorama のアイデンティティとアクセス管理

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つです。IAM 管理者は、AWS Panorama リソースの使用を 認証 (サインイン) し、認可 (アクセス権限を持つ) できるユーザーを制御します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

トピック

- [オーディエンス](#)
- [アイデンティティを使用した認証](#)
- [ポリシーを使用したアクセスの管理](#)
- [AWS Panorama が IAM と連携する仕組み](#)
- [AWS Panorama のアイデンティティベースのポリシーの例](#)
- [AWS Panorama の マネージドポリシー](#)
- [のサービスにリンクされたロールの使用 AWS Panorama](#)
- [サービス間の混乱した代理の防止](#)
- [AWS Panorama アイデンティティとアクセスのトラブルシューティング](#)

オーディエンス

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、ロールによって異なります。

- サービスユーザー - 機能にアクセスできない場合は、管理者にアクセス許可をリクエストします (「[AWS Panorama アイデンティティとアクセスのトラブルシューティング](#)」を参照)。
- サービス管理者 - ユーザーアクセスを決定し、アクセス許可リクエストを送信します (「[AWS Panorama が IAM と連携する仕組み](#)」を参照)
- IAM 管理者 - アクセスを管理するためのポリシーを作成します (「[AWS Panorama のアイデンティティベースのポリシーの例](#)」を参照)

アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。、IAM ユーザー AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることで認証される必要があります。

AWS IAM アイデンティティセンター (IAM Identity Center)、シングルサインオン認証、Google/Facebook 認証情報などの ID ソースからの認証情報を使用して、フェデレーテッド ID としてサインインできます。サインインの詳細については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「[AWS アカウントにサインインする方法](#)」を参照してください。

プログラムによるアクセスの場合、は SDK と CLI AWS を提供してリクエストを暗号化して署名します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[API リクエストに対するAWS 署名バージョン 4](#)」を参照してください。

AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント root ユーザーと呼ばれる 1 つのサインインアイデンティティから始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

[IAM ユーザー](#)は、特定の個人やアプリケーションに対する特定のアクセス許可を持つアイデンティティです。長期認証情報を持つ IAM ユーザーの代わりに一時的な認証情報を使用することをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してアクセスする必要がある AWS](#)」を参照してください。

[IAM グループ](#)は、IAM ユーザーの集合を指定し、大量のユーザーに対するアクセス許可の管理を容易にします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ユーザーに関するユースケース](#)」を参照してください。

IAM ロール

[IAM ロール](#)は、特定のアクセス許可を持つアイデンティティであり、一時的な認証情報を提供します。[ユーザーから IAM ロール \(コンソール\) に切り替えるか、または API オペレーションを呼び出すことで、ロールを引き受けることができます。](#) AWS CLI AWS 詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ロールを引き受けるための各種方法](#)」を参照してください。

IAM ロールは、フェデレーションユーザーアクセス、一時的な IAM ユーザーのアクセス許可、クロスアカウントアクセス、クロスサービスアクセス、および Amazon EC2 で実行するアプリケーションに役立ちます。詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのクロスアカウントリソースアクセス](#) を参照してください。

ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは、アイデンティティまたはリソースに関連付けられたときにアクセス許可を定義します。は、プリンシパルがリクエストを行うときにこれらのポリシー AWS を評価します。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS としてに保存されます。JSON ポリシードキュメントの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[JSON ポリシー概要](#)」を参照してください。

管理者は、ポリシーを使用して、どのプリンシパルがどのリソースに対して、どのような条件でアクションを実行できるかを定義することで、誰が何にアクセスできるかを指定します。

デフォルトでは、ユーザーやロールにアクセス許可はありません。IAM 管理者は IAM ポリシーを作成してロールに追加し、このロールをユーザーが引き受けられるようにします。IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクセス許可を定義します。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーは、アイデンティティ (ユーザー、グループ、またはロール) にアタッチできる JSON アクセス許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、アイデンティティがどのリソースに対してどのような条件下でどのようなアクションを実行できるかを制御します。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、IAM ユーザーガイドの [カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#) を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、インラインポリシー (単一の ID に直接埋め込む) または管理ポリシー (複数の ID にアタッチされたスタンドアロンポリシー) にすることができます。管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。例としては、IAM ロール信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーなどがあります。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。リソースベースのポリシーでは、[プリンシパルを指定する](#) 必要があります。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするためのアクセス許可を持つかを制御します。ACL はリソーススペースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、および Amazon VPC は AWS WAF、ACLs。ACL の詳細については、Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイドの [アクセスコントロールリスト \(ACL\) の概要](#) を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS は、より一般的なポリシータイプによって付与されるアクセス許可の最大数を設定できる追加のポリシータイプをサポートしています。

- アクセス許可の境界 – アイデンティティベースのポリシーで IAM エンティティに付与することのできるアクセス許可の数の上限を設定します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の [IAM エンティティのアクセス許可境界](#) を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCP) - AWS Organizations内の組織または組織単位の最大のアクセス許可を指定します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の [サービスコントロールポリシー](#) を参照してください。
- リソースコントロールポリシー (RCP) – は、アカウント内のリソースで利用できる最大数のアクセス許可を定義します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の [リソースコントロールポリシー \(RCP\)](#) を参照してください。
- セッションポリシー – ロールまたはフェデレーションユーザーの一時セッションを作成する際にパラメータとして渡される高度なポリシーです。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の [セッションポリシー](#) を参照してください。

複数のポリシータイプ

1つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成されるアクセス許可を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の [ポリシー評価ロジック](#) を参照してください。

AWS Panorama が IAM と連携する仕組み

IAM を使用して AWS Panorama へのアクセスを管理する前に、AWS Panorama で使用できる IAM 機能について理解しておく必要があります。AWS Panorama およびその他の AWS のサービスが IAM と連携する方法の概要については、「IAM ユーザーガイド」の[AWS 「IAM と連携するのサービス」](#)を参照してください。

AWS Panorama で使用する、アクセス権限、ポリシー、およびロールの概要については、「[AWS Panorama アクセス許可](#)」を参照してください。

AWS Panorama のアイデンティティベースのポリシーの例

デフォルトでは、IAM ユーザーとロールには AWS Panorama リソースを作成または変更するためのアクセス許可はありません。また、AWS マネジメントコンソール、AWS CLI、または AWS API を使用してタスクを実行することはできません。IAM 管理者は、ユーザーとロールに必要な、指定されたリソースで特定の API オペレーションを実行する権限をユーザーとロールに付与する IAM ポリシーを作成する必要があります。続いて、管理者はそれらの権限が必要な IAM ユーザーまたはグループにそのポリシーをアタッチする必要があります。

これらの JSON ポリシードキュメント例を使用して IAM のアイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、『IAM ユーザーガイド』の「[JSON タブでのポリシーの作成](#)」を参照してください。

トピック

- [ポリシーに関するベストプラクティス](#)
- [AWS Panorama コンソールを使う](#)
- [自分の権限の表示をユーザーに許可する](#)

ポリシーに関するベストプラクティス

ID ベースのポリシーは、ユーザーのアカウントで誰が AWS Panorama リソースを作成、アクセス、または削除できるかどうかを決定します。これらのアクションでは、AWS アカウントに費用が発生する場合があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーを開始し、最小特権のアクセス許可に移行する – ユーザーとワークロードにアクセス許可の付与を開始するには、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与する AWS

管理ポリシーを使用します。これらはで使用できます AWS アカウント。ユースケースに固有の AWS カスタマー管理ポリシーを定義することで、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイドの [AWS マネージドポリシー](#) または [ジョブ機能のAWS マネージドポリシー](#) を参照してください。

- 最小特権を適用する – IAM ポリシーでアクセス許可を設定する場合は、タスクの実行に必要な許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用して許可を適用する方法の詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのポリシーとアクセス許可](#) を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する - ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。たとえば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。条件を使用して、サービスアクションがなどの特定のを通じて使用されている場合に AWS のサービス、サービスアクションへのアクセスを許可することもできます CloudFormation。詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM JSON ポリシー要素:条件](#) を参照してください。
- IAM アクセスアナライザーを使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的な権限を確保する - IAM アクセスアナライザーは、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠するようにします。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機能的なポリシーの作成をサポートします。詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM Access Analyzer でポリシーを検証する](#) を参照してください。
- 多要素認証 (MFA) を要求する – IAM ユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、MFA をオンにしてセキュリティを強化します。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細については、IAM ユーザーガイドの [MFA を使用した安全な API アクセス](#) を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのセキュリティのベストプラクティス](#) を参照してください。

AWS Panorama コンソールを使う

AWS Panorama コンソールにアクセスするには、一連の最小限のアクセス権限が必要です。これらのアクセス許可により、AWS アカウントの AWS Panorama リソースの詳細を一覧表示および表示できます。最小限必要な許可よりも厳しく制限されたアイデンティティベースポリシーを作成すると、そのポリシーを添付したエンティティ (IAM ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

詳細については、[AWS Panorama のアイデンティティベースの IAM ポリシー](#)を参照してください。

自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、ユーザーアイデンティティにアタッチされたインラインおよびマネージドポリシーの表示を IAM ユーザーに許可するポリシーの作成方法を示します。このポリシーには、コンソールで、または AWS CLI または AWS API を使用してプログラムでこのアクションを実行するアクセス許可が含まれています。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ViewOwnUserInfo",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:GetUserPolicy",
        "iam:ListGroupsForUser",
        "iam:ListAttachedUserPolicies",
        "iam:ListUserPolicies",
        "iam:GetUser"
      ],
      "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
    },
    {
      "Sid": "NavigateInConsole",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:GetGroupPolicy",
        "iam:GetPolicyVersion",
        "iam:GetPolicy",
        "iam:ListAttachedGroupPolicies",
        "iam:ListGroupPolicies",
        "iam:ListPolicyVersions",
        "iam:ListPolicies",
        "iam:ListUsers"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS AWS Panorama の マネージドポリシー

AWS 管理ポリシーは、によって作成および管理されるスタンドアロンポリシーです AWS。AWS 管理ポリシーは、多くの一般的なユースケースに対するアクセス許可を付与するように設計されているため、ユーザー、グループ、ロールへのアクセス許可の割り当てを開始できます。

AWS 管理ポリシーは、すべての AWS お客様が使用できるため、特定のユースケースに対して最小特権のアクセス許可を付与しない場合があることに注意してください。ユースケースに固有の [カスタマー管理ポリシー](#) を定義して、アクセス許可を絞り込むことをお勧めします。

AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可は変更できません。が AWS 管理ポリシーで定義されたアクセス許可 AWS を更新すると、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパル ID (ユーザー、グループ、ロール) が更新されます。AWS は、新しい が起動されるか、新しい API オペレーション AWS のサービス が既存のサービスで使用できるようになったときに、AWS 管理ポリシーを更新する可能性が最も高くなります。

詳細については「IAM ユーザーガイド」の「[AWS マネージドポリシー](#)」を参照してください。

AWS Panorama は、次のマネージドポリシーを提供されます。各ポリシーの全内容と変更履歴については、IAM コンソールのリンク先ページを参照してください。

- [AWSPanoramaFullAccess](#) – AWS Panorama、Amazon S3 の AWS Panorama アクセスポイント、 のアプライアンス認証情報 AWS Secrets Manager、Amazon CloudWatch のアプライアンスログへのフルアクセスを提供します。AWS Panorama の [サービスにリンクされたロール](#) を作成する権限が含まれます。
- [AWSPanoramaServiceLinkedRolePolicy](#) — AWS Panorama が AWS IoT、AWS Secrets Manager、および AWS Panorama のリソースを管理できるようにします。
- [AWSPanoramaServiceLinkedRolePolicy](#) — AWS Panorama アプライアンスが CloudWatch にログをアップロードし、AWS Panorama によって作成された Amazon S3 Access Points からオブジェクトを取得することを許可します。

AWS Panorama による AWS マネージドポリシーの更新

次の表は、AWS Panorama のマネージドポリシーを更新したものです。

変更	説明	日付
AWSPanoramaApplianceServiceRolePolicy – 既存のポリシーの更新	ARN を書き込むために、StringLike 条件を ArnLike に置き換えます。ARNs	2024-12-10
AWSPanoramaFullAccess – 既存のポリシーへの更新	ARN を書き込むために、StringLike 条件を ArnLike に置き換えます。ARNs	2024-12-10
AWSPanoramaFullAccess – 既存のポリシーへの更新	ユーザーが CloudWatch Logs コンソールでロググループを表示できるようにするアクセス許可をユーザーポリシーに追加しました。	2022-01-13
AWSPanoramaFullAccess – 既存のポリシーへの更新	ユーザーポリシーにアクセス許可を追加して、ユーザーが AWS Panorama サービスにリンクされたロール を管理し、IAM、Amazon S3、CloudWatch、Secrets Manager などの他のサービスの AWS Panorama リソースにアクセスできるようにしました。	2021-10-20
AWSPanoramaApplianceServiceRolePolicy – 新しいポリシー	AWS Panorama アプライアンスサービスロールの新しいポリシー	2021-10-20
AWSPanoramaServiceLinkedRolePolicy – 新しいポリシー	AWS Panorama サービスロールの新しいポリシー	2021-10-20
AWS Panorama が変更の追跡を開始	AWS Panorama が AWS マネージドポリシーの変更の追跡を開始しました。	2021-10-20

のサービスにリンクされたロールの使用 AWS Panorama

AWS Panorama は AWS Identity and Access Management (IAM) [サービスにリンクされたロール](#)を使用します。サービスにリンクされたロールは、直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールで AWS Panorama。サービスにリンクされたロールは、[IAM ロール](#)によって事前定義 AWS Panorama されており、ユーザーに代わってサービスから他の AWS のサービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用すると、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、[IAM ロール](#)の設定 AWS Panorama が簡単になります。は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Panorama を定義し、特に定義されている場合を除き、[IAM ロール](#)のみがそのロールを引き受け AWS Panorama することができます。定義される許可は信頼ポリシーと許可ポリシーに含まれており、その許可ポリシーを他の IAM エンティティにアタッチすることはできません。

サービスリンクロールを削除するには、まずその関連リソースを削除します。これにより、リソースへの意図しないアクセスによるアクセス許可の削除が防止され、AWS Panorama リソースは保護されます。

サービスにリンクされたロールをサポートする他のサービスについては、「[IAM と連動するAWS サービス](#)」を参照し、[Service-linked roles] (サービスにリンクされたロール) の列内で [Yes] (はい) と表記されたサービスを確認してください。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、はいリンクを選択します。

セクション

- [のサービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Panorama](#)
- [のサービスにリンクされたロールの作成 AWS Panorama](#)
- [のサービスにリンクされたロールの編集 AWS Panorama](#)
- [のサービスにリンクされたロールの削除 AWS Panorama](#)
- [AWS Panorama サービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン](#)

のサービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Panorama

AWS Panorama は、AWSServiceRoleForAWSPanorama という名前のサービスにリンクされたロールを使用します。これにより、AWS Panorama は AWS IoT、AWS Secrets Manager、および AWS Panorama のリソースを管理できます。

サービスにリンクされたロール AWSServiceRoleForAWSPanorama は、次のサービスを信頼してロールを引き受けます。

- `panorama.amazonaws.com`

ロールのアクセス許可ポリシーにより AWS Panorama、 は次のアクションを実行できます。

- AWS Panorama リソースのモニタリング
- AWS Panorama アプライアンスの AWS IoT リソースを管理する
- AWS Secrets Manager シークレットにアクセスしてカメラの認証情報を取得する

権限の完全なリストについては、IAM コンソールで [AWSPanoramaServiceLinkedRolePolicy](#) をご覧ください。

サービスリンク役割の作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、役割など) に許可するにはアクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM User Guide」(IAM ユーザーガイド) の「[Service-linked role permissions](#)」(サービスにリンクされたロールのアクセス権限) を参照してください。

のサービスにリンクされたロールの作成 AWS Panorama

サービスにリンクされたロールを手動で作成する必要はありません。アプライアンスを AWS マネジメントコンソール、AWS CLI または AWS API に登録すると、によってサービスにリンクされたロール AWS Panorama が作成されます。

このサービスリンク役割を削除した後で再度作成する必要がある場合は同じ方法でアカウントに役割を再作成できます。アプライアンスを登録すると、によってサービスにリンクされたロールが再度 AWS Panorama 作成されます。

のサービスにリンクされたロールの編集 AWS Panorama

AWS Panorama では、AWSServiceRoleForAWSPanorama サービスにリンクされたロールを編集することはできません。サービスにリンクされた役割を作成すると、多くのエンティティによって役割が参照される可能性があるため、役割名を変更することはできません。ただし、IAM を使用した役割の説明の編集はできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの編集」を参照してください。

のサービスにリンクされたロールの削除 AWS Panorama

サービスリンク役割が必要な機能またはサービスが不要になった場合にはその役割を削除することをお勧めします。そうすることで、積極的にモニタリングまたは保守されていない未使用のエンティ

ティを排除できます。ただし、手動で削除する前に、サービスリンクロールのリソースをクリーンアップする必要があります。

AWSServiceRoleForAWSPanorama が使用する AWS Panorama リソースを削除するには、このガイドの以下のセクションの手順を使用します。

- [バージョンとアプリケーションを削除します。](#)
- [アプライアンスの登録解除](#)

Note

リソースを削除しようとしたときに AWS Panorama サービスがロールを使用している場合、削除が失敗する可能性があります。失敗した場合は数分待ってから操作を再試行してください。

AWSServiceRoleForAWSPanorama サービスにリンクされたロールを削除するには、IAM コンソール、AWS CLI または AWS API を使用します。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[サービスにリンクされたロールの削除](#)」を参照してください。

AWS Panorama サービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン

AWS Panorama は、サービスが利用可能なすべてのリージョンで、サービスにリンクされたロールの使用をサポートします。詳細については、「[AWS リージョンとエンドポイント](#)」を参照してください。

サービス間の混乱した代理の防止

混乱した代理問題は、アクションを実行するためのアクセス許可を持たないエンティティが、より特権のあるエンティティにアクションの実行を強制できてしまう場合に生じる、セキュリティ上の問題です。では AWS、サービス間のなりすましにより、混乱した代理問題が発生する可能性があります。サービス間でのなりすましは、1つのサービス (呼び出し元サービス) が、別のサービス (呼び出し対象サービス) を呼び出すときに発生する可能性があります。呼び出し元サービスは、本来ならアクセスすることが許可されるべきではない方法でその許可を使用して、別のお客様のリソースに対する処理を実行するように操作される場合があります。これを防ぐために、は、アカウント内のリソースへのアクセス権が付与されたサービスプリンシパルを使用して、すべてのサービスのデータを保護するのに役立つツール AWS を提供します。

リソースポリシーで [aws:SourceArn](#) および [aws:SourceAccount](#) グローバル条件コンテキストキーを使用して、別のサービス AWS Panorama に付与するアクセス許可をリソースに制限することをお勧めします。両方のグローバル条件コンテキストキーを同じポリシーステートメントで使用する場合は、aws:SourceAccount 値と、aws:SourceArn 値に含まれるアカウントが、同じアカウント ID を示している必要があります。

の値は、AWS Panorama デバイスの ARN `aws:SourceArn` である必要があります。

混乱した代理問題から保護するための最も効果的な方法は、リソースの完全な ARN を指定して `aws:SourceArn` グローバル条件コンテキストキーを使用することです。リソースの完全な ARN が不明な場合や、複数のリソースを指定する場合は、`aws:SourceArn` グローバルコンテキスト条件キーを使用して、ARN の未知部分をワイルドカード (*) で表します。例えば、`arn:aws:service::123456789012:*` と指定します。

AWS Panorama が AWS Panorama アプライアンスにアクセス許可を付与するために使用するサービスロールを保護する手順については、「」を参照してください [アプライアンスロールの保護](#)。

AWS Panorama アイデンティティとアクセスのトラブルシューティング

次の情報は、AWS Panorama と IAM の使用に伴って発生する可能性がある一般的な問題の診断や修復に役立ちます。

トピック

- [AWS Panorama でアクションを実行する権限がない](#)
- [iam:PassRole を実行することが認可されていません。](#)
- [AWS 自分のアカウント以外のユーザーに AWS Panorama リソースへのアクセスを許可したい](#)

AWS Panorama でアクションを実行する権限がない

にアクションを実行する権限がないと AWS マネジメントコンソール 通知された場合は、管理者に連絡してサポートを依頼する必要があります。担当の管理者はお客様のユーザー名とパスワードを発行した人です。

次のエラー例は、`mateojackson` IAM ユーザーがコンソールを使用してアプライアンスの詳細を表示する際に、`panorama:DescribeAppliance` アクセス権を持っていない場合に発生します。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
panorama:DescribeAppliance on resource: my-appliance
```

この場合、Mateo は、`panorama:DescribeAppliance` アクションを使用して `my-appliance` リソースにアクセスできるように、管理者にポリシーの更新を依頼します。

`iam:PassRole` を実行することが認可されていません。

`iam:PassRole` アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、ポリシーを更新して AWS Panorama にロールを渡すことができるようにする必要があります。

一部の AWS のサービスでは、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、既存のロールをそのサービスに渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡すアクセス許可が必要です。

次のエラー例は、`marymajor` という IAM ユーザーがコンソールを使用して AWS Panorama でアクションを実行しようする場合に発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与されたアクセス許可が必要です。Mary には、ロールをサービスに渡すアクセス許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに `iam:PassRole` アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

AWS 自分のアカウント以外のユーザーに AWS Panorama リソースへのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- AWS Panoramaがこれらの機能をサポートしているかどうかを確認するには、「[AWS Panorama が IAM と連携する仕組み](#)」を参照してください。

- 所有 AWS アカウントしている のリソースへのアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイドの [「所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する」](#) を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの [「サードパーティーが所有する へのアクセスを提供する AWS アカウント」](#) を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイドの [外部で認証されたユーザー \(ID フェデレーション\) へのアクセスの許可](#) を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用法の違いについては、「IAM ユーザーガイド」の [「IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス」](#) を参照してください。

AWS Panorama のコンプライアンス検証

AWS のサービスが特定のコンプライアンスプログラムの範囲内にあるかどうかを確認するには、「[コンプライアンスAWSのサービスプログラムによる対象範囲内](#)」の「コンプライアンス」を参照して、関心のあるコンプライアンスプログラムを選択します。一般的な情報については、[AWS「コンプライアンスプログラム」](#)を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「[Downloading Reports in AWS Artifact](#)」を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS のサービスは、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。を使用する際のコンプライアンス責任の詳細については AWS のサービス、[AWS「セキュリティドキュメント」](#)を参照してください。

人がいる場合に関するその他の考慮事項

人がいる可能性があるシナリオで AWS Panorama を使用する際に考慮すべきいくつかのベストプラクティスを以下に示します：

- ユースケースに適用されるすべての法律と規制を把握し、遵守していることを確認してください。これには、カメラの位置や視野に関する法律、カメラを設置・使用する際の通知や標識の要件、プライバシー権を含む映像に映り込む可能性のある人々の権利などが含まれる場合があります。
- カメラが人々とプライバシーに及ぼす影響を考慮に入れてください。法的な要件に加え、人々がカメラで撮影されていることに驚かないように、カメラが設置されている場所に告知を行うことが適切かどうか、また、カメラは見通しの良い場所に、遮蔽物のないように設置すべきかどうかを検討してください。
- カメラの操作とカメラから取得したデータの確認については、適切なポリシーと手順を整備してください。
- カメラから取得したデータの適切なアクセス制御、使用制限、保存期間を検討してください。

AWS Panorama のインフラストラクチャセキュリティ

マネージドサービスである AWS Panorama は、AWS グローバルネットワークセキュリティで保護されています。AWS セキュリティサービスと [AWS インフラストラクチャ](#) を保護する方法については、[AWS 「クラウドセキュリティ」](#) を参照してください。インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して環境を AWS 設計するには、「Security Pillar AWS Well-Architected Framework」の「[Infrastructure Protection](#)」を参照してください。

AWS 公開された API コールを使用して、ネットワーク経由で AWS Panorama にアクセスします。クライアントは以下をサポートする必要があります。

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードは Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

データセンターへの AWS Panorama アプライアンスのデプロイ

AWS Panorama アプライアンスは、AWS サービスと通信するためにインターネットアクセスが必要です。また、カメラの内部ネットワークへのアクセスも必要です。ネットワーク構成を慎重に検討し、必要なアクセスのみを各デバイスに提供することが重要です。AWS Panorama アプライアンスが機密性の高い IP カメラネットワークへのブリッジとして機能するように構成されている場合は注意してください。

お客様は次を行う必要があります。

- AWS Panorama アプライアンスの物理的および論理的なネットワークセキュリティ。
- AWS Panorama アプライアンスを使用する際に、ネットワークに接続されたカメラを安全に操作する。
- AWS Panorama アプライアンスとカメラソフトウェアを最新の状態に保つ。
- プライバシーに関するものも含め、本番環境から収集する動画や画像のコンテンツに関連する適用法や規制を遵守する。

AWS Panorama アプライアンスは暗号化されていない RTSP カメラストリームを使用します。AWS Panorama アプライアンスをネットワークに接続する方法の詳細については、[AWS Panorama アプライアンスをネットワークに接続します](#) を参照してください。暗号化の詳細については、[AWS Panorama でのデータ保護](#) を参照してください。

AWS Panorama ランタイム環境ソフトウェア

AWS Panorama は、AWS パノラマアプライアンス上の Ubuntu Linux ベースの環境でアプリケーションコードを実行するソフトウェアを提供します。AWS Panorama は、アプライアンスイメージ内のソフトウェアを最新の状態に保つ責任があります。AWS Panorama は定期的にソフトウェアアップデートをリリースしており、これは [Panorama コンソールを使用して](#) 適用できます。

ライブラリをアプリケーションコードで使用するには、アプリケーションの Dockerfile にライブラリをインストールします。ビルド全体でアプリケーションの安定性を確保するには、各ライブラリの特定のバージョンを選択してください。セキュリティ上の問題に対処するため、依存関係を定期的に更新してください。

リリース

次の表は、AWS Panorama サービス、ソフトウェア、ドキュメントの機能およびソフトウェア更新がいつリリースされたかを示しています。すべての機能にアクセスできるようにするには、[AWS Panorama アプライアンスを最新のソフトウェアバージョンに更新します](#)。詳細については、「リンク先のトピック」を参照してください。

変更	説明	日付
サポート終了通知	サポート終了通知: 2026 年 5 月 31 日、AWS はサポートを終了します AWS Panorama。2026 年 5 月 31 日以降、AWS Panorama コンソールまたは AWS Panorama リソースにアクセスできなくなります。詳細については、 AWS Panorama 「サポート終了」 を参照してください。	2025 年 5 月 20 日
更新されたマネージドポリシー	AWS Identity and Access Management の マネージドポリシーが更新され AWS Panorama ました。詳細については、「 AWS マネージドポリシー 」を参照してください。	2024 年 12 月 10 日
アプライアンスソフトウェア更新	バージョン 7.0.13 は、アプライアンスがソフトウェア更新を管理する方法を変更するメジャーバージョン更新です。アプライアンスからのネットワーク通信の送信を制限するか、プライベート VPC サブネットに接続する場合は、更新を適用する前に追加のエン	2023 年 12 月 28 日

	<p>ドポイントとポートへのアクセスを許可する必要があります。詳細については、「変更ログ」を参照してください。</p>	
アプライアンスソフトウェア更新	<p>バージョン 6.2.1 にはバグ修正が含まれています。詳細については、「変更ログ」を参照してください。</p>	2023 年 9 月 6 日
アプライアンスソフトウェア更新	<p>バージョン 6.0.8 では、バグ修正とセキュリティの向上が含まれています。詳細については、「変更ログ」を参照してください。</p>	2023 年 7 月 6 日
アプライアンスソフトウェア更新	<p>バージョン 5.1.7 には、バグ修正とエラー処理の改善が含まれています。詳細については、「変更ログ」を参照してください。</p>	2023 年 3 月 31 日
コンソールの更新	<p>管理コンソールから AWS Panorama アプライアンスを購入できるようになりました。デバイスを購入する権限をユーザーに付与するには、「AWS Panorama の ID ベース IAM ポリシー」を参照してください。</p>	2023 年 2 月 2 日
アプライアンスソフトウェア更新	<p>バージョン 5.0.74 には、バグ修正とエラー処理の改善が含まれています。詳細については、「変更ログ」を参照してください。</p>	2023 年 1 月 23 日

[API 更新](#)

アプライアンスソフトウェアのメジャーバージョン更新をオプトインする AllowMajorVersionUpdate オプションが OTAJobConfig に追加されました。詳細については、「[CreateJobForDevice](#)」を参照してください。

2023 年 1 月 19 日

[開発者向けの新しいツール](#)

新しいツール「サイドロード」が AWS Panorama サンプル GitHub リポジトリで利用できます。このツールを使えば、コンテナを構築してデプロイしなくてもアプリケーションコードを更新できます。詳細については、「[README](#)」を参照してください。

2022 年 11 月 16 日

[アプリケーションベースのイメージの更新](#)

バージョン 1.2.0 では、video_in.get() にタイムアウトオプションを追加し、AWS_REGION 環境変数を設定し、エラー処理を改善しています。詳細については、「[変更ログ](#)」を参照してください。

2022 年 11 月 16 日

[アプライアンスソフトウェア更新](#)

バージョン 5.0.42 には、バグ修正とセキュリティアップデートが含まれています。詳細については、「[変更ログ](#)」を参照してください。

2022 年 11 月 16 日

アプライアンスソフトウェア更新	バージョン 5.0.7 では、 アプライアンスのリモート再起動とカメラストリームのリモートでの一時停止 のサポートが追加されています。詳細については、「 変更ログ 」を参照してください。	2022 年 10 月 13 日
アプライアンスソフトウェア更新	バージョン 4.3.93 では、 オフラインデバイスからのログ取得 のサポートが追加されています。詳細については、「 変更ログ 」を参照してください。	2022 年 8 月 24 日
アプライアンスソフトウェア更新	バージョン 4.3.72 には、バグ修正とセキュリティアップデートが含まれています。詳細については、「 変更ログ 」を参照してください。	2022 年 6 月 23 日
AWS PrivateLink のサポート	AWS Panorama は、プライベートサブネットから AWS Panorama リソースを管理する VPC エンドポイントをサポートします。詳細については、「 VPC エンドポイントの使用 」を参照してください。	2022 年 6 月 2 日
アプライアンスソフトウェア更新	バージョン 4.3.55 では、 console_output ログ のストレージ使用率が向上しています。詳細については、「 変更ログ 」を参照してください。	2022 年 5 月 5 日

[レノボ ThinkEdge® SE70](#)

用の新しいアプライアンス
AWS Panorama は レノボから
入手できます。Nvidia Jetson
Xavier NX を搭載した レノボ
ThinkEdge® SE70 は、AWS
Panorama アプライアンスと
同じ機能をサポートしていま
す。詳細については、「[互換
性のあるデバイス](#)」を参照し
てください。

2022 年 4 月 6 日

[アプリケーションベースのイ メージの更新](#)

バージョン 1.1.0 では、[バッ
クグラウンドスレッド](#)実行時
のパフォーマンスが向上し、
イメージが最新かどうかを
示すフラグ ([is_cached](#)) がメ
ディアオブジェクトに追加さ
れました。詳細については、
「[gallery.ecr.aws](#)」を参照して
ください。

2022 年 3 月 29 日

[アプライアンスソフトウェア 更新](#)

バージョン 4.3.45 では [GPU
アクセス](#)と [インバウンドポー
ト](#)のサポートが追加されてい
ます。詳細については、「[変
更ログ](#)」を参照してくださ
い。

2022 年 3 月 24 日

[アプライアンスソフトウェア 更新](#)

バージョン 4.3.35 はセキュリ
ティとパフォーマンスを向上
させます。詳細については、
「[変更ログ](#)」を参照してくだ
さい。

2022 年 2 月 22 日

[更新されたマネージドポリシー](#)

AWS Identity and Access Management の マネージドポリシーが更新され AWS Panorama ました。詳細については、「[AWS マネージドポリシー](#)」を参照してください。

2022 年 1 月 13 日

[プロビジョニングログ](#)

アプライアンスソフトウェア 4.3.23 では、アプライアンスはプロビジョニング中に USB ドライブにログを書き込みます。詳細については、「[ログ](#)」を参照してください。

2022 年 1 月 13 日

[NTP サーバーの設定](#)

クロック同期に特定の NTP サーバーを使用するように AWS Panorama アプライアンスを設定できるようになりました。アプライアンスのセットアップ中に、他のネットワーク設定を使用して NTP 設定を行います。詳細については、「[セットアップ](#)」を参照してください。

2022 年 1 月 13 日

[追加のリージョン](#)

AWS Panorama が、アジアパシフィック (シンガポール) およびアジアパシフィック (シドニー) リージョンで利用可能になりました。

2022 年 1 月 13 日

アプライアンスソフトウェア更新	バージョン4.3.4では、precisionMode モデル設定のサポートが追加され、ロギング動作が更新されません。詳細については、「 変更ログ 」を参照してください。	2021年11月8日
更新されたマネージドポリシー	AWS Identity and Access Management のマネージドポリシーが更新され AWS Panorama ました。詳細については、「 AWS マネージドポリシー 」を参照してください。	2021年10月20日
一般提供	AWS Panorama は、米国東部 (バージニア北部)、米国西部 (オレゴン)、欧州 (アイルランド)、カナダ (中部) リージョンのすべてのお客様にご利用いただけるようになりました。AWS Panorama アプライアンスを購入するには、「 AWS Panorama 」を参照してください。	2021年10月20日
プレビュー	AWS Panorama は、米国東部 (バージニア北部) および米国西部 (オレゴン) リージョンで招待により利用できます。	2020年12月1日